

※※ 注意 ※※

本書に記載されている設定バーコードはMS852LR 超ロングレンジ 2D スキャナのみで使用できる設定です。下記のリストに記された機種以外では使用できません。該当機器以外に適用した場合は、例え同じ系統の機器でも操作不能となる場合があります。

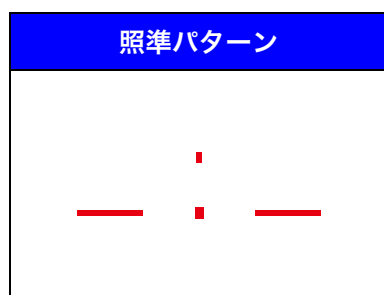
対象機器リスト

モデル名	インターフェースケーブル	AUTO SWITCHING
MS852-OUCB00-SG	USB ケーブル	非対応

対象機器の確認方法

スキャナ本体のトリガー付近または製品箱の製品ラベルをご確認ください。

スキャナ本体	<p>CAUTION : LASER LIGHT-DO NOT STARE INTO BEAM RAYONNEMENT LASER-NE PAS REGARDER DANS LE FAISCEAU. MAX. 1 mW, 650 nm. IEC 60825-1:2007 and IEC 60825-1:2014. Pulse duration of 16.8 mSec. Complies with 21CFR 1040.10 and 1040.11 except for deviations pursuant to Laser Notice No. 50, dated June 24, 2007.</p> <p>MODEL : MS852LR 2D Imager Long Range Scanner 長距離 2D 線形画像描写器</p> <p>S/N: 1234567890 MS852-OUCB00-SG</p> <p>CLASS 2 LASER PRODUCT. APPAREIL A LASER DE CLASSE 2. Made In Taiwan 台灣製造 / Product of unitech</p> <p>D35280 RoHS</p>																					
製品箱	<p>MS852-OUCB00-SG</p> <p>S/N: 1234567890</p> <table border="1"><tbody><tr><td>✓</td><td>Scan Engine</td><td>Long Range (ZB)</td></tr><tr><td>U</td><td>Interface</td><td>USB</td></tr><tr><td>C</td><td>Communication</td><td>Cord</td></tr><tr><td>B</td><td>Cable</td><td>Black straight cable</td></tr><tr><td>O</td><td>Power supply</td><td>N/A</td></tr><tr><td>O</td><td>Accessory</td><td>N/A</td></tr><tr><td>SG</td><td>Package</td><td>Standard</td></tr></tbody></table> <p>UPC: 850003603841</p> <p>CE FC RoHS</p> <p>WARNING Cancer and Reproductive Harm -www.P65Warnings.ca.gov.</p> <p>Made in Taiwan 台灣製造 Product of unitech</p>	✓	Scan Engine	Long Range (ZB)	U	Interface	USB	C	Communication	Cord	B	Cable	Black straight cable	O	Power supply	N/A	O	Accessory	N/A	SG	Package	Standard
✓	Scan Engine	Long Range (ZB)																				
U	Interface	USB																				
C	Communication	Cord																				
B	Cable	Black straight cable																				
O	Power supply	N/A																				
O	Accessory	N/A																				
SG	Package	Standard																				



超ロングレンジ 2D スキャナ

MS852LR

ユーザーマニュアル



取扱説明書

Version 1.0

1. 目次

1. 目次.....	3
2. はじめに.....	14
2.1. 改訂履歴.....	14
2.2. 本マニュアルについて.....	14
2.3. 各認証について.....	15
2.3.1. 電波障害自主規制.....	15
2.3.2. RoHS について.....	15
2.4. 製品操作と保管について.....	15
2.5. 電源アダプタについて.....	15
2.6. レーザーについての情報.....	15
2.7. サービス・サポートについて.....	16
2.7.1. メーカー標準保証期間.....	16
2.7.2. 初期不良について.....	16
2.7.3. 修理保守サービスについて.....	16
2.8. 各部名称.....	17
2.8.1. MS852LR 本体.....	17
2.9. インターフェースケーブル.....	18
2.9.1. インターフェースポートの信号.....	18
2.9.2. USB インターフェースケーブル (1550-900127G).....	19
2.9.3. Y ケーブル (1550-905902G).....	19
2.9.4. マイクロ USB インターフェースケーブル (1550-900084G).....	19
2.10. パッケージ内容.....	20
2.11. アクセサリ (別売).....	20
3. 基本操作.....	21
3.1. ホストとの接続概要.....	21
3.1.1. USB ケーブルでの接続.....	21
3.1.1.1. USB3.0 ポートとの接続.....	21
3.1.1.2. USB2.0 ポートとの接続.....	21
3.2. インターフェースケーブルの交換.....	22
3.3. ハンドフリースタンドへの設置.....	22
3.4. ビープ/LED インジケータ.....	23
3.5. 基本的なバーコードの読取り方.....	24
3.6. 日本語出力への対応について.....	24
4. 仕様.....	25

5. 対応シンボル初期値一覧.....	27
6. 設定方法について.....	28
7. システム設定.....	29
7.1. 設定値の初期化.....	29
7.2. カスタム設定への初期化 (USB モデル)	29
7.3. カスタム設定の登録.....	30
7.4. バージョン表示.....	31
7.5. 設定バーコードの読取.....	31
7.6. 設定バーコードのロック/アンロック.....	32
8. USB インターフェース設定.....	33
8.1. USB デバイスタイプ	33
8.2. 不明な文字の無視.....	34
8.3. SNAPI ステータスハンドシェイク	34
8.4. キーストロークディレイ	35
8.5. Caps Lock オーバーライド	35
8.6. キーパッドエミュレート	36
8.7. ゼロ付きキーパッドエミュレート	36
8.8. ファンクションキーマッピング設定	37
8.9. Caps Lock シミュレート.....	37
8.10. 大文字/小文字の変換.....	38
8.11. FNC1 置換設定	38
8.12. FNC1 置換値.....	39
8.13. クイックキーパッドエミュレート	39
8.14. USB オプションパラメータ.....	40
8.14.1. TGCS (IBM) USB ダイレクト I/O ビープ.....	40
8.14.2. TGCS (IBM) USB ビープ指示.....	40
8.14.3. TGCS (IBM) USB バーコード設定指示.....	41
8.14.4. 不明なバーコードタイプを Code39 に変換する.....	41
8.14.5. IBM 仕様バージョン.....	42
8.14.6. 高速 HID キーボード	42
8.14.7. USB ポーリング間隔.....	43
8.15. CDC オプションパラメータ	44
8.15.1. 静的 USB CDC.....	44
9. カントリーコード.....	45
9.1. キーボードレイアウト.....	45
10. カントリーコードページ.....	53

10.1. はじめに	53
10.2. 初期値テーブル	53
10.3. カントリーコードページ	57
11. データ送信設定	63
11.1. 送信データフォーマットについて	63
11.2. コード ID の送信	63
11.2.1. コード ID テーブル	64
11.2.2. AIM コード ID	65
11.2.2.1. コード文字テーブル	65
11.2.2.2. 修飾文字テーブル	66
11.3. プリフィックスとサフィックス	69
11.3.1. USB 通信でよく使われるプリフィックスとサフィックス	70
11.3.2. シリアル通信でよく使われるプリフィックスとサフィックス	71
11.4. 送信データフォーマット	72
11.5. “読取なし”メッセージの送信	73
12. インジケータ設定	74
12.1. 読取成功後のビープ音	74
12.2. 電源投入時のビープ音	74
12.3. ビープ音の音量	75
12.4. ビープ音の音程	75
12.5. ビープ音の鳴動時間	76
12.6. ダイレクトデコードインジケータ	76
12.7. [BEL]コマンド	77
13. トリガー操作設定	78
13.1. スキャンモード	78
13.2. 連続読取りモード	79
13.3. ユニークバーコードの読取り	79
13.4. ピックリストモード	80
13.5. 屋外ピックリストモード	80
13.6. 読取りセッションタイムアウト	81
13.7. 同一バーコードの読取間隔	81
13.8. 異なるバーコードの読取間隔	82
13.9. 照準パターンの切り替え	83
13.10. 照準パターンの明るさ	83
13.11. 照明の切り替え	84
13.12. 照明の明るさ	85

13.13. バーコード検出支援	86
13.14. 視界調整	86
13.15. 携帯電話/ディスプレイモード	87
14. バーコード読取設定	88
14.1. 全てのバーコードの読取り	88
14.2. UPC/JAN	89
14.2.1. UPC-A の読取り	89
14.2.2. UPC-E の読取り	89
14.2.3. UPC-E1 の読取り	89
14.2.4. JAN-8 の読取り	90
14.2.5. JAN-13 の読取り	90
14.2.6. ISBN の読取り	90
14.2.7. UPC/JAN アドオンコードの読取り	91
14.2.8. ユーザー定義アドオン	93
14.2.9. アドオンコードの確認回数	93
14.2.10. アドオンコードの AIM ID フォーマット	94
14.2.11. UPC 縮小クワイエットゾーン	94
14.2.12. UPC-A チェックデジットの送信	95
14.2.13. UPC-E チェックデジットの送信	95
14.2.14. UPC-E1 チェックデジットの送信	95
14.2.15. UPC-A プリアンブル	96
14.2.16. UPC-E プリアンブル	97
14.2.17. UPC-E1 プリアンブル	98
14.2.18. UPC-E を UPC-A に拡張	99
14.2.19. UPC-E1 を UPC-A に拡張	99
14.2.20. JAN-8 を JAN-13 に拡張	99
14.2.21. ISBN の出力フォーマット	100
14.2.22. UCC クーポン拡張コード	100
14.2.23. クーポンフォーマット	101
14.2.24. ISSN の読取り	101
14.3. Code128	102
14.3.1. Code128 の読取り	102
14.3.2. Code128 読取り桁数	102
14.3.3. GS1-128 の読取り	103
14.3.4. ISBT 128 の読取り	103
14.3.5. ISBT 連結	104
14.3.6. ISBT テーブルチェック	104
14.3.7. ISBT 連結冗長性	105
14.3.8. Code128 セキュリティレベル	106
14.3.9. Code128 縮小クワイエットゾーン	107
14.3.10. Code128 <FNC4>	107
14.4. Code39	108

14.4.1. Code39 の読取り	108
14.4.2. Trioptic Code 39 の読取り	108
14.4.3. Code39 を Code32 に変換	109
14.4.4. Code32 プリフィックス	109
14.4.5. Code39 読取り桁数	110
14.4.6. Code39 チェックデジットの検査	111
14.4.7. Code39 チェックデジットの送信	111
14.4.8. Code39 読取りフォーマット	111
14.4.9. Code39 セキュリティレベル	112
14.4.10. Code39 縮小クワイエットゾーン	113
14.5. Code93	114
14.5.1. Code93 の読取り	114
14.5.2. Code93 読取り桁数	114
14.6. Code11	115
14.6.1. Code11 の読取り	115
14.6.2. Code11 読取り桁数	115
14.6.3. Code11 チェックデジットの検査	116
14.6.4. Code11 チェックデジットの送信	116
14.7. ITF (Interleaved 2 of 5)	117
14.7.1. ITF の読取り	117
14.7.2. ITF 読取り桁数	117
14.7.3. ITF チェックデジットの検査	118
14.7.4. ITF チェックデジットの送信	118
14.7.5. ITF を JAN13 に変換する	119
14.7.6. ITF セキュリティレベル	120
14.7.7. ITF 縮小クワイエットゾーン	121
14.8. Discrete 2 of 5	122
14.8.1. Discrete 2 of 5 の読取り	122
14.8.2. Discrete 2 of 5 読取り桁数	122
14.9. NW-7 (codabar)	123
14.9.1. NW-7 の読取り	123
14.9.2. NW-7 読取り桁数	123
14.9.3. NW-7 CLSI 編集	124
14.9.4. NW-7 セキュリティレベル	125
14.9.5. NW-7 スタート・ストップキャラクタの送信	126
14.9.6. NW-7 スタート・ストップキャラクタの文字種	126
14.9.7. NW-7 Mod16 チェックデジットの検査	127
14.9.8. NW-7 Mod16 チェックデジットの送信	127
14.10. MSI	128
14.10.1. MSI の読取り	128
14.10.2. MSI 読取り桁数	128
14.10.3. MSI チェックデジットの検査	129
14.10.4. MSI チェックデジットの送信	129

14.10.5. MSI チェックデジットのアルゴリズム	130
14.10.6. MSI 縮小クワイエットゾーン	130
14.11. Chinese 2 of 5	131
14.11.1. Chinese 2 of 5 の読取り	131
14.12. Matrix 2 of 5	132
14.12.1. Matrix 2 of 5 の読取り	132
14.12.2. Matrix 2 of 5 読取り桁数	132
14.12.3. Matrix 2 of 5 チェックデジットの検査	133
14.12.4. Matrix 2 of 5 チェックデジットの送信	133
14.13. GS1 Databar	134
14.13.1. GS1 Databar Omnidirectional の読取り	134
14.13.2. GS1 Databar Limited の読取り	134
14.13.3. GS1 Databar Expanded の読取り	134
14.13.4. GS1 Databar を UPC/JAN に変換	135
14.13.5. GS1 Databar Limited マージンチェックレベル	136
14.13.6. GS1 Databar セキュリティレベル	137
14.14. 合成シンボル	138
14.14.1. CC-C の読取り	138
14.14.2. CC-A/B の読取り	138
14.14.3. TLC-39 の読取り	139
14.14.4. 反転合成シンボル	140
14.14.5. UPC 合成モード	141
14.14.6. ビープモード	141
14.14.7. UCC/EAN 合成シンボルを GS1-128 に変換	142
14.15. PDF417	143
14.15.1. PDF417 の読取り	143
14.15.2. Micro PDF417 の読取り	143
14.15.3. Code128 エミュレーション	144
14.15.4. PDF417 優先	144
14.15.5. PDF417 優先タイムアウト	145
14.16. Data Matrix	146
14.16.1. Data Matrix の読取り	146
14.16.2. GS1 Data Matrix の読取り	146
14.16.3. Data Matrix 反転イメージの読取り	147
14.17. Maxicode	148
14.17.1. Maxicode の読取り	148
14.18. QR コード	149
14.18.1. QR コードの読取り	149
14.18.2. GS1 QR コードの読取り	149
14.18.3. Micro QR コードの読取り	149
14.18.4. QR コードの連結機能について	150
14.19. Aztec	151

14.19.1. Aztec の読取り	151
14.19.2. Aztec 反転イメージの読取り	151
14.20. Han Xin	152
14.20.1. Han Xin の読取り	152
14.20.2. Han Xin 反転イメージの読取り	152
14.21. Grid Matrix	153
14.21.1. Grid Matrix の読取り	153
14.21.2. Grid Matrix 反転イメージの読取り	153
14.21.3. Grid Matrix 鏡面イメージの読取り	154
14.22. DotCode	155
14.22.1. DotCode の読取り	155
14.22.2. DotCode 反転イメージの読取り	155
14.22.3. DotCode 鏡面イメージの読取り	156
14.22.4. DotCode 優先	156
14.23. 郵便バーコード	157
14.23.1. US Postnet の読取り	157
14.23.2. US Planet の読取り	157
14.23.2.1. US Postal チェックデジットの送信	157
14.23.3. UK Postal の読取り	158
14.23.3.1. UK Postal チェックデジットの送信	158
14.23.4. 日本郵便カスタマバーコードの読取り	158
14.23.5. Australia Post の読取り	159
14.23.5.1. Australia Post フォーマット	159
14.23.6. Netherlands KIX コードの読取り	160
14.23.7. USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail の読取り	160
14.23.8. UPU FICS Postal の読取り	160
14.23.9. Mailmark の読取り	161
14.23.10. Korea Postal の読取り	161
14.24. オプション設定	162
14.24.1. 反転 1 次元バーコード	162
14.24.2. 2 値バーコードのセキュリティレベル	163
14.24.3. 4 値バーコードのセキュリティレベル	164
14.24.4. 1 次元コードのクワイエットゾーンレベル	165
14.24.5. 文字間ギャップサイズ	166
14.24.6. 優先シンボル	166
14.24.7. マクロ PDF417	167
14.24.7.1. バッファの送信	167
14.24.7.2. エントリの中止	167
15. Digimarc® Barcode	168
15.1. Digimarc Barcode の読取り	169
16. OCR プログラミング	170
16.1. はじめに	170

16.2. OCR-A の読取り	171
16.3. OCR-A バリエント	172
16.4. OCR-B の読取り	174
16.5. OCR-B バリエント	175
16.6. MICR E13B の読取り	179
16.7. US Currency Serial Number の読取り	180
16.8. OCR 読取り方向	181
16.9. OCR 読取り行数	182
16.10. OCR 最小文字数	182
16.11. OCR 最大文字数	182
16.12. OCR サブセット	183
16.13. OCR クワイエットゾーン	183
16.14. OCR テンプレート	184
16.14.1. 数字必須	184
16.14.2. 英字必須	185
16.14.3. 英数字オプション	185
16.14.4. 英字オプション	185
16.14.5. 英字または数字	186
16.14.6. スペース/リジェクトを含む任意の文字	186
16.14.7. スペース/リジェクトを除く任意の文字	186
16.14.8. 数字オプション	187
16.14.9. 数字または埋め文字	187
16.14.10. 英字または埋め文字	187
16.14.11. スペースオプション	188
16.14.12. 特殊文字オプション	188
16.14.13. その他のテンプレート演算子	189
16.14.13.1. リテラル文字列	189
16.14.13.2. 改行	189
16.14.13.3. 文字列抽出	190
16.14.13.4. フィールドの終わりを無視す	190
16.14.13.5. XX に一致するまでスキップ	191
16.14.13.6. XX に非一致するまでスキップ	192
16.14.13.7. 繰り返し	193
16.14.13.8. テンプレートに一致するまでスクロール	193
16.14.13.9. 複数テンプレート	194
16.14.13.10. テンプレート例	194
16.15. OCR チェックデジットのモジュラス	195
16.16. OCR チェックデジットの乗数	196
16.17. OCR チェックデジットの検査	197
16.17.1. 検査なし	197

16.17.2. 積を左から右に計算.....	197
16.17.3. 積を右から左に計算.....	198
16.17.4. 桁を左から右に計算.....	199
16.17.5. 桁を右から左へ計算.....	200
16.17.6. チェックデジットを除いて積を右から左に計算.....	201
16.17.7. チェックデジットを除いて桁を右から左へ計算.....	202
16.17.8. 医療業界-HIBCC43.....	203
16.18. 反転 OCR	204
16.19. OCR 冗長化	205
17. CJK コントロール.....	206
17.1. CJK コントロールとは	206
17.2. CJK コントロールとデータ編集.....	206
17.3. CJK コントロールの動作確認リスト	206
17.4. Windows でのセットアップ.....	207
17.4.1. レジストリを変更します。	207
17.4.2. スキャナの設定を変更します	208
17.4.3. 読取りテストを行います	208
18. 標準設定値一覧.....	209
19. 123Scan².....	218
19.1. はじめに	218
19.2. 新しい設定を作成する	219
19.3. 現在の設定を編集する	223
19.4. 優先シンボルの設定について.....	226
19.4.1. 例：JAN コードだけを優先して出力する.....	226
19.5. データ編集について.....	227
19.5.1. ADF - Advanced Data Format.....	228
19.5.1.1. ADF 例 1：Code 39 の先頭と末尾に「*」を付加して送信する	228
19.5.1.2. ADF 例 2：NW-7 (codabar) の 3 桁目から 5 文字のデータを送信する.....	229
19.5.1.3. ADF 例 3：QR コード内のすべてのカンマ(,)を TAB に変更して送信する.....	230
19.5.1.4. ADF 例 4：先頭の文字によって出力方法を変更して送信する	231
19.5.1.5. ADF 例 5：複数のサフィックスを追加して送信する	232
19.5.2. MDF - Multicode Data Format.....	233
19.5.2.1. MDF 例 1：書籍用二段 JAN コードを 1 回のスキャンで読み取る.....	233
19.5.2.2. MDF 例 2：箱の異なる面のバーコードを 1 回のスキャンで読み取る	238
19.6. デバイスクローニング	241
19.6.1. デバイスクローニングとは.....	241
19.6.2. デバイスクローニングの注意事項	241
19.6.3. デバイスクローニングのセットアップ.....	241
19.7. ファームウェア更新.....	242
20. USB 仮想 COM エミュレーション.....	244

20.1. はじめに	244
20.2. セットアップ	244
20.2.1. ドライバのダウンロードとインストール	244
20.2.2. スキャナの設定を変更する	244
20.2.3. COM ポート番号の確認	245
20.2.4. COM ポートからのデータを受信する	245
20.3. RSWedge Unitech 版	245
20.3.1. はじめに	245
20.3.2. セットアップ例	246
20.3.3. データの受信確認	247
20.3.4. 受信したデータが文字化けしている場合	247
20.3.5. データを他のソフトウェアへ再送信させる	248
20.3.6. 起動時、自動実行について	249
21. SSI によるスキャナの制御について	250
21.1. はじめに	250
21.2. コマンドについて	250
21.3. 各フィールドの詳細	250
21.4. SSI コマンドリスト (一部)	251
21.4.1. CMD_ACK	252
21.4.2. CMD_NAK	253
21.4.3. START_DECODE	255
21.4.4. STOP_DECODE	256
21.4.5. BEEP	257
21.4.6. SCAN_ENABLE	259
21.4.7. SCAN_DISABLE	260
21.4.8. DECODE_DATA	261
21.4.8.1. コードタイプと識別子	262
21.4.8.2. 合成シンボルのデータフォーマット	266
21.5. SSI 設定バーコード	267
21.5.1. ソフトウェアハンドシェイク	267
21.5.2. ホストの RTS 制御線の状態	267
21.5.3. デコードデータパケットフォーマット	268
21.5.4. ホストシリアルレスポンスタイムアウト	268
21.5.5. ホストキャラクタタイムアウト	269
21.5.6. マルチパケットオプション	270
21.5.7. パケット間遅延	271
21.5.8. イベント通知	271
21.5.8.1. スキャナの動作に関する特定のイベント	271
21.5.8.2. 読取イベント	272
21.5.8.3. 起動イベント	272
21.5.8.4. 設定イベント	272
22. よくある質問	273

23. 各種ドライバ、ソフトウェア.....	277
24. ASCII 文字セット.....	278
24.1. ASCII テーブル.....	278
24.2. ALT キー文字セット.....	282
24.3. USB GUI 文字セット	283
24.4. PF キー文字セット	284
24.5. ファンクションキー文字セット	285
24.6. 数字キーパッド文字セット.....	286
24.7. 拡張キーパッド文字セット.....	287
25. 数字バーコード	288
26. 英数記号バーコード	290
27. テストバーコード	306

2. はじめに

2.1. 改訂履歴

Version	発行日	改訂履歴
1.0	2020年8月21日	● 日本語版正式リリース

2.2. 本マニュアルについて

本マニュアルは、MS852LR 超ロングレンジ 2D スキャナのインストール、操作、そして保守方法について説明しています。

本書のいかなる部分もユニテック社からの書面による許可なしで、いかなる形式でも、電子的あるいは機械的を問わず複製することはできません。これは、フォトコピー、レコーディング、あるいは情報の保存と検索システム等の電気的もしくは機械的な方法を含んでいます。

本書の内容は予告なく変更することがあります。

© Copyright 2020 Unitech Electronics Co., Ltd. すべての著作権は Unitech 社が保有しています。

Unitech グローバル Web サイトアドレス: <http://www.ute.com>

ユニテック・ジャパン Web サイトアドレス: <http://jp.ute.com>

2.3. 各認証について

2.3.1. 電波障害自主規制

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

2.3.2. RoHS について

本装置は欧州連合の規定である電子機器で使用される有害物質の含有についての制限 (Reduction Of Hazardous Substances、RoHS) に適合しております。



2.4. 製品操作と保管について

ユニテック製品には適用される動作温度や、保存温度条件があります。故障、破損、誤動作を避けるため、機器の制限に従ってください。

2.5. 電源アダプタについて

1. ユニテック製品を充電していないときは、電源アダプタをソケットから取り外してください。
2. バッテリーの充電が完了したら、電源アダプタを取り外してください。
3. ユニテック製品に付属している電源アダプタは、屋外使用は想定されていません。水や雨にさらされたり、高温や多湿の環境で使用したりすると、アダプタと製品の双方に損傷を与える可能性があります。
4. ユニテック製品の充電には、付属の電源アダプタのみをご使用ください。誤った電源アダプタを使用すると、製品が破損する可能性があります。

2.6. レーザーについての情報

Unitech 製品は、DHHS/CDRH 21 CFR Subchapter J 要件と IEC 825-1 要件に適合するために米国で認証されております。CDRH Class II 製品と IEC 825 Class 2 製品は危険であるとは考えられておりません。スキャナは上記の規制の最大値を越えることのない可視レーザダイオード (VLD) を内蔵しています。本製品は通常の使用や保守・修理作業において、レーザー光が人体に害を及ぼさないように設計されています。

レーザー警告文は、製品ラベルに記載されています。

注意！ 仕様外の方法でコントロール・調整・使用することは、レーザー光が危険となることがあります。スキャナを双眼鏡、顕微鏡、拡大鏡などの光学機器と一緒に使用すると目への危険が増加します。この光学機器には使用者がかけている眼鏡は含みません。

2.7. サービス・サポートについて

2.7.1. メーカー標準保証期間

当社のメーカー標準保証は、以下の保証期間中に通常の使用状況で発生した故障に対して適用されます。

- MS852LR スキャナ本体 — 3年間
- ケーブルなどを含むその他アクセサリ類 — 3ヶ月

保証は、機器の改造、不適切な取付けや使用、事故または不注意による落下等における損傷、あるいは何らかのパーツが不適切に取り付けられていたり、もしくはユーザーによってパーツを交換されていたりする場合は対象外となります。

2.7.2. 初期不良について

当社の初期不良対応期間は、ご購入後2週間です。これはご購入後使用していなかった期間も含まれます。ご購入後初期不良を確認した場合は、速やかにご購入いただいた代理店/販売店へご連絡ください。

初期不良の場合は、以下の場合を除き、原則、製品交換にて対応させていただきます。

- ご購入時の製品状態（本体、アクセサリ、マニュアル、梱包箱など）から欠品がある場合
- 使用者による破損など、通常保証の範囲外となる場合

2.7.3. 修理保守サービスについて

MS852LR の修理サービスをご希望のお客様は、ご購入いただいた代理店/販売店へご相談いただくか、弊社サービスセンターへ直接障害機をお送りください。

弊社サービスセンターへ直接お送りいただく場合は、必ず修理依頼書をご記入頂き障害機に同封してください。事前にメールやFAXをいただく必要はございません。修理依頼書と障害機が同梱されている場合は、障害機受領後、順番に対応させていただきます。修理依頼書は下記のリンクよりダウンロードすることができます(PDF または MS WORD)。

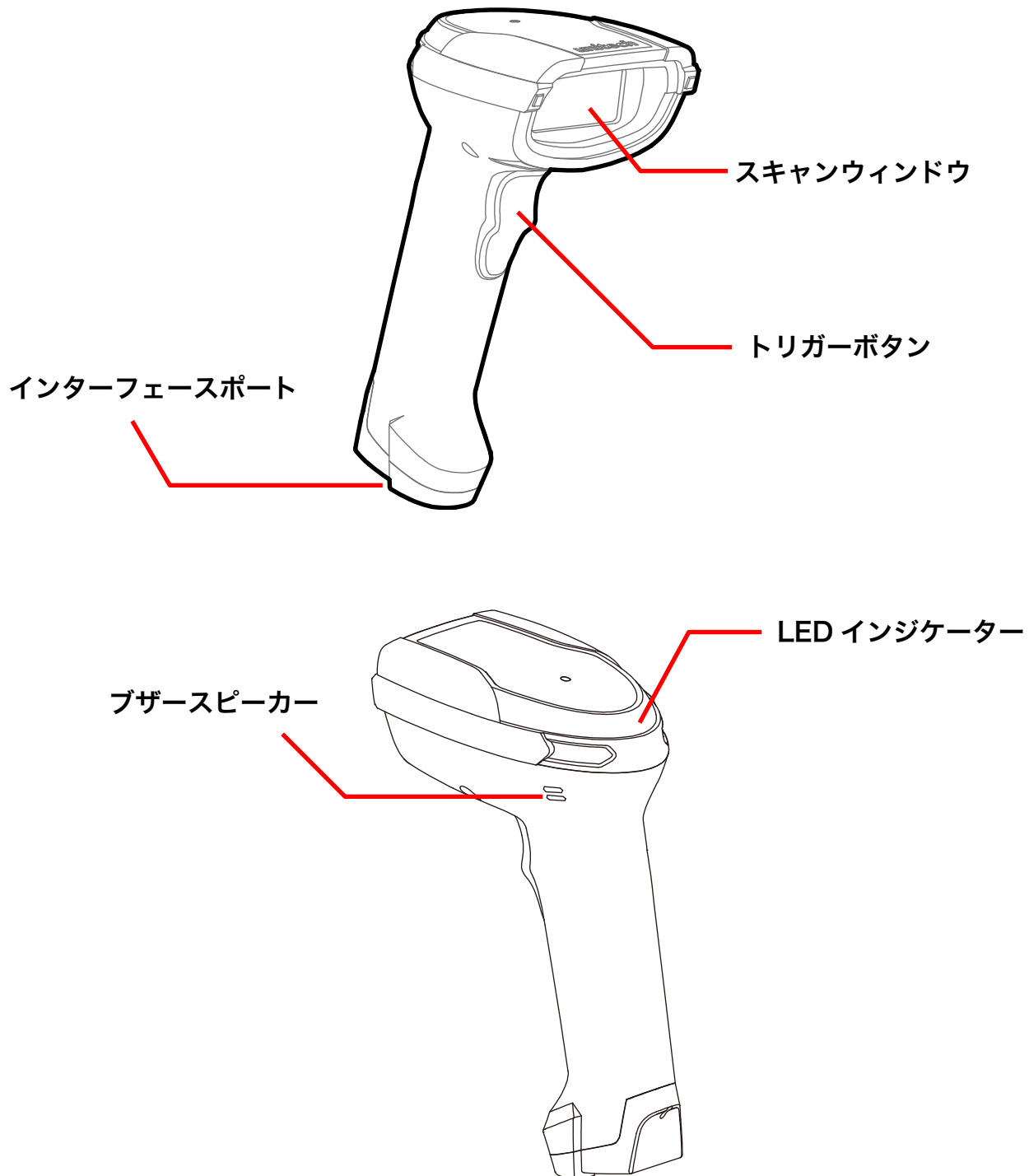
[PDF] http://www.unitech-japan.co.jp/service/download/service_request.pdf

[MS WORD] http://www.unitech-japan.co.jp/service/download/service_request.docx

修理費用のお見積りやお支払い方法など、修理ご依頼時の詳細については、修理依頼書に記載されております。上記ダウンロード後、必ずご一読ください。

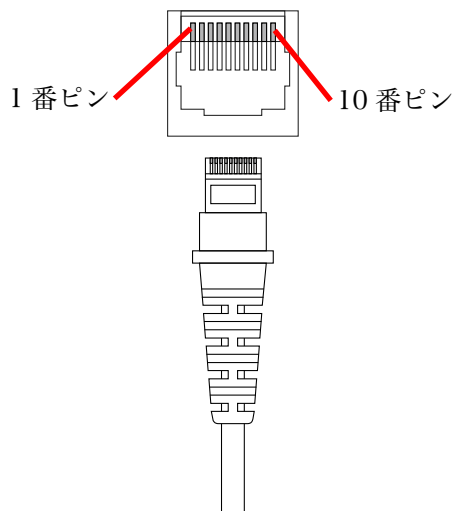
2.8. 各部名称

2.8.1. MS852LR 本体



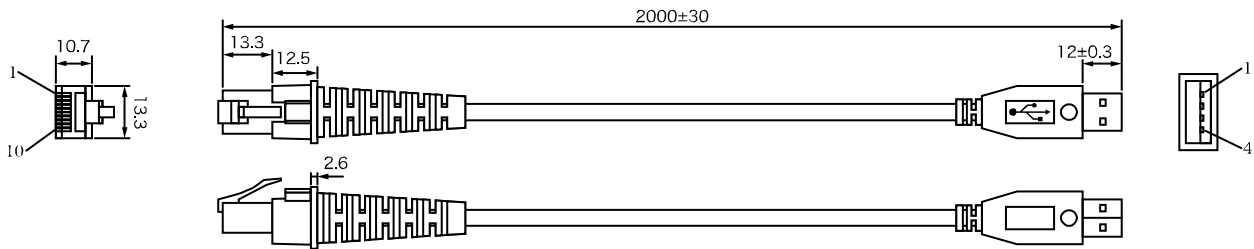
2.9. インターフェースケーブル

2.9.1. インターフェースポートの信号

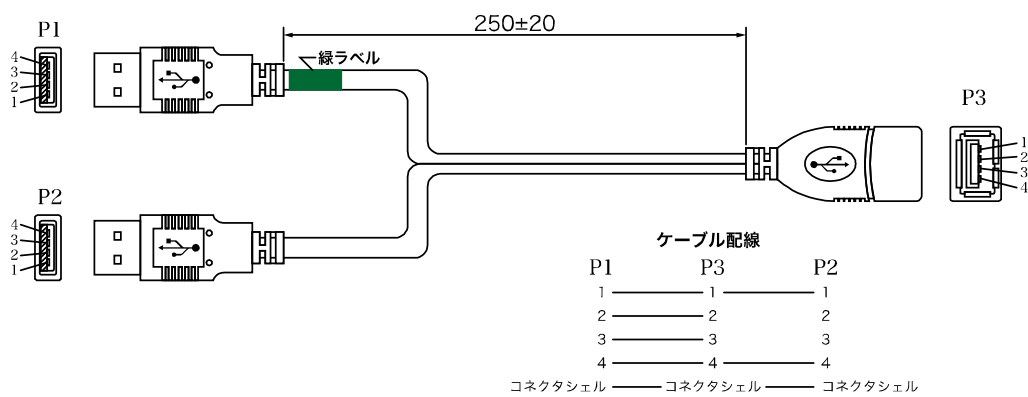


PIN	RS232C	USB
1		D+
2	VCC (+5V)	
3		GND
4	GND	コネクタシエル
5	RxD	
6	TxD	
7		VCC (+5V)
8	CTS	
9	RTS	
10		D-

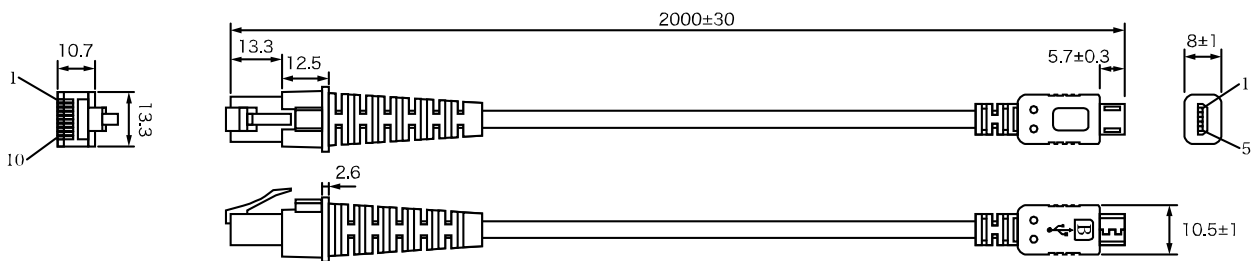
2.9.2. USB インターフェースケーブル (1550-900127G)



2.9.3. Y ケーブル (1550-905902G)



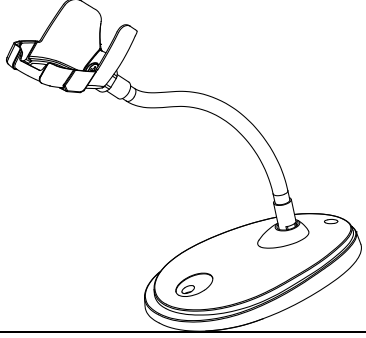
2.9.4. マイクロ USB インターフェースケーブル (1550-900084G)



2.10. パッケージ内容

MS852-OUCB00-SG	
スキャナ本体	✓
USB インターフェースケーブル	✓
Yケーブル	✓
クイックガイド	✓
保証書	✓
ユーザー登録カード	✓
無償延長保証について	✓

2.11. アクセサリ (別売)

製品番号	製品名	
5200-900009G	ハンドフリースタンド	
1550-900127G	USB インターフェースケーブル (交換用予備)	
1550-905902G	Yケーブル (交換用予備)	
1550-900084G	マイクロ USB インターフェースケーブル	

注 MS852-OUCB00-SG は、Auto Switching 機能をサポートしていないため、5200-900010G を使用しても Auto Switching 機能を使用することはできません。

注 スマートフォンやタブレットとマイクロ USB インターフェースケーブルを接続して使用する場合、電力供給不足により動作しない場合がありますので、事前に十分な検証をお勧めいたします。

3. 基本操作

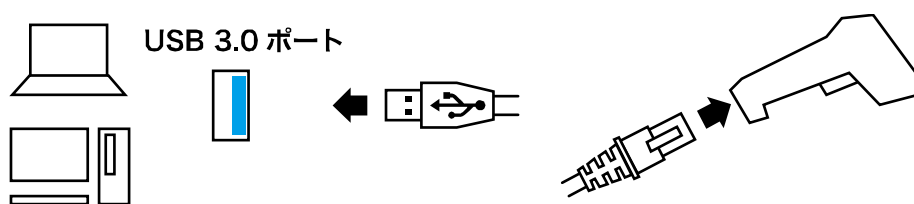
3.1. ホストとの接続概要

3.1.1. USB ケーブルでの接続

MS852LR は遠距離のバーコードを読取るために多くの電力を消費します。そのため、USB 2.0 の USB ポートへ接続する場合は、電力不足による遠距離での読取り不良を回避するため、付属の Y ケーブル (1550-905902G) を使用した 2 ポート接続を行います。

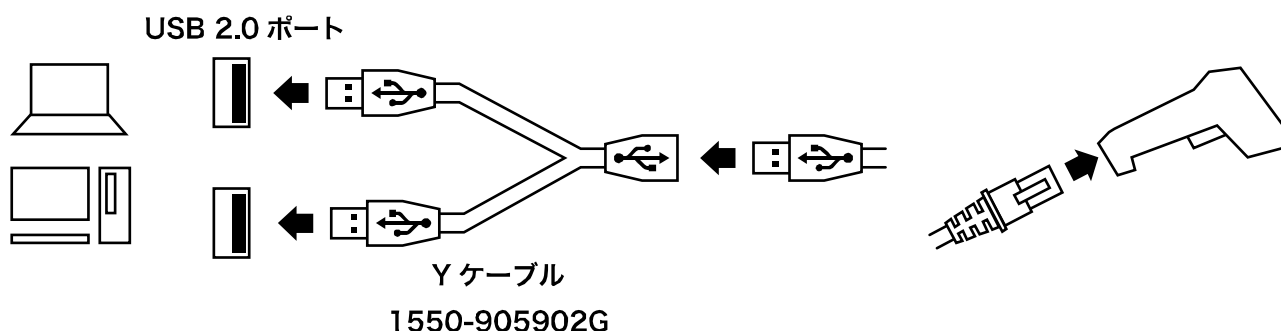
3.1.1.1. USB3.0 ポートとの接続

スキャナのインターフェースポートに USB インターフェースケーブルを接続し、反対側の USB コネクタをパソコンの **USB 3.0 ポート** に接続します。ホストでキーボード入力可能なソフトウェア (メモ帳やエクセルなど) を実行しておき、希望するバーコードを読取ります。



3.1.1.2. USB2.0 ポートとの接続

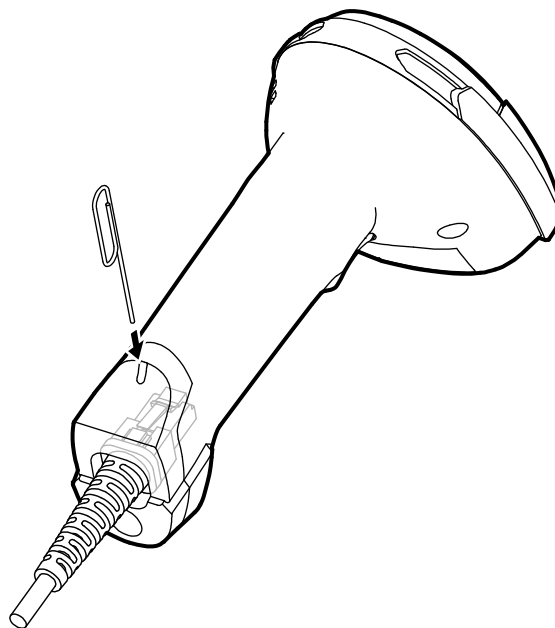
スキャナのインターフェースポートに USB インターフェースケーブルを接続し、反対側の USB コネクタを付属の Y ケーブルに接続します。Y ケーブルの 2 股に分かれた USB コネクタをパソコンの **2 つの USB 2.0 ポート** に接続します。ホストでキーボード入力可能なソフトウェア (メモ帳やエクセルなど) を実行しておき、希望するバーコードを読取ります。



3.2. インターフェースケーブルの交換

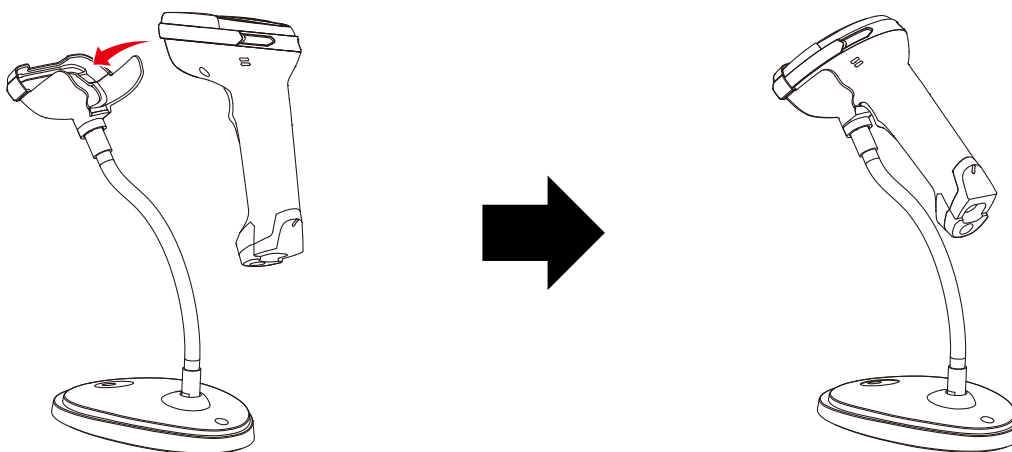
インターフェースケーブルを交換する場合は、次の手順に従って行ってください。

1. ホストの電源をオフにします。
2. スキャナをホストから取り外します。
3. スキャナのグリップ底部のケーブルの近くにある小さな穴を探します。
4. ペーパークリップの片方の端を真っ直ぐ伸ばします。
5. ペーパークリップの端を小さな穴に差し込み、ケーブルコネクタのラッチ（ツメ）を押し下げ、その状態のままケーブルを引き抜いて外します。
6. 新しいケーブルを接続するには、ケーブルコネクタをスキャナのグリップ底部の開口部に差し込み、しっかりとカチッとするまで押し込んでください。



3.3. ハンドフリースタンドへの設置

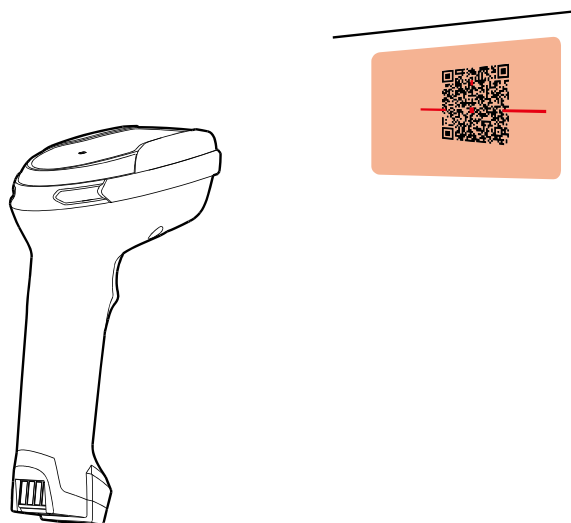
ハンドフリースタンドへスキャナのヘッドをはめ込むように設置してください。[13.1.スキャンモード](#) (78ページ) の**プレゼンテーション**を設定することで、バーコードの自動検出と読取りを自動化し、ハンドフリー操作が可能となります。



3.4. ビープ/LED インジケータ

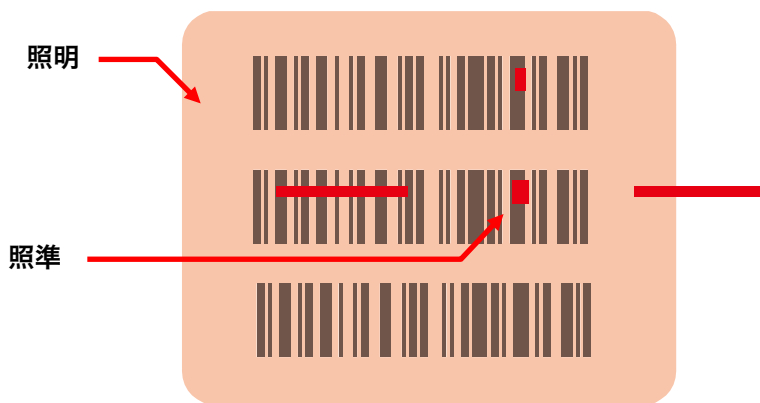
状態	ビープ	LED ランプ
電源投入	低音—中音—高音	緑 LED
トリガーが押されている	—	—
バーコードがデコードされた	1 回	緑 LED
データ送信エラー	長い 4 回の低音	—
変換またはフォーマットエラー	5 回の低音	緑 LED
設定中		
誤った設定バーコードのスキャン、 またはキャンセルバーコードのスキャン	低音—高音	緑 LED
数値をスキャン	高音—低音	緑 LED
設定の完了	高音—低音—高音—低音	緑 LED
データ編集設定中		
数値をスキャン	高音—低音	緑 LED
アルファベット、または「メッセージ終了」 バーコードをスキャン	低音—低音	緑 LED
続けてデータ編集用の設定バーコードをスキャン、 または「ルール保存」バーコードをスキャン	高音—高音	緑 LED 点滅
ルールを保存しデータ編集モードを終了	高音—低音—高音—低音	緑 LED
最後に保存されたルールだけが消去された	低音	緑 LED
すべてのルールが消去された	高音—低音—低音	緑 LED
ルールの作成が中止された	低音—高音—低音	緑 LED
誤ったバーコードをスキャンした	低音—高音	緑 LED

3.5. 基本的なバーコードの読取り方



照準パターンを中心（ドット）をバーコードの中央付近に合わせて読み取ります。スキャナは、できる限り中心の周辺から読取りを試みますが、必ず中心の周辺だけを読取るわけではありません。複数のバーコードが近距離に存在する場合は、より読みやすいバーコードを読み取ります。

照準パターンが重なったバーコードだけを読み取りたい場合は、[13.4.ピックリストモード](#)（80 ページ）を使用することを検討してください。



ピックリストモード無効（初期値）	ピックリストモード有効
読取り可能なバーコードのうち最も読取り易いバーコードを読み取ります。	照準の重なった、真ん中のバーコードを読み取ります。

3.6. 日本語出力への対応について

日本語を含んだ QR コードなどを正しく読み取って出力する場合、[17.CJK コントロール](#)（206 ページ）をお試し下さい。CJK コントロールでは対応できない場合、またはシリアル通信が必要な場合は [20.USB 仮想 COM エミュレーション](#)（244 ページ）による出力をお試しください。

4. 仕様

モデル		MS852-OUCB00-SG		
	受光素子		1280 x 800 ピクセル	
	光源	照明	660 nm ハイパーレッド LED	
		照準	655 nm 赤色レーザー (中心ドット : 0.6mW)	
	環境光		最大 107,639 lux (直射日光)	
	最小分解能	Code 39	0.0762 mm	
		PDF417	0.127 mm	
		Data Matrix	0.254 mm	
	スキュー角度		± 60°	
	ピッチ角度		± 60°	
	傾度		360°	
	視野角	水平	32.0° (近距離)、12.0° (遠距離)	
		垂直	20.0° (近距離)、7.6° (遠距離)	
	印刷コントラスト比		最小 25%	
	読み取り距離 ¹	Code 39	7.6cm~215.9cm	(細バーの幅 : 0.0762mm)
			10.2cm~436.9cm	(細バーの幅 : 0.508mm)
15.2cm~863.6cm			(細バーの幅 : 1.016mm)	
17.8cm~1092.2cm			(細バーの幅 : 1.397mm)	
50.8cm~1778.0cm			(細バーの幅 : 2.54mm) (台紙 : 紙素材)	
Code 128		15.2cm~254.0cm	(細バーの幅 : 0.381mm)	
		20.3cm~254.0cm	(細バーの幅 : 0.381mm) (バーコード全体の幅 : 10.16cm)	
		76.2cm~1778.0cm	(細バーの幅 : 2.54mm) (台紙 : 反射素材)	
100% UPC		8.9cm~228.6cm	(細バーの幅 : 0.330mm)	
Data Matrix		12.7cm~114.3cm	(セルサイズ : 0.254mm)	
	12.7cm~635.0cm	(セルサイズ : 1.397mm)		
QR Code	40.0cm~2085.0cm	(セルサイズ : 2.54mm)		
機械仕様	外寸		87.8mm x 71.6mm x 177.7mm (スキャナ本体のみ)	
	重量		184g (スキャナ本体のみ)	
	トリガー寿命		1,000 万回	

	動作電圧		DC 4V~5.5V
	消費電流	動作時	710 mA 以内
		スタンバイ	79 mA 以内
インターフェース			USB、USB 仮想 COM エミュレーション
機能	対応シンボル	1次元	JAN/EAN/UPC、Code 39、Code 128、GS1-128 ² 、Interleaved 2of 5 (ITF)、Discrete 2 of 5、Matrix 2 of 5、Codabar (NW7)、Code 93、Code 32、Code 11、MSI、Chinese 2 of 5、GS1 Databar シリーズ ²
		2次元	PDF417、Micro PDF417、合成シンボル (CC-A/B/C/TLC-39)、Data Matrix、GS1 Data Matrix ² 、Aztec、QR コード、GS1 QR コード ² 、Micro QR コード、Han xin、Grid Matrix、DotCode
		郵便	日本郵便カスタマバーコード、US Postnet、US Postal、UK Postal、Australia Postal、Netherlands KIX、USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail、UPU FICS Postal、Mailmark、Korea Postal
		Digimarc	○
		OCR	OCR-A、OCR-B、MICR E13B、US Currency Serial Number
	トリガーモード		レベル、プレゼンテーション、ピックリスト
	データフォーマット		ターミネーター、プリフィックス、サフィックス、コード ID、バーコードデータの編集出力
	インジケータ		LED、ブザー
耐環境	ESD 保護		8K コンタクトおよび 15K エア、テスト後正常動作
	落下テスト		2.1 M からコンクリート床 (スキャナ本体のみ) ³
	防塵・防水		IP42
	動作温度範囲		-10°C から 50°C
	保存温度範囲		-40°C から 70°C
	相対湿度		95% 結露無いこと
認証			CE, FCC, BSMI, VCCI

*1 読み取り距離はバーコードの幅に依存します。

*2 AI の編集には対応していません。括弧の出力には対応していません。

*3 弊社テスト基準に基づく落下試験における実験値であり、無破損・無故障を保証するものではありません。

5. 対応シンボル初期値一覧

スキャナは以下のバーコードシンボルの読取りに対応しています。○は、初期設定の状態で読取れるかどうかを表しています。○のないバーコードシンボルは、[14.バーコード読取設定](#)（88 ページ）を参考に個別に設定が必要です。初期設定で読取れるバーコードシンボルでも読取れない場合は、[18.標準設定値一覧](#)（209 ページ）を参考に設定を確認してください。

Code39	○	Data Matrix	○
Code93		GS1 Data Matrix	
Code11		Maxicode	
Code128	○	QR コード	○
GS1-128	○	GS1 QR コード	
ISBT128	○	Micro QR コード	○
UPC-A	○	Aztec	○
UPC-E	○	Han Xin	
UPC-E1	○	Grid Matrix	
JAN-8	○	DotCode	
JAN-13	○	US Postnet	
ISBN	○	US Planet	
ISSN	○	UK Postal	
		日本郵便カスタマバーコード	
Codabar		Australia Post	
Discrete 2 of 5		Netherland KIX	
Interleaved 2 of 5		USPS 4CB	
MSI		One Code	
Chinese 2 of 5		Intelligent Mail	
Matrix 2 of 5		UPU FICS Postal	
Korean Postal		Mailmark	
GS1 Databar	○	Digimarc Barcode	
GS1 Databar Limited	○	OCR-A	
GS1 Databar Expanded	○	OCR-B	
CC-A		MICR E13B	
CC-B		US Currency Serial Number	
CC-C			
TLC-39			
PDF417	○		
Micro PDF			

6. 設定方法について

MS852LR は、専用の設定バーコードを読み込ませることで設定の変更を行います。変更された設定は不揮発性メモリに保存され、スキャナの電源を切っても設定は保持されます。

スキャナの設定を変更するには、ターゲットの設定バーコードを読み込ませてください。

多くのコンピュータモニタでは、モニタ上に表示させたバーコードを直接読取ることができます。モニタ上に表示されたバーコードを読取るためには、バーコードがはっきりと見えるように拡大してから読取ってください。拡大率などはモニタの仕様によります。

設定バーコードの仕様については、次の例図をご参照ください



7. システム設定

7.1. 設定値の初期化

次のバーコードを読み取ると、スキャナは [18.標準設定値一覧](#) (209 ページ) に記された設定値へ初期化されます。このとき、[8.1.USB デバイスタイプ](#) (33 ページ) が **SNAPI イメージングインターフェース付き**に、[11.4.送信データフォーマット](#) (72 ページ) が**データのみ**になることに注意してください。とくに理由がない場合は、[7.2.カスタム設定への初期化 \(USB モデル\)](#) (29 ページ) を使用して初期化することをお勧めいたします。



工場出荷デフォルト

7.2. カスタム設定への初期化 (USB モデル)

次のバーコードを読み取ると、[7.1.設定値の初期化](#) (29 ページ) 後、以下の設定を復元します。その他の設定は [18.標準設定値一覧](#) (209 ページ) をご確認ください。

パラメータ	カスタム設定値	掲載ページ
USB デバイスタイプ	USB HID キーボード	33 ページ
サフィックス 1	ENTER	69 ページ
送信データフォーマット	<データ><サフィックス 1>	72 ページ



カスタム設定 (USB)

7.3. カスタム設定の登録

カスタム設定登録を読み取ることで、現在の設定をスキャナにカスタム設定として登録することができます。登録されたカスタム設定は**カスタム設定復元**を読み取ることで復元することができます。カスタム設定を削除したい場合は、[7.1.設定値の初期化](#) (29 ページ) 行ってください。



カスタム設定登録



カスタム設定復元

7.4. バージョン表示

スキャナのファームウェアバージョン情報をホストに表示します。このコマンドを使用する場合、スキャナとホストが正常に接続されていて、ホストで表示可能なアプリケーションが実行されている必要があります。



バージョン表示

7.5. 設定バーコードの読取

設定バーコードによるパラメータ変更を無効にすることができます。この機能が無効のとき、スキャナは設定バーコードまたはそれに準拠するバーコードの読取りを無効化します。

初期値 = 有効



無効



有効

7.6. 設定バーコードのロック/アンロック

この機能は、ユーザーが設定バーコードをスキャンして設定を変更できないように、設定バーコードを4桁のパスコードでロックします。この機能により、[7.5.設定バーコードの読取](#) (31 ページ) よりも強固なセキュリティが提供されます。

設定バーコードをロックした後に受付可能な設定は、正しいパスコードでアンロックすることだけです。

🔑 **ロック**をスキャンするには、[7.5.設定バーコードの読取](#) (31 ページ) を**有効**に設定する必要があります。設定バーコードがロックされると、[7.5.設定バーコードの読取](#) (31 ページ) の**有効**または**無効**をスキャンするとエラー音が鳴ります。



ロック



アンロック

パスコード「**0029**」でロックする場合は、次の手順で行います。

1. **ロック**を読取ります。
2. [25.数字バーコード](#) (288 ページ) から「**0**」「**0**」「**2**」「**9**」の順に読取ります。

パスコード「**0029**」でアンロックする場合は、次の手順で行います。

1. **アンロック**を読取ります。
2. [25.数字バーコード](#) (288 ページ) から「**0**」「**0**」「**2**」「**9**」の順に読取ります。

8. USB インターフェイス設定

8.1. USB デバイスタイプ

USB デバイスタイプを変更するとスキャナが再起動され、電源投入時のビープ音が鳴ります。

USB HID キーボード — USB キーボードとして動作します。

USB CDC ホスト — USB 仮想 COM ポートを作成して接続します。

✎ **USB CDC ホスト**を使用するには、事前にドライバのインストールが必要です。詳細は [20.USB 仮想 COM エミュレーション](#) (244 ページ) をご覧ください。

初期値 = SNAPI イメージングインターフェイス付き



USB HID キーボード



IBM ハンドヘルド USB



IBM テーブルトップ USB



OPOS

(完全無効化対応 IBM ハンドヘルド)



SNAPI イメージングインターフェイス付き



SNAPI イメージングインターフェイス無し



USB CDC ホスト



SSI over USB CDC

8.2. 不明な文字の無視

不明な文字（ホスト PC の認識できない文字）を含むバーコードをスキャンしたときに、不明な文字を無視（破棄）して送信するかどうかを設定することができます。

不明な文字を無視する — スキャナは、不明な文字を破棄したバーコードデータをホストに送信し、エラーを示すビープ音は鳴りません

不明な文字を無視しない — スキャナは、不明な文字の直前までのバーコードデータをホストに送信し、エラーを示すビープ音を鳴らします。

初期値 = 不明な文字を無視する



不明な文字を無視する



不明な文字を無視しない

8.3. SNAPI ステータスハンドシェイク

SNAPI インターフェースのステータスハンドシェイクを設定することができます。

初期値 = 無効



無効



有効

8.4. キーストロークディレイ

ホストへのデータ転送を遅延させることができます。ホストでより遅いデータ転送が必要な場合に使用してください。

初期値 = デイレイ無し



デイレイ無し



20 ミリ秒



40 ミリ秒

8.5. Caps Lock オーバーライド

この機能を**有効**にすると、Caps Lock の状態に関係なくデータの大文字と小文字を保持できます。このオプションは、[9.1.キーボードレイアウト](#) (45 ページ) が日本語 (ASCII) の場合は常に有効で、無効にすることはできません。このオプションは、[8.1.USB デバイスタイプ](#) (33 ページ) が USB HID キーボードまたは IBM 系デバイスの場合にのみ適用されます。

初期値 = 無効



無効



有効

8.6. キーボードエミュレート

この機能を**有効**にすると、すべての文字が ASCII シーケンスとしてテンキーボード経由で送信されます。例えば、文字の「A」は、**ALT キーを押しながら、(テンキーボードで) 0 6 5 と入力して、ALT キーを放す**として送信されます。

初期値 = 無効



無効



有効

8.7. ゼロ付きキーボードエミュレート

この機能を**有効**にすると、すべての文字が先頭にゼロを付加した ISO 文字としてテンキーボード経由で送信されます。例えば、文字の「A」は、**ALT キーを押しながら、(テンキーボードで) 0 0 6 5 と入力して、ALT キーを放す**として送信されます。この機能を有効にするには、[8.6.キーボードエミュレート](#) (36 ページ) が**有効**である必要があります。

初期値 = 無効



無効



有効

8.8. ファンクションキーマッピング設定

この機能を**有効**にすると [24.ASCII 文字セット](#) (278 ページ) の太字で示されたキーが送信されるようになります。この機能の設定値にかかわらず、太字のキーストロークが設定されていないものは標準のキーストロークが送信されます。

初期値 = 無効



無効



有効

8.9. Caps Lock シミュレート

この機能を**有効**にすると、スキャナは、Caps Lock の状態が ON に設定されたかのように、バーコードの大文字と小文字を反転して出力します。この設定はホストのキーボードの Caps Lock の状態に関係なく行われます。



無効



有効

8.10. 大文字/小文字の変換

読取ったバーコードデータを全て大文字または小文字で出力することができます。

初期値 = 無効



無効



すべて大文字に変換する



すべて小文字に変換する

8.11. FNC1 置換設定

この設定を**有効**にすると、GS1-128に含まれるFNC1 (0x1b)を別の値に置換することが出来ます。置換される標準の値はEnterキー (7013)です。この置換する値を変更したい場合は、[8.12.FNC1 置換値](#) (39ページ)を確認してください。

初期値 = 無効



無効



有効

8.12. FNC1 置換値

8.11.FNC1 置換設定 (38 ページ) で置き換える値を任意に変更することが出来ます。

初期値 = 7013



FNC1 置換値設定

FNC1 置換値を「Tab」に変更する場合は、次の手順で行います。

1. [24.ASCII 文字セット](#) (278 ページ) から「Tab」の Prefix/Suffix 値「7009」を確認します。
2. **FNC 置換値設定**を読取ります。
3. [25.数字バーコード](#) (288 ページ) から「7」「0」「0」「9」の順に読取ります。

8.13. クイックキーパッドエミュレート

この機能を有効にすると、[8.6.キーパッドエミュレート](#) (36 ページ) が有効のときにキーボード上にない文字 (非印字文字) のみにキーパッドエミュレートが適用されます。



無効



有効

8.14. USB オプションパラメータ

スキャナを設定したあと、設定が保存または変更されていないことが判明した場合は、システムの再起動時に以下のバーコードをスキャンして、USB インターフェースのデフォルトを上書きします。

デフォルトを設定し、スキャナを設定する前に、以下のバーコードをスキャンしてください。

8.14.1. TGCS (IBM) USB ダイレクト I/O ビープ

ホストは、スキャナにダイレクト I/O ビープ音の要求を送信できます。**無効**を選択した場合、スキャナはこのコマンドでビープ音を鳴らしません。USB ホストは、すべての指示が処理されたと認識されます。

初期値 = 有効



有効



無効

8.14.2. TGCS (IBM) USB ビープ指示

ホストは、ビープ音の設定要求をスキャナに送信できます。**無効**を選択した場合、スキャナはホストからの要求を処理しません。USB ホストは、すべての指示が処理されたと認識されます。

初期値 = 無効



有効



無効

8.14.3. TGCS (IBM) USB バーコード設定指示

ホストは、コードタイプを有効または無効にできます。**無効**を選択した場合、スキャナはホストからの要求を処理しません。USB ホストは、すべての指示が処理されたと認識されます。

初期値 = 無効



有効



無効

8.14.4. 不明なバーコードタイプを Code39 に変換する

この機能を**有効**にすると、不明なバーコードタイプを Code39 に変換してホストへ送信します。このオプションは、[8.1.USB デバイスタイプ](#) (33 ページ) が **OPOS** または **IBM 系デバイス** の場合にのみ適用されます。

初期値 = 無効



無効



有効

8.14.5. IBM 仕様バージョン

IBM USB インターフェースを介してどのようにコードタイプがレポートされるかを、IBM USB インターフェースバージョンによって定義します。

初期値 = Version 2.2



オリジナル仕様



Version 2.2

8.14.6. 高速 HID キーボード

このオプションを有効にすると、データを高速なレートで送信することが出来ます。この機能が**有効**の場合は、[8.6.キーパッドエミュレート](#) (36 ページ)、[8.7.ゼロ付きキーパッドエミュレート](#) (36 ページ)、[8.13.クイックキーパッドエミュレート](#) (39 ページ) の設定値は無視されます。

初期値 = 無効



無効



有効

8.14.7. USB ポーリング間隔

USB ポーリング間隔は、スキャナとホストとの送信レートを変更し動作速度を上げることができます。設定を変更すると正常なデータを送れなくなる可能性があります。特に必要無い場合は変更しないでください。

初期値 = 8 ミリ秒



1 ミリ秒



2 ミリ秒



3 ミリ秒



4 ミリ秒



5 ミリ秒



6 ミリ秒



7 ミリ秒



8 ミリ秒



9 ミリ秒



10 ミリ秒

8.15. CDC オプションパラメータ

8.15.1. 静的 USB CDC

この機能を**無効**にすると、各々のデバイスは接続された COM ポートとは別の COM ポートを使用します。
(1 台目=COM1、2 台目=COM2、3 台目=COM3 など)

この機能を**有効**にすると、各々のデバイスは同じ COM ポートへ接続します。

初期値 = 有効



無効



有効

9. カントリーコード

9.1. キーボードレイアウト

ホストのキーボードレイアウトに合わせたカントリーコードを以下よりスキャンします

✂ 記号など一部の文字が正常に表示されない場合 (例えば「」 → 「(」や「_」 → 「=」など)、ほとんどは日本語(ASCII)を選択することで解決します。

初期値 = 英語 (北米)



英語 (北米)



英語 (Mac)



アルバニア語



アラビア語 (101)



アラビア語 (102)



アラビア語 (102) AZERTY



アゼルバイジャン語 (ラテン)



アゼルバイジャン語 (キリル)



ベラルーシ語

キーボードレイアウト (続き)



ボスニア語 (キリル)



ボスニア語 (ラテン)



ブルガリア語 (キリル) (タイプライタ)

ブルガリア語 - Win XP
タイプライタ - Win 7以降



ブルガリア語 (ラテン)



カナダ フランス語 (レガシー)



カナダ フランス語 Win7



中国語 (ASCII)



カナダ マルチリンガル標準



中国語 (繁体字)



中国語 (簡体字)



チェコ語



クロアチア語

キーボードレイアウト (続き)



チェコ語 (QWERTY)



オランダ語 (オランダ)



フェロー語



フランス語 (フランス)



フランス語 (カナダ) 95/98



ガリシア語



チェコ語 (プログラマ)



デンマーク語



エストニア語



フィンランド語



国際フランス語 (ベルギー フランス語)



フランス語 (カナダ) 2000/XP



ドイツ語

キーボードレイアウト (続き)



ギリシャ語 (ラテン)



ギリシャ語 (220) (ラテン)



ギリシャ語 (319) (ラテン)



ギリシャ語



ギリシャ語 (220)



ギリシャ語 (319)



ギリシャ語 (Polytonic)



ヘブライ語 (イスラエル)



ハンガリー語



ハンガリー語 101 キー



アイスランド語



アイルランド語



イタリア語

キーボードレイアウト (続き)



日本語 (ASCII)



カザフ語



韓国語 (ハングル)



中南米



ラトビア語 (QWERTY)



リトアニア語 (IBM)



イタリア語 (142)



日本語 (SHIFT-JIS)

✎ QRコードなどの日本語を出力するために [17.C JK コントロール](#) (206 ページ) を参照してください。



韓国語 (ASCII)



キルギス語



ラトビア語



リトアニア語

キーボードレイアウト (続き)



マルタ語 47 キー



ノルウェー語



ポーランド語 (プログラマ)



ポルトガル語 (ブラジル ABNT)



ルーマニア語 XP



ルーマニア語 (標準) Win7 以降



マケドニア語 (FYROM)



モンゴル語



ポーランド語 (214)



ポルトガル語 (ブラジル) XP



ポルトガル語 (ブラジル ABNT2)



ルーマニア語 (レガシー) Win7 以降



ルーマニア語 (プログラマ) Win7 以降

キーボードレイアウト (続き)



ロシア語



ロシア語 (タイプライタ)



セルビア語 (ラテン)



セルビア語 (キリル)



スロバキア語



スロバキア語 (QWERTY)



スロベニア語



スペイン語



スペイン語 (Variation)



スウェーデン語



スイス フランス語



スイス ドイツ語



タタール語

キーボードレイアウト (続き)



トルコ語 F



英語 (英国)



米国 Dvorak



米国 Dvorak (右)



ウズベク語



タイ語 (Kedmanee)



トルコ語 Q



ウクライナ語



米国 Dvorak (左)



米国インターナショナル



ベトナム語

10. カントリーコードページ

10.1. はじめに

以下の表はキーボードレイアウトとデフォルトのコードページについて記載されています。デフォルトのコードページが選択したキーボードレイアウトと適合している場合は、このセクションは必要ありません。

10.2. 初期値テーブル

キーボードレイアウト	コードページ
英語（米国）（北米）	Windows 1252
英語（米国）（Mac）	Mac CP10000
アルバニア語	Windows 1250
アラビア語（101）	Windows 1256
アラビア語（102）	Windows 1256
アラビア語（102）AZERTY	Windows 1256
アゼルバイジャン語（ラテン）	Windows 1254
アゼルバイジャン語（キリル）	Windows 1251
ベラルーシ語	Windows 1251
ボスニア語（ラテン）	Windows 1250
ボスニア語（キリル）	Windows 1251
ブルガリア語（ラテン）	Windows 1250
ブルガリア語（キリル）	Windows 1251
カナダ フランス語 Win7	Windows 1252
カナダ フランス語（レガシー）	Windows 1252
カナダ マルチリンガル標準	Windows 1252
クロアチア語	Windows 1250
中国語（ASCII）	Windows 1252
中国語（簡体字）	Windows 936、GBK
中国語（繁体字）	Windows 950、Big5
チェコ語	Windows 1250
チェコ語（プログラマ）	Windows 1250

初期値テーブル（続き）

キーボードレイアウト	コードページ
チェコ語 (QWERTY)	Windows 1250
デンマーク語	Windows 1252
オランダ語 (オランダ)	Windows 1252
エストニア語	Windows 1257
フェロー語	Windows 1252
フィンランド語	Windows 1252
フランス語 (フランス) 95/98	Windows 1252
フランス語 (カナダ) 2000/XP	Windows 1252
国際フランス語 (ベルギー フランス語)	Windows 1252
ガリシア語	Windows 1252
ドイツ語	Windows 1252
ギリシャ語 (ラテン)	Windows 1252
ギリシャ語 (220) (ラテン)	Windows 1253
ギリシャ語 (319) (ラテン)	Windows 1252
ギリシャ語	Windows 1253
ギリシャ語 (220)	Windows 1253
ギリシャ語 (319)	Windows 1253
ギリシャ語 (Polytonic)	Windows 1253
ヘブライ語 (イスラエル)	Windows 1255
ハンガリー語	Windows 1250
ハンガリー語 101 キー	Windows 1250
アイスランド語	Windows 1252
アイルランド語	Windows 1252
イタリア語	Windows 1252
イタリア語 (142)	Windows 1252
日本語 (ASCII)	Windows 1252
日本語 (SHIFT-JIS)	Windows 932、Shift-JIS
カザフ語	Windows 1251

初期値テーブル（続き）

キーボードレイアウト	コードページ
韓国語（ASCII）	Windows 1252
韓国語（ハングル）	Windows 949、ハングル
キルギス語（キリル）	Windows 1251
中南米	Windows 1252
ラトビア語	Windows 1257
ラトビア語（QWERTY）	Windows 1257
リトアニア語	Windows 1257
リトアニア語（IBM）	Windows 1257
マケドニア語（FYROM）	Windows 1257
マルタ語 47 キー	Windows 1252
モンゴル語	Windows 1251
ノルウェー語	Windows 1252
ポーランド語（214）	Windows 1250
ポーランド語（プログラマ）	Windows 1250
ポルトガル語（ブラジル）	Windows 1252
ポルトガル語（ブラジル ABNT）	Windows 1252
ポルトガル語（ブラジル ABNT2）	Windows 1252
ポルトガル語（ポルトガル）	Windows 1252
ルーマニア語	Windows 1250
ルーマニア語（レガシー）	Windows 1250
ルーマニア語（標準）	Windows 1250
ルーマニア語（プログラマ）	Windows 1250
ロシア語	Windows 1251
ロシア語（タイプライタ）	Windows 1251
セルビア語（ラテン）	Windows 1250
セルビア語（キリル）	Windows 1251
スロバキア語	Windows 1250
スロバキア語（QWERTY）	Windows 1250

初期値テーブル（続き）

キーボードレイアウト	コードページ
スロベニア語	Windows 1250
スペイン語	Windows 1252
スペイン語 (Variation)	Windows 1252
スウェーデン語	Windows 1252
スイス フランス語	Windows 1252
スイス ドイツ語	Windows 1252
タタール語	Windows 1251
タイ語 (Kedmanee)	Windows 874
トルコ語 F	Windows 1254
トルコ語 Q	Windows 1254
ウクライナ語	Windows 1251
英語 (英国)	Windows 1252
米国 Dvork	Windows 1252
米国 Dvork (左)	Windows 1252
米国 Dvork (右)	Windows 1252
米国インターナショナル	Windows 1252
ウズベク語	Windows 1251
ベトナム語	Windows 1258

10.3. カントリーコードページ



Windows 1250
ラテン 2、中央ヨーロッパ言語



Windows 1251
キリル言語、スラブ語



Windows 1252
ラテン 1、西ヨーロッパ言語



Windows 1253
ギリシャ言語



Windows 1254
ラテン 5、トルコ語



Windows 1255
ヘブライ語



Windows 1256
アラビア語



Windows 1257
バルト言語



Windows 1258
ベトナム語

カントリーコードページ (続き)



Windows 874

タイ語



Windows 20866
キリル言語、KOI8-R



Windows 932
日本語、Shift-JIS



Windows 936
簡体字中国語、GBK



Windows 54936
簡体字中国語、GB18030



Windows 949
韓国語、ハングル



Windows 950
繁体字中国語、Big5



MS-DOS 437
ラテン、米国



MS-DOS 737
ギリシャ語

カントリーコードページ (続き)



MS-DOS 775

バルト言語



MS-DOS 850

ラテン 1



MS-DOS 852

ラテン 2



MS-DOS 855

キリル言語



MS-DOS 857

トルコ語



MS-DOS 860

ポルトガル語



MS-DOS 861

アイスランド語



MS-DOS 862

ヘブライ語



MS-DOS 863

フランス語 (カナダ)

カントリーコードページ (続き)



MS-DOS 865

北欧



MS-DOS 866

キリル言語



MS-DOS 869

ギリシャ語 2



ISO 8859-1

ラテン 1、西ヨーロッパ言語



ISO 8859-2

ラテン 2、中央ヨーロッパ言語



ISO 8859-3

ラテン 3、南ヨーロッパ言語



ISO 8859-4

ラテン 4、北ヨーロッパ言語



ISO 8859-5

キリル言語



ISO 8859-6

アラビア語

カントリーコードページ (続き)



ISO 8859-7

ギリシャ語



ISO 8859-8

ヘブライ語



ISO 8859-9

ラテン 5、トルコ語



ISO 8859-10

ラテン 6、北欧



ISO 8859-11

タイ語



ISO 8859-13

ラテン 7、バルト言語



ISO 8859-14

ラテン 8、ケルト語



ISO 8859-15

ラテン 9



ISO 8859-16

ラテン 10、南東ヨーロッパ言語

カントリーコードページ (続き)



UTF-8



UTF-16LE

UTF-16、リトルエンディアン



UTF-16BE

UTF-16、ビッグエンディアン



Mac CP10000

Roman

11. データ送信設定

11.1. 送信データフォーマットについて

スキャナで読取ったバーコードデータは次のフォーマットでホストに送信されます。

{プリフィックス} {コード ID} [バーコードデータ] {サフィックス 1} {サフィックス 2}

{ } — 初期設定では出力されません。出力するには設定が必要です。

[] — 初期設定で出力されます。

11.2. コード ID の送信

スキャナは、サポートしているバーコードシンボルに対して、あらかじめ決められたコード ID を持っています。

初期値 = 送信しない



送信しない



コード ID を送信



AIM コード ID を送信

11.2.1. コード ID テーブル

コード ID	バーコードシンボル
A	UPC/EAN/JAN
B	Code 39、Code32
C	Codabar (NW-7)
D	Code 128、ISBT 128
E	Code 93
F	Interleaved 2 of 5 (ITF)
G	Discrete 2 of 5、IATA 2 of 5
H	Code 11
J	MSI
K	GS1-128
L	Bookland EAN
M	Trioptic Code 39
N	Coupon Code
R	GS1 Databar 系
S	Matrix 2 of 5
T	UCC コンポジット、TLC 39
U	Chinese 2 of 5
V	Korean 3 of 5
X	ISSN、PDF417、Micro PDF417
z	Aztec、Aztec Rune
P00	Data Matrix
P01	QR コード、Micro QR コード
P02	Maxicode
P03	US Postnet
P04	US Planet
P05	日本郵便カスタマバーコード
P06	UK Postal
P08	Netherlands KIX Code
P09	Australia Post
P0A	USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail
P0B	UPU FICS Postal
P0H	Han Xin
P0X	Signature Capture

11.2.2. AIM コード ID

AIM コード ID は 3 つの識別子 (jcm) を含んで表示されます。

- j** フラグ文字
- c** コード文字
- m** 修飾文字

11.2.2.1. コード文字テーブル

コード文字	コードタイプ
A	Code 39、Code 39 フル ASCII、Code32
C	Code 128、ISBT 128、GS1-128、Coupon
d	Data Matrix
E	UPC/EAN/JAN
e	GS1 Databar 系
F	Codabar (NW-7)
G	Code 93
H	Code 11
h	Han Xin
I	Interleaved 2 of 5 (ITF)
L	PDF417、Micro PDF417
L2	TLC 39
M	MSI
Q	QR コード、Micro QR コード
S	Discrete 2 of 5、IATA 2 of 5
U	Maxicode
z	Aztec、Aztec Rune
X	Code 39 Trioptic、Bookland EAN、Matrix 2 of 5、Chinese 2 of 5、Korean 3 of 5、ISSN、日本郵便カスタマバーコード、US Postnet、US Planet、UK Postal、Australia Post、Netherlands KIX Code、USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail、UP U FICS Postal、Signature Capture

11.2.2.2. 修飾文字テーブル

修飾文字はオプション値の合計です。

オプション値	オプション
Code 39	
0	チェックデジットも、フル ASCII 変換もなし
1	チェックデジットを検査した
3	チェックデジットを検査し送信しなかった
4	フル ASCII 変換を行った
5	フル ASCII 変換を行い、チェックデジットを検査した
7	フル ASCII 変換を行い、チェックデジット検査し送信しなかった
例 フル ASCII バーコードのチェックデジットを検査し送信しなかった場合の AIM コード ID は、JA7 となります。	
Trioptic Code 39	
0	オプションが設定されておらず、常に 0 を送信します
例 Trioptic Code 39 のコード ID は、JX0 となります。	
Code 128	
0	FNC1 コードが最初の文字の位置に無い
1	FNC1 コードが最初の文字の位置にある
2	FNC1 コードが 2 番目の文字の位置にある
例 Code128 または EAN128 バーコードの最初の文字の位置に FNC1 コードがある場合の AIM コード ID は、JC1 となります。	
Interleaved 2 of 5 (ITF)	
0	チェックデジットを検査していない
1	チェックデジットを検査した
3	チェックデジットを検査し送信しなかった
例 Interleaved 2 of 5 のチェックデジットを検査しない場合の AIM コード ID は、JI0 となります。	
Codabar (NW-7)	
0	チェックデジットを検査していない
1	チェックデジットを検査した
例 Codabar のチェックデジットを検査しない場合の AIM コード ID は、JF0 となります。	
Code 93	
0	オプションが設定されておらず、常に 0 を送信します
例 Code93 バーコードのコード ID は、JG0 となります。	
MSI	
0	チェックデジットが送信されます
1	チェックデジットは送信されません
例 MSI のコード ID は、JMO となります。	
Discrete 2 of 5	
0	オプションが設定されておらず、常に 0 を送信します
例 Discrete 2 of 5 のコード ID は、JS0 となります。	
UPC/JAN	
0	アドオンコードを含まない UPC-A、UPC-E および JAN-13
1	2 桁アドオンコードのみ
2	5 桁アドオンコードのみ
3	アドオンコードを含む UPC-A、UPC-E および JAN-13
4	JAN-8
例 UPC-A のコード ID は、JE0 となります。	

修飾文字テーブル (続き)

オプション値	オプション
Bookland EAN	
0	オプションが設定されておらず、常に 0 を送信します
例 Bookland EAN のコード ID は、JX0 となります。	
ISSN	
0	オプションが設定されておらず、常に 0 を送信します
例 ISSN のコード ID は、JX0 となります。	
Code11	
0	1 つのチェックデジット
1	2 つのチェックデジット
3	チェックデジットを検査し送信しなかった
例 Code 11 のコード ID は]H0 となります。	
GS1 Databar 系	
0	オプションが設定されておらず、常に 0 を送信します
例 GS1 Databar のコード ID は、Je0 となります。	
合成コード	
	ネイティブモード
0	標準データパケット
1	エンコードされたシンボル区切り文字に続くデータを含むパケット
2	エスケープ文字に続くデータを含むパケット。データパケットは ECI プロトコルをサポートしません。
3	エスケープ文字に続くデータを含むパケット。データパケットは ECI プロトコルをサポートします。
	GS1-128 エミュレーション
1	データパケットは GS1-128 です (先頭に]JC1 がつく)
PDF417、Micro PDF417	
0	リーダーは 1994 年の PDF417 シンボル体系仕様で定義されたプロトコルに準拠するように設定されています。 注 このオプションが送信されると、受信側は ECI が呼び出されたかどうか、またはデータバイト 92DEC が送信時に 2 倍になったかどうかを確実に判断できません。
1	リーダーは ECI プロトコルに従うように設定されています。すべてのデータ文字 92DEC は 2 倍になります。
2	リーダーは基本チャンネル操作用に設定されています (エスケープ文字伝送プロトコルなし)。データ文字 92DEC は 2 倍になりません。 注 デコーダがこのモードに設定されている場合、バッファされていないマクロシンボルおよびデコーダに ECI エスケープシーケンスの伝達を要求するシンボルは送信できません。
3	バーコードには GS1-128 記号が含まれており、最初のコードワードは 903-907、912、914、915 です。
4	バーコードには GS1-128 記号が含まれており、最初のコードワードは 908-909 です。
5	バーコードには GS1-128 記号が含まれており、最初のコードワードは 910-911 です。
例 PDF417 のコード ID は、JL0 となります。	
Data Matrix	
0	ECC 000 - ECC 140 (未サポート)
1	ECC 200
2	最初の位置または 5 番目の位置に FNC1 がある ECC 200
3	2 番目の位置または 6 番目の位置に FNC1 がある ECC 200
4	ECI プロトコルを実装した ECC 200
5	ECI プロトコルを実装しており、最初に位置または 5 番目の位置に FNC1 がある ECC 200
6	ECI プロトコルを実装しており、2 番目の位置または 6 番目の位置に FNC1 がある ECC 200

修飾文字テーブル（続き）

オプション値	オプション
Maxicode	
0	モード 4 またはモード 5
1	モード 2 またはモード 3
2	ECI プロトコルを実装したモード 4 またはモード 5
3	セカンダリメッセージに ECI プロトコルを実装したモード 2 またはモード 3
QR Code	
0	モデル 1
1	ECI プロトコルを実装していないモデル 2、または MicroQR コード
2	ECI プロトコルを実装したモデル 2
3	ECI プロトコルを実装しておらず、最初の位置に FNC1 があるモデル 2
4	ECI プロトコルを実装しており、最初の位置に FNC1 があるモデル 2
5	ECI プロトコルを実装しておらず、2 番目の位置に FNC1 があるモデル 2
6	ECI プロトコルを実装しており、2 番目の位置に FNC1 があるモデル 2
Aztec	
0	Aztec
C	Aztec Runes
HAN XIN	
0	一般的なデータ。特別な機能は設定されていません。送信データは AIM ECI プロトコルに準拠していません。
1	ECI プロトコルが有効。エンコードされた ECI モードが少なくとも 1 つあります。送信データは AIM ECI プロトコルに従う必要があります。

11.3. プリフィックスとサフィックス

プリフィックスとサフィックスに、任意の制御文字・英数字・記号を設定することができます。標準では、プリフィックス、サフィックス 1、サフィックス 2 のそれぞれに「ENTER (7013)」が設定されています。

✎ プリフィックス、サフィックスを追加で送信するためには、[11.4.送信データフォーマット](#) (72 ページ) を適切に設定する必要があります。

初期値 = プリフィックス、サフィックス 1、サフィックス 2 : 7013



プリフィックス設定



サフィックス 1 設定



サフィックス 2 設定



キャンセル

サフィックス 1 を「**Tab**」に変更する場合は、次の手順で行います。

1. [24.ASCII 文字セット](#) (278 ページ) から「**Tab**」の Prefix/Suffix 値「7009」を確認します。
2. [サフィックス 1 設定](#) を読取ります。
3. [25.数字バーコード](#) (288 ページ) から「7」「0」「0」「9」の順に読取ります。

11.3.1. USB 通信でよく使われるプリフィックスとサフィックス

以下の4つは、[8.1.USB デバイスタイプ](#) (33 ページ) が USB HID キーボードのときによく使われるプリフィックス/サフィックスの設定です。



バーコードの末尾に Enter キー



バーコードの末尾に Tab キー



バーコードの先頭に Escape キー
バーコードの末尾に Enter キー



バーコードの末尾に右 Ctrl キー



バーコードの末尾に何も付けない

11.3.2. シリアル通信でよく使われるプリフィックスとサフィックス

以下の3つは、RS232 ケーブル接続時および [8.1.USB デバイスタイプ](#) (33 ページ) が USB CDC ホストのときによく使われるプリフィックス/サフィックスの設定です。



バーコードの末尾に CR+LF



バーコードの末尾に CR



バーコードの先頭に STX

バーコードの末尾に ETX

11.4. 送信データフォーマット

スキャナから送信されるデータのフォーマットを設定することができます。プリフィックス/サフィックスの設定変更は [11.3.プリフィックスとサフィックス](#) (69 ページ) をご覧ください。

🔗 データは、読み取ったバーコードデータのことです。

初期値 = データのみ



データのみ



<データ><サフィックス 1>



<データ><サフィックス 2>



<データ><サフィックス 1><サフィックス 2>



<プリフィックス><データ>



<プリフィックス><データ><サフィックス 1>



<プリフィックス><データ><サフィックス 2>



<プリフィックス><データ><サフィックス 1>
<サフィックス 2>

11.5. “読取なし”メッセージの送信

バーコードの読取り時、“読取なし”メッセージをホストへ送信するかどうかを設定することができます。

有効 – トリガーを放す前、または [13.6.読取りセッションタイムアウト](#) (81 ページ) の期限前のとき、バーコードの読取りに成功しなかった場合は「NR」をホストへ送信します。

無効* – 「NR」を送信しません。

初期値 = 無効



有効



無効

12. インジケータ設定

12.1. 読取成功後のビープ音

バーコード読取成功後のビープ音を設定することができます。

初期値 = ビープ音を鳴らす



ビープ音を鳴らす



ビープ音を鳴らさない

12.2. 電源投入時のビープ音

スキャナが起動したときのビープ音を設定することができます。

初期値 = ビープ音を鳴らす



ビープ音を鳴らす



ビープ音を鳴らさない

12.3. ビープ音の音量

ビープ音の音量を設定することができます。

初期値 = 大



大



中



小

12.4. ビープ音の音程

ビープ音の音程を設定することができます。

初期値 = 中



音程を無効にする



高



中



低



中音→高音 (2音)

12.5. ビープ音の鳴動時間

ビープ音の鳴動時間を設定することができます。

初期値 = 中



長



中



短

12.6. ダイレクトデコードインジケータ

この設定は、[13.1.スキャンモード](#) (78 ページ) がトリガーまたは自動照準の場合に適用されます。この設定を使用すると、赤色照明を読取りの確認に使用することができます。1回点滅または2回点滅が選択されると、スキャナはバーコードを読み取ったあと赤色照明を点滅させ、ユーザーに読み取ったことを通知します。読取り完了後すぐにトリガーを放すと実行されません。そのため、この機能を使用するにはバーコード読み取り後もトリガーを引き続ける必要があります。照明の点滅後またはトリガーを放した後は、通常通り次のバーコードを読取ることができます。

初期値 = 無効



無効



1回点滅



2回点滅

12.7. [BEL]コマンド

この設定が**有効**の場合、スキャナは[BEL] (0x07) を受け取るとビープを鳴動します。この設定は、[8.1.USB デバイスタイプ](#) (33 ページ) が **USB CDC ホスト** の場合に適用されます。

初期値 = 有効



無効



有効

13. トリガー操作設定

13.1. スキャンモード

スキャナは3種類のスキャンモードをサポートしています。

レベル — 標準のスキャンモードです。トリガーを押している間は照準と照明が点灯し、バーコードを読むかトリガーを放すと消灯します。

プレゼンテーション — 対象物（バーコードなど）を検知すると、自動的に照準と照明が点灯しバーコードを読取ります。対象物を検知していないときは消灯します。対象物の検出には、ある程度の明るい環境が必要です。薄暗い環境下で使用する場合は、[13.13.バーコード検出支援](#)（86 ページ）を使用してみてください。

自動照準 — スキャナが自身の移動を検知すると照準だけが点灯し、トリガーを押すと照明が点灯しバーコードを読取ります。2 秒間無操作で消灯します。

注 **プレゼンテーションモード**では、バーコードとバーコードの読取り間隔を5秒以上空けることをお勧めいたします。プレゼンテーションモードでは、他のスキャンモードとは異なり、常に多くの電力を消費するため、頻繁な読み取り動作を行い続けるとスキャナの動作が停止する場合があります。スキャナの動作が停止した場合は、ホストからUSBケーブルを脱着してスキャナを再起動する必要があります。

注 MS852LR での**プレゼンテーションモード**では、近距離での読取りのみをサポートします。

初期値 = レベル



レベル



プレゼンテーション



自動照準

13.2. 連続読取りモード

この設定を**有効**にすると、トリガーを引いている間、連続でバーコードを読取り続けることができます。トリガーを放すと停止します。この設定は [13.1.スキャンモード](#) (78 ページ) に**プレゼンテーション**が選択されているときは使用できません。

注 **連続読取りモード**を使用する場合は、[13.4.ピックリストモード](#) (80 ページ) も常に**有効**にしてください。

初期値 = 無効



無効



有効

13.3. ユニークバーコードの読取り

この設定を**有効**にすると、同一読取りセッションの間は、同一バーコードの読取りを行ないません。この設定は [13.2.連続読取りモード](#) (79 ページ) が**有効**の場合に使用されます。

初期値 = 無効



無効



有効

13.4. ピックリストモード

この機能を使用すると、バーコードの狙い読みが可能となります。この機能が**常に有効**のとき、照準パターンのドットが重なったバーコードのみ読取りを行います。

常に無効 — 狙い読みを常に行いません。

常に有効 — 狙い読みを常に行います。

初期値 = 常に無効



常に無効



常に有効

13.5. 屋外ピックリストモード

この機能を有効にすると、MS852LR は屋外（直射日光下）でのピックリストモードのパフォーマンスを最適化します。この機能を有効に変更する前に、[13.4.ピックリストモード](#)（80 ページ）を**常に有効**に設定しておく必要があります。

初期値 = 屋外ピックリスト有効



屋外ピックリスト有効



屋外ピックリスト無効

13.6. 読取りセッションタイムアウト

読取りセッションを継続する時間の最大値を設定することができます。設定範囲は0.5秒～9.9秒です。

初期値 = 9.9 秒



読取りセッションタイムアウト

「0.5 秒」に変更する場合は、次の手順で行います。

1. 読取りセッションタイムアウトを読取ります。
2. 25.数字バーコード (288 ページ) から「0」「5」の順に読取ります。

13.7. 同一バーコードの読取間隔

13.1.スキャンモード (78 ページ) がプレゼンテーションまたは、13.2.連続読取りモード (79 ページ) が有効の場合、バーコードの読取りが成功した後に同一バーコードの読取りが可能になるまでの時間を設定することができます。設定範囲は0.0秒～9.9秒です。

初期値 = 0.5 秒



同一バーコードの読取間隔

「0.5 秒」に変更する場合は、次の手順で行います。

1. 同一バーコードの読取間隔を読取ります。
2. 25.数字バーコード (288 ページ) から「0」「5」の順に読取ります。

13.8. 異なるバーコードの読取間隔

13.1.スキャンモード (78 ページ) がプレゼンテーションまたは、13.2.連続読取りモード (79 ページ) が有効の場合、バーコードの読取りが成功した後に異なるバーコードの読取りが可能になるまでの時間を設定することができます。設定範囲は 0.1 秒～9.9 秒です。

✎ 異なるバーコードの読取間隔の値は、13.7.同一バーコードの読取間隔 (81 ページ) および、13.6.読取りセッションタイムアウト (81 ページ) の値と同一またはそれ以上の値に設定することはできません。

初期値 = 0.1 秒



異なるバーコードの読取間隔

13.9. 照準パターンの切り替え

照準パターンの照射可否を設定することができます。この設定は [13.4.ピックリストモード](#) (80 ページ) が有効のときは使用できません。

🔗 MS852LR で遠距離の読取りを行う場合、このパラメータを**拒否**にしないことをお勧めします。

初期値 = 許可



許可



拒否

13.10. 照準パターンの明るさ

照準パターンの明るさを3段階の明度から選択することができます。**明度3**が最も明るく、**明度1**が最も暗くなります。

初期値 = 明度3



明度1



明度2



明度3

13.11. 照明の切り替え

バーコードを読み取りやすくする照明の点灯可否を設定することができます。この設定を**拒否**に変更すると周囲の明るさによってはバーコードが読取れなくなりますのでご注意ください。

注 プレゼンテーション動作中にこのパラメータを**拒否**に変更することは推奨できません。

初期値 = 許可



許可



拒否

13.12. 照明の明るさ

照明の明るさを調整することができます。**明度 0** が最も暗く、**明度 6** が最も明るい設定です。

初期値 = 明度 6



明度 0



明度 1



明度 2



明度 3



明度 4



明度 5



明度 6

13.13. バーコード検出支援

この機能は、薄暗い環境下におけるプレゼンテーション動作中のバーコードの検出支援を行います。

支援なし - バーコードの検出支援を行いません。周辺に十分な光源が無い場合、バーコードの読取りができない場合があります。

照準 ON - 待機時、バーコードの検出支援のため常に照準を照射します。このオプションは、[13.9.照準パターンの切り替え](#) (83 ページ) より優先されます。

照明 ON - 待機時、バーコードの検出支援のため常に照明を照射します。このオプションは、[13.11.照明の切り替え](#) (84 ページ) より優先されます。

初期値 = 支援なし



支援なし



照準 ON



照明 ON

13.14. 視界調整

バーコードの検出時間を速くするためにより小さな領域を検索する場合は、**小さな視界**を選択し、より大きな領域を検索する場合は、**すべての視界**を選択します。

初期値 = 標準の視界



小さな視界



標準の視界



すべての視界

13.15. 携帯電話／ディスプレイモード

このモードは、携帯電話や電子ディスプレイ上に表示されたバーコードの読取りパフォーマンスを改善することができます。

注 このモードは、すべての環境下での読取りを保証するものではありません。

注 MS852LR では、この機能を近距離での読取りのみに制限しています。

初期値= 無効



有効



無効

14. バーコード読取設定

14.1. 全てのバーコードの読取り

全てのバーコードタイプの読取を有効化/無効化することができます。

小数のバーコードタイプの読取りのみを許可したい場合は、**全バーコードタイプ無効**に設定してから、許可したいバーコードタイプの読取りを有効化してください。



全バーコードタイプ無効



全バーコードタイプ有効

14.2. UPC/JAN

14.2.1. UPC-A の読取り

UPC-A の読取りを設定することができます。

初期値 = 有効



無効



有効

14.2.2. UPC-E の読取り

UPC-E の読取りを設定することができます。

初期値 = 有効



無効



有効

14.2.3. UPC-E1 の読取り

UPC-E1 の読取りを設定することができます。

初期値 = 無効



無効



有効

14.2.4. JAN-8 の読取り

JAN-8 の読取りを設定することができます。

初期値 = 有効



無効



有効

14.2.5. JAN-13 の読取り

JAN-13 の読取りを設定することができます。

初期値 = 有効



無効



有効

14.2.6. ISBN の読取り

ISBN の読取りを設定することができます。この設定を**有効**に変更すると、**978** または **979** から始まる JAN-13 を ISBN コードとして出力することができます。

初期値 = 無効



無効



有効

14.2.7. UPC/JAN アドオンコードの読取り

UPC/JAN コードに付加される 2 桁または 5 桁のアドオンコードの読取りを設定することができます。

無視 - アドオンコードがあっても無視します。

必須 - アドオンコードを送信します。アドオンコードがない UPC/JAN は無視します。

自動 - アドオンコードを自動検出します。アドオンコードが無い場合は、[14.2.9.アドオンコードの確認回数](#) (93 ページ) で設定されている回数だけアドオンコードがないことを確認して送信します。

次の設定のいずれかを選択した場合、スキャナは選択した 3 桁の数値列から始まる UPC/JAN コードに対してアドオンコードを自動検出して送信します。アドオンコードが無い場合は、[14.2.9.アドオンコードの確認回数](#) (93 ページ) で設定されている回数だけアドオンコードがないことを確認して送信します。それ以外の数値列から始まる UPC/JAN コードはアドオンコードなしでただちに送信されます。

378/379 アドオンモード

978/979 アドオンモード

977 アドオンモード

414/419/434/439 アドオンモード

491 アドオンモード

スマートアドオンモード - 前述の 3 桁数値列から始まる UPC/JAN コードに適用されます。

ユーザー定義モード 1 - ユーザーが定義した 3 桁の数値列から始まる UPC/JAN コードに適用されます。[14.2.8.ユーザー定義アドオン](#) (93 ページ) を使用して定義します。

ユーザー定義モード 1 および 2 - ユーザーが定義した 3 桁の数値列から始まる UPC/JAN コードに適用されます。[14.2.8.ユーザー定義アドオン](#) (93 ページ) を使用して定義します。

スマートアドオンモード+ユーザー定義モード 1 - 前述の 3 桁数値列または、ユーザーが定義した 3 桁の数値列から始まる UPC/JAN コードに適用されます。[14.2.8.ユーザー定義アドオン](#) (93 ページ) を使用して定義します。

スマートアドオンモード+ユーザー定義モード 1 および 2 - 前述の 3 桁数値列または、ユーザーが定義した 3 桁の数値列から始まる UPC/JAN コードに適用されます。[14.2.8.ユーザー定義アドオン](#) (93 ページ) を使用して定義します。

初期値 = 無視



無視



必須



自動

UPC/JAN アドオンコードの読取り (続き)



378/379 アドオンモード



978/979 アドオンモード



977 アドオンモード



414/419/434/439 アドオンモード



491 アドオンモード



スマートアドオンモード



ユーザー定義モード 1



ユーザー定義モード 1 および 2



スマートアドオンモード+ユーザー定義モード 1



スマートアドオンモード+ユーザー定義モード 1 および 2

14.2.8. ユーザー定義アドオン

14.2.7.UPC/JAN アドオンコードの読取り (91 ページ) でユーザー定義モードのいずれかを選択した場合は、以下のバーコードを使用して3桁の数値列を定義します。

初期値 = ユーザー定義アドオン 1 および 2 : 000



ユーザー定義アドオン 1



ユーザー定義アドオン 2

「123」に変更する場合は、次の手順で行います。

1. ユーザー定義アドオン 1 またはユーザー定義アドオン 2 を読取ります。
2. 25.数字バーコード (288 ページ) から「1」「2」「3」の順に読取ります。

14.2.9. アドオンコードの確認回数

アドオンコードの有無を確認する回数を設定することができます。アドオンコードの有無が混在した環境では回数を多めに設定することをお勧めいたします。設定範囲は2~30回です。

初期値 = 10 回



アドオンコードの確認回数

「5 回」に変更する場合は、次の手順で行います。

1. アドオンコードの確認回数を読取ります。
2. 25.数字バーコード (288 ページ) から「0」「5」の順に読取ります。

14.2.10. アドオンコードの AIM ID フォーマット

11.2.コード ID の送信 (63 ページ) が AIM コード ID を送信に設定されているとき、アドオンコード読取り時の AIM ID の出力フォーマットを設定することができます。

分離 — UPC/JAN コードのデータと、アドオンコードのデータそれぞれに AIM ID を付加して送信します。

結合 — UPC/JAN コード+アドオンコードのデータに AIM ID を 1 つ付加して送信します。

分離転送 — UPC/JAN コードのデータと、アドオンコードのデータそれぞれに AIM ID を付加して送信します。UPC/JAN コードのデータと、アドオンコードは改行で分割されて送信されます。

初期値 = 結合



分離



結合



分離転送

14.2.11. UPC 縮小クワイエットゾーン

より小さいクワイエットゾーン (バーコードの左右にある空白のマージン) を含む UPC コードの読取りの有効化/無効化を設定することができます。この機能を有効に設定した場合、14.24.4.1 次元コードのクワイエットゾーンレベル (165 ページ) も選択してください。

初期値 = 無効



無効



有効

14.2.12. UPC-A チェックデジットの送信

UPC-A のチェックデジットの送信を設定することができます。

初期値 = 送信する



送信しない



送信する

14.2.13. UPC-E チェックデジットの送信

UPC-E のチェックデジットの送信を設定することができます。

初期値 = 送信する



送信しない



送信する

14.2.14. UPC-E1 チェックデジットの送信

UPC-E1 のチェックデジットの送信を設定することができます。

初期値 = 送信する



送信しない



送信する

14.2.15. UPC-A プリアンブル

UPC-A のプリアンブルの送信を設定することができます。

送信しない — プリアンブルは送信しません。チェックデジットを含めた 11 桁で送信されます。

システムキャラクタ — システムキャラクタを先頭に付加して送信します。チェックデジットを含めた 12 桁で送信されます。

カンントリーコード+システムキャラクタ — カントリーコード+システムキャラクタを先頭に付加して送信します。カンントリーコードは米国の場合は「0」です。チェックデジットを含めた 13 桁で送信されます。

初期値 = システムキャラクタ



送信しない



システムキャラクタ



カンントリーコード+システムキャラクタ

14.2.16. UPC-E プリアンブル

UPC-E のプリアンブルの送信を設定することができます。

送信しない — プリアンブルは送信しません。チェックデジットを含めた 7 桁で送信されます。

システムキャラクタ — システムキャラクタを先頭に付加して送信します。チェックデジットを含めた 8 桁で送信されます。

カンントリーコード+システムキャラクタ — カントリーコード+システムキャラクタを先頭に付加して送信します。カンントリーコードは米国の場合は「0」です。チェックデジットを含めた 9 桁で送信されます。

初期値 = システムキャラクタ



送信しない



システムキャラクタ



カンントリーコード+システムキャラクタ

14.2.17. UPC-E1 プリアンブル

UPC-E1 のプリアンブルの送信を設定することができます。

送信しない — プリアンブルは送信しません。チェックデジットを含めた 7 桁で送信されます。

システムキャラクタ — システムキャラクタを先頭に付加して送信します。チェックデジットを含めた 8 桁で送信されます。

カンントリーコード+システムキャラクタ — カントリーコード+システムキャラクタを先頭に付加して送信します。カンントリーコードは米国の場合は「0」です。チェックデジットを含めた 9 桁で送信されます。

初期値 = システムキャラクタ



送信しない



システムキャラクタ



カンントリーコード+システムキャラクタ

14.2.18. UPC-E を UPC-A に拡張

UPC-E を UPC-A に拡張して出力することができます。**拡張する場合**、[14.2.12.UPC-A チェックデジットの送信](#) (95 ページ)、[14.2.15.UPC-A プリアンブル](#) (96 ページ) の設定の影響を受けます。

初期値 = 拡張しない



拡張しない



拡張する

14.2.19. UPC-E1 を UPC-A に拡張

UPC-E を UPC-A に拡張して出力することができます。**拡張する場合** [14.2.12.UPC-A チェックデジットの送信](#) (95 ページ)、[14.2.15.UPC-A プリアンブル](#) (96 ページ) の設定の影響を受けます。

初期値 = 拡張しない



拡張しない



拡張する

14.2.20. JAN-8 を JAN-13 に拡張

拡張する場合、JAN-13 と互換性を持たせるように、JAN-8 に 5 つの「0」を追加して出力します。

初期値 = 拡張しない



拡張しない



拡張する

14.2.21. ISBN の出力フォーマット

14.2.6.ISBN の読取り (90 ページ) が**有効**の場合、出力フォーマットを以下より選択することができます。

ISBN-10 - 978 から始まる JAN-13 を旧規格の 10 桁コードとして出力します。このフォーマットでは 979 から始まるコードは ISBN として処理されません。

ISBN-13 - 978 または 979 から始まる JAN-13 を現行規格の 13 桁コードとして出力します。

初期値 = ISBN-10



ISBN-10



ISBN-13

14.2.22. UCC クーポン拡張コード

UCC クーポン拡張コードの読取りを設定することができます。この設定を**有効**にすると、「5」で始まる UPC-A、「99」で始まる JAN-13/UPC-A/GS1-128 をクーポンコードとして出力することができます。すべてのクーポンタイプをサポートするには、UPC-A/JAN-13/GS1-128 の読取りを有効にする必要があります。

初期値 = 無効



無効



有効

14.2.23. クーポンフォーマット

サポートする UCC クーポン拡張コードのフォーマットを選択することができます。

旧クーポン — UPC-A/GS1-128 と JAN-13/GS-128 のクーポンコードをサポートします。

新クーポン — UPC-A/GS1-Databar と JAN-13/GS1-Databar のクーポンコードをサポートします。

新旧クーポン自動識別 — 新旧両方のクーポンコードをサポートします。

初期値 = 新クーポン



旧クーポン



新クーポン



新旧クーポン自動識別

14.2.24. ISSN の読取り

ISSN の読取りを設定することができます。この設定を**有効**にすると、977 から始まる JAN-13 を 8 桁の ISSN コードとして出力することができます。

初期値 = 無効



無効



有効

14.3. Code128

14.3.1. Code128 の読取り

Code128 の読取りを設定することができます。

初期値 = 有効



無効



有効

14.3.2. Code128 読取り桁数

Code128 の読取り可能な桁数を以下の 4 種類から設定することができます。

1 つの固定桁数 — 設定した桁数の Code128 のみを読み取ります。

2 つの固定桁数 — 設定した 2 つの桁数の Code128 のみを読み取ります。

範囲指定 — 指定された範囲内の桁数の Code128 のみを読み取ります。

任意桁数 — スキャナの機能が許す範囲で、桁数の指定を行わず読み取ります。

- ・ 6 桁で固定する：**1 つの固定桁数**→[25.数字バーコード](#) (288 ページ) から「0」「6」
- ・ 8 桁と 16 桁で固定する：**2 つの固定桁数**→[25.数字バーコード](#) (288 ページ) から「0」「8」「1」「6」
- ・ 4 桁～12 桁の範囲で設定する：**範囲指定**→[25.数字バーコード](#) (288 ページ) から「0」「4」「1」「2」

初期値 = 任意桁数



1 つの固定桁数



2 つの固定桁数



範囲指定



任意桁数

14.3.3. GS1-128 の読取り

GS1-128 の読取りを設定することができます。

初期値 = 有効



無効



有効

14.3.4. ISBT 128 の読取り

ISBT 128 の読取りを設定することができます。

初期値 = 有効



無効



有効

14.3.5. ISBT 連結

2つのペアとなる ISBT コードを連結して送信することができます。

ISBT 連結有効 – 必ず2つのペアとなる ISBT コードが必要です。単独の ISBT コードを読取ることはできません。

ISBT 連結無効 – ISBT 連結を行いません。

ISBT 連結自動 – 2つのペアとなる ISBT コードは、連結して送信します。単独の ISBT コードは [14.3.7.ISBT 連結冗長性](#) (105 ページ) で設定されている回数チェックしてから送信します。

初期値 = ISBT 連結無効



ISBT 連結無効



ISBT 連結有効



ISBT 連結自動

14.3.6. ISBT テーブルチェック

ISBT の仕様には、一般的にペアとして使用されるいくつかのリストのテーブルが含まれています。[14.3.5.ISBT 連結](#) (104 ページ) を**有効**に変更する場合は、この設定を**チェックする**に変更し、ISBT の仕様に含まれるテーブルに存在するペアのみを連結して送信するようにしてください。

初期値 = チェックする



チェックしない



チェックする

14.3.7. ISBT 連結冗長性

14.3.5.ISBT 連結 (104 ページ) を **ISBT 連結自動** に設定している場合は、単独の ISBT コードかどうかをチェックする回数をこの設定で行います。設定には、以下のバーコードを読んだあと、2桁の [25.数字バーコード](#) (288 ページ) を使用します。2桁に満たない場合は、ゼロで埋めてください (例: 5 → 05)。設定可能な範囲は 2~20 です。

初期値 = 10 回



ISBT 連結冗長性

14.3.8. Code128 セキュリティレベル

Code128 は、14.3.2.Code128 読取り桁数 (102 ページ) が任意桁数に設定されている場合、誤読に対して脆弱です。スキャナは誤読に対して以下の 4 つのセキュリティレベルを提供します。セキュリティレベルと読み取り易さは相反していて、セキュリティレベルを上げると誤読に対して強固になりますが、バーコードの読み取り易さは低下します。必要なセキュリティレベルを設定してください。

セキュリティレベル 0 — この設定は、スキャナの設定を最大の状態で使用でき、ほとんどの「規格内」バーコードを読み取るために十分な精度を持っています。

セキュリティレベル 1 — このオプションは、妥当な読み取り精度を維持しながら、ほとんどの誤読を排除します。

セキュリティレベル 2 — このオプションは、セキュリティレベル 1 でも誤読してしまうような、品質の悪いバーコードの読み取るために使用します。

セキュリティレベル 3 — セキュリティレベル 2 でも誤読が発生する場合に、スキャナの持つ機能の範囲で最大限の正確性を提供します。

注 **セキュリティレベル 3** を選択することは、仕様外のバーコードを誤読することに対する極端な措置であり、スキャナの読み取り能力を著しく損ないます。このセキュリティレベルが必要な場合は、バーコードの品質を向上させることを強くお勧めいたします。

初期値 = Code128 セキュリティレベル 1



Code128 セキュリティレベル 0



Code128 セキュリティレベル 1



Code128 セキュリティレベル 2



Code128 セキュリティレベル 3

14.3.9. Code128 縮小クワイエットゾーン

より小さいクワイエットゾーン（バーコードの左右にある空白のマージン）を含む Code128 の読取りの有効化/無効化を設定することができます。この機能を「有効」に設定した場合、[14.24.4.1 次元コードのクワイエットゾーンレベル](#)（165 ページ）も選択してください。

初期値 = 無効



無効



有効

14.3.10. Code128 <FNC4>

この機能は、<FNC4>を含んだ Code128 に対して適用されます。<FNC4>を無視する場合、スキャナは<FNC4>を削除し、そのあとのデータは Code128 標準のデータとしてホストへ送信されます。

初期値 = <FNC4>を使用する



<FNC4>を使用する



<FNC4>を無視する

14.4. Code39

14.4.1. Code39 の読取り

Code39 の読取りを設定することができます。

初期値 = 有効



無効



有効

14.4.2. Trioptic Code 39 の読取り

Trioptic Code39 の読取りを設定することができます。この設定を**有効**にすると、14.4.8.Code39 読取りフォーマット（111 ページ）のフル ASCII フォーマットは使用できません。

初期値 = 無効



無効



有効

14.4.3. Code39 を Code32 に変換

Code32 は、イタリアの薬局業界によって使用される Code39 の一種です。**有効**または**無効**をスキャンすることで、Code39 を Code32 に変換できます。

注 この機能を使用する場合、Code39 の読み取りは**有効**である必要があります。

初期値 = 無効



無効



有効

14.4.4. Code32 プリフィックス

この機能を**有効**にすると、すべての Code32 バーコードの先頭に”A”を追加することができます。

初期値 = 無効



無効



有効

14.4.5. Code39 読取り桁数

Code39 の読取り可能な桁数を以下の 4 種類から設定することができます。

1 つの固定桁数 — 設定した桁数の Code39 のみを読み取ります。

2 つの固定桁数 — 設定した 2 つの桁数の Code39 のみを読み取ります。

範囲指定 — 指定された範囲内の桁数の Code39 のみを読み取ります。

任意桁数 — スキャナの機能が許す範囲で、桁数の指定を行わず読み取ります。

- ・ 6 桁で固定する：**1 つの固定桁数**→25.数字バーコード (288 ページ) から「0」「6」
- ・ 8 桁と 16 桁で固定する：**2 つの固定桁数**→25.数字バーコード (288 ページ) から「0」「8」「1」「6」
- ・ 4 桁～12 桁の範囲で設定する：**範囲指定**→25.数字バーコード (288 ページ) から「0」「4」「1」「2」

初期値 = 範囲指定 (2 桁～55 桁)



1 つの固定桁数



2 つの固定桁数



範囲指定 (2～55)



任意桁数

14.4.6. Code39 チェックデジットの検査

Code39 のチェックデジットの検査を設定することができます。**検査する**場合、誤ったチェックデジットを持つバーコードおよび、チェックデジットの無いバーコードは読取ることはできません。

初期値 = 検査しない



検査しない



検査する

14.4.7. Code39 チェックデジットの送信

Code39 のチェックデジットの送信を設定することができます。この設定を使用するには [14.4.6.Code39 チェックデジットの検査](#) (111 ページ) を**検査する**必要があります。

初期値 = 送信しない



送信しない



送信する

14.4.8. Code39 読取りフォーマット

Code39 の読取りフォーマットを設定することができます。フル ASCII フォーマットは、2つの文字の組み合わせで ASCII キャラクタを表現する特別なフォーマットです。

初期値 = 標準フォーマット



標準フォーマット



フル ASCII フォーマット

14.4.9. Code39 セキュリティレベル

スキャナは誤読に対して以下の4つのセキュリティレベルを提供します。セキュリティレベルと読み取り易さは相反していて、セキュリティレベルを上げると誤読に対して強固になりますが、バーコードの読み取り易さは低下します。必要なセキュリティレベルを設定してください。

セキュリティレベル 0 – この設定は、スキャナの設定を最大の状態で使用でき、ほとんどの「規格内」バーコードを読み取るために十分な精度を持っています。

セキュリティレベル 1 – このオプションは、妥当な読み取り精度を維持しながら、ほとんどの誤読を排除します。

セキュリティレベル 2 – このオプションは、**セキュリティレベル 1**でも誤読してしまうような、品質の悪いバーコードの読み取るために使用します。

セキュリティレベル 3 – **セキュリティレベル 2**でも誤読が発生する場合に、スキャナの持つ機能の範囲で最大限の正確性を提供します。

注 **セキュリティレベル 3**を選択することは、仕様外のバーコードを誤読することに対する極端な措置であり、エンジンの読み取り能力を著しく損ないます。このセキュリティレベルが必要な場合は、バーコードの品質を向上させることを強くお勧めいたします。

初期値 = Code39 セキュリティレベル 1



Code39 セキュリティレベル 0



Code39 セキュリティレベル 1



Code39 セキュリティレベル 2



Code39 セキュリティレベル 3

14.4.10. Code39 縮小クワイエットゾーン

より小さいクワイエットゾーン（バーコードの左右にある空白のマージン）を含む Code39 の読取りの有効化/無効化を設定することができます。この機能を「有効」に設定した場合、[14.24.4.1 次元コードのクワイエットゾーンレベル](#)（165 ページ）も選択してください。

初期値 = 無効



無効



有効

14.5. Code93

14.5.1. Code93 の読取り

Code93 の読取りを設定することができます。

初期値 = 無効



無効



有効

14.5.2. Code93 読取り桁数

Code93 の読取り可能な桁数を以下の 4 種類から設定することができます。

1 つの固定桁数 — 設定した桁数の Code93 のみを読み取ります。

2 つの固定桁数 — 設定した 2 つの桁数の Code93 のみを読み取ります。

範囲指定 — 指定された範囲内の桁数の Code93 のみを読み取ります。

任意桁数 — スキャナの機能が許す範囲で、桁数の指定を行わず読み取ります。

- ・ 6 桁で固定する：**1 つの固定桁数**→[25.数字バーコード](#) (288 ページ) から「0」「6」
- ・ 8 桁と 16 桁で固定する：**2 つの固定桁数**→[25.数字バーコード](#) (288 ページ) から「0」「8」「1」「6」
- ・ 4 桁～12 桁の範囲で設定する：**範囲指定**→[25.数字バーコード](#) (288 ページ) から「0」「4」「1」「2」

初期値 = 範囲指定 (4 桁～55 桁)



1 つの固定桁数



2 つの固定桁数



範囲指定 (4～55)



任意桁数

14.6. Code11

14.6.1. Code11 の読取り

Code11 の読取りを設定することができます。

初期値 = 無効



無効



有効

14.6.2. Code11 読取り桁数

Code11 の読取り可能な桁数を以下の 4 種類から設定することができます。

1 つの固定桁数 — 設定した桁数の Code11 のみを読み取ります。

2 つの固定桁数 — 設定した 2 つの桁数の Code11 のみを読み取ります。

範囲指定 — 指定された範囲内の桁数の Code11 のみを読み取ります。

任意桁数 — スキャナの機能が許す範囲で、桁数の指定を行わず読み取ります。

- ・ 6 桁で固定する：**1 つの固定桁数**→[25.数字バーコード](#) (288 ページ) から「0」「6」
- ・ 8 桁と 16 桁で固定する：**2 つの固定桁数**→[25.数字バーコード](#) (288 ページ) から「0」「8」「1」「6」
- ・ 4 桁～12 桁の範囲で設定する：**範囲指定**→[25.数字バーコード](#) (288 ページ) から「0」「4」「1」「2」

初期値 = 範囲指定 (4 桁～55 桁)



1 つの固定桁数



2 つの固定桁数



範囲指定 (4～55)



任意桁数

14.6.3. Code11 チェックデジットの検査

この機能により、スキャナは Code 11 のチェックデジットを検査して、データが完全かどうかを確認できます。次のいずれかのバーコードをスキャンして、チェックデジットの数を指定するか、この機能を無効にします。

初期値 = 無効



無効



1つのチェックデジット



2つのチェックデジット

14.6.4. Code11 チェックデジットの送信

Code11 のチェックデジットの送信を設定することができます。この設定を変更するには [14.6.3.Code11 チェックデジットの検査](#) (116 ページ) を [1つのチェックデジット](#) に設定しておく必要があります。

初期値 = 送信しない



送信しない



送信する

14.7. ITF (Interleaved 2 of 5)

14.7.1. ITF の読取り

ITF の読取りを設定することができます。

初期値 = 無効



無効



有効

14.7.2. ITF 読取り桁数

ITF の読取り可能な桁数を以下の 4 種類から設定することができます。

1 つの固定桁数 — 設定した桁数の ITF のみを読み取ります。

2 つの固定桁数 — 設定した 2 つの桁数の ITF のみを読み取ります。

範囲指定 — 指定された範囲内の桁数の ITF のみを読み取ります。

任意桁数 — スキャナの機能が許す範囲で、桁数の指定を行わず読み取ります。任意桁数の使用は、誤読の発生する可能性を高めますのでご注意ください。

- ・ 6 桁で固定する：1 つの固定桁数 → 25. 数字バーコード (288 ページ) から「0」「6」
- ・ 8 桁と 16 桁で固定する：2 つの固定桁数 → 25. 数字バーコード (288 ページ) から「0」「8」「1」「6」
- ・ 4 桁～12 桁の範囲で設定する：範囲指定 → 25. 数字バーコード (288 ページ) から「0」「4」「1」「2」

初期値 = 1 つの固定桁数 (14 桁)



1 つの固定桁数 (14)



2 つの固定桁数



範囲指定



任意桁数

14.7.3. ITF チェックデジットの検査

ITF のチェックデジットの検査を設定することができます。**検査する**場合、誤ったチェックデジットを持つバーコードや、チェックデジットの無いバーコードは読取ることができません。チェックデジットの種類が不明の場合は、まず**検査する (USS チェックデジット)**でお試してください。

初期値 = 検査しない



検査しない



検査する (USS チェックデジット)



検査する (OPCC チェックデジット)

14.7.4. ITF チェックデジットの送信

ITF のチェックデジットの送信を設定することができます。この設定を変更するには [14.7.3.ITF チェックデジットの検査](#) (118 ページ) を**検査する**に設定しておく必要があります。

初期値 = 送信しない



送信しない



送信する

14.7.5. ITF を JAN13 に変換する

14桁のITFを13桁のJANコードに変換して出力することができます。正しく変換を行うためには、コードの先頭に0と、正しいJAN13用のチェックデジットが必要です。

初期値 = 変換しない



変換しない



変換する

14.7.6. ITF セキュリティレベル

ITF は、14.7.2.ITF 読取り桁数 (117 ページ) が任意桁数に設定されている場合、誤読に対して非常に脆弱です。スキャナは誤読に対して以下の4つのセキュリティレベルを提供します。セキュリティレベルと読み取り易さは相反していて、セキュリティレベルを上げると誤読に対して強固になりますが、バーコードの読み取り易さは低下します。必要なセキュリティレベルを設定してください。

セキュリティレベル 0 — この設定は、スキャナの設定を最大の状態で使用でき、ほとんどの「規格内」バーコードを読み取るために十分な精度を持っています。

セキュリティレベル 1 — このオプションは、妥当な読み取り精度を維持しながら、ほとんどの誤読を排除します。

セキュリティレベル 2 — このオプションは、セキュリティレベル 1 でも誤読してしまうような、品質の悪いバーコードの読み取るために使用します。

セキュリティレベル 3 — セキュリティレベル 2 でも誤読が発生する場合に、スキャナの持つ機能の範囲で最大限の正確性を提供します。

注 **セキュリティレベル 3** を選択することは、仕様外のバーコードを誤読することに対する極端な措置であり、エンジンの読み取り能力を著しく損ないます。このセキュリティレベルが必要な場合は、バーコードの品質を向上させることを強くお勧めいたします。

初期値 = ITF セキュリティレベル 1



ITF セキュリティレベル 0



ITF セキュリティレベル 1



ITF セキュリティレベル 2



ITF セキュリティレベル 3

14.7.7. ITF 縮小クワイエットゾーン

より小さいクワイエットゾーン（バーコードの左右にある空白のマージン）を含む ITF の読取りの有効化/無効化を設定することができます。この機能を「有効」に設定した場合、[14.24.4.1 次元コードのクワイエットゾーンレベル](#)（165 ページ）も選択してください。

初期値 = 無効



無効



有効

14.8. Discrete 2 of 5

14.8.1. Discrete 2 of 5 の読取り

Discrete 2 of 5 の読取りを設定することができます。

初期値 = 無効



無効



有効

14.8.2. Discrete 2 of 5 読取り桁数

Discrete 2 of 5 の読取り可能な桁数を以下の 4 種類から設定することができます。

1 つの固定桁数 — 設定した桁数の Discrete 2 of 5 のみを読み取ります。

2 つの固定桁数 — 設定した 2 つの桁数の Discrete 2 of 5 のみを読み取ります。

範囲指定 — 指定された範囲内の桁数の Discrete 2 of 5 のみを読み取ります。

任意桁数 — スキャナの機能が許す範囲で、桁数の指定を行わず読み取ります。任意桁数の使用は、誤読の発生する可能性を高めますのでご注意ください。

- ・ 6 桁で固定する：**1 つの固定桁数**→[25.数字バーコード](#) (288 ページ) から「0」「6」
- ・ 8 桁と 16 桁で固定する：**2 つの固定桁数**→[25.数字バーコード](#) (288 ページ) から「0」「8」「1」「6」
- ・ 4 桁～12 桁の範囲で設定する：**範囲指定**→[25.数字バーコード](#) (288 ページ) から「0」「4」「1」「2」

初期値 = 1 つの固定桁数 (12 桁)



1 つの固定桁数 (12)



2 つの固定桁数



範囲指定



任意桁数

14.9. NW-7 (codabar)

14.9.1. NW-7 の読取り

NW-7 の読取りを設定することができます。

初期値 = 有効



無効



有効

14.9.2. NW-7 読取り桁数

NW-7 の読取り可能な桁数を以下の4種類から設定することができます。

1つの固定桁数 — 設定した桁数のNW-7のみを読み取ります。

2つの固定桁数 — 設定した2つの桁数のNW-7のみを読み取ります。

範囲指定 — 指定された範囲内の桁数のNW-7のみを読み取ります。

任意桁数 — スキャナの機能が許す範囲で、桁数の指定を行わず読み取ります。

- ・ 6桁で固定する：**1つの固定桁数**→[25.数字バーコード](#) (288 ページ) から「0」「6」
- ・ 8桁と16桁で固定する：**2つの固定桁数**→[25.数字バーコード](#) (288 ページ) から「0」「8」「1」「6」
- ・ 4桁～12桁の範囲で設定する：**範囲指定**→[25.数字バーコード](#) (288 ページ) から「0」「4」「1」「2」

初期値 = 範囲指定 (5桁～55桁)



1つの固定桁数



2つの固定桁数



範囲指定 (5～55)



任意桁数

14.9.3. NW-7 CLSI 編集

14 文字の NW-7 を CLSI 形式で出力することができます。このオプションを有効にすると、スタート・ストップキャラクタを取り除き、14 文字の 1 文字目、5 文字目、10 文字目の後にスペースを挿入します。

注 スタート・ストップキャラクタは 14 文字には含まれません。

初期値 = 無効



無効



有効

14.9.4. NW-7 セキュリティレベル

MS852LR は誤読に対して以下の4つのセキュリティレベルを提供します。セキュリティレベルと読み取り易さは相反していて、セキュリティレベルを上げると誤読に対して強固になりますが、バーコードの読み取り易さは低下します。必要なセキュリティレベルを設定してください。

セキュリティレベル 0 – この設定は、スキャナの設定を最大の状態で使用でき、ほとんどの「規格内」バーコードを読み取るために十分な精度を持っています。

セキュリティレベル 1 – このオプションは、妥当な読み取り精度を維持しながら、ほとんどの誤読を排除します。

セキュリティレベル 2 – このオプションは、**セキュリティレベル 1**でも誤読してしまうような、品質の悪いバーコードの読み取るために使用します。

セキュリティレベル 3 – **セキュリティレベル 2**でも誤読が発生する場合に、スキャナの持つ機能の範囲で最大限の正確性を提供します。

注 **セキュリティレベル 3**を選択することは、仕様外のバーコードを誤読することに対する極端な措置であり、エンジンの読み取り能力を著しく損ないます。このセキュリティレベルが必要な場合は、バーコードの品質を向上させることを強くお勧めいたします。

初期値 = NW-7 セキュリティレベル 1



NW-7 セキュリティレベル 0



NW-7 セキュリティレベル 1



NW-7 セキュリティレベル 2



NW-7 セキュリティレベル 3

14.9.5. NW-7 スタート・ストップキャラクタの送信

スタート・ストップキャラクタとは、NW-7 の始まりと終わりに配置される文字のことです。通常「A、B、C、D」のいずれかのアルファベットが配置されます。

初期値 = 送信する



送信する



送信しない

14.9.6. NW-7 スタート・ストップキャラクタの文字種

NW-7 のスタート・ストップキャラクタの文字種を設定することができます。

初期値 = 大文字



大文字



小文字

14.9.7. NW-7 Mod16 チェックデジットの検査

この機能を使用すると、MS852LR は NW-7 の Mod16 チェックデジットを検査して、バーコードデータが指定されたチェックデジットアルゴリズムに準拠していることを確認できます。チェックデジットを**検査する**場合、誤ったチェックデジットを持った NW-7 および、チェックデジットを持たない NW-7 は読み取ることができなくなります。

初期値 = チェックデジットを検査しない



チェックデジットを検査する



チェックデジットを検査しない

14.9.8. NW-7 Mod16 チェックデジットの送信

以下のバーコードの1つをスキャンして、NW-7 のチェックデジットをバーコードデータの最後に追加して送信するかどうかを選択します。このパラメータを機能させるには、[14.9.7.NW-7 Mod16 チェックデジットの検査](#) (127 ページ) が**チェックデジットを検査する**設定になっている必要があります。

初期値 = チェックデジットを送信しない



チェックデジットを送信する



チェックデジットを送信しない

14.10. MSI

14.10.1. MSI の読取り

MSI の読取りを設定することができます。

初期値 = 無効



無効



有効

14.10.2. MSI 読取り桁数

MSI の読取り可能な桁数を以下の 4 種類から設定することができます。

1 つの固定桁数 — 設定した桁数の MSI のみを読み取ります。

2 つの固定桁数 — 設定した 2 つの桁数の MSI のみを読み取ります。

範囲指定 — 指定された範囲内の桁数の MSI のみを読み取ります。

任意桁数 — スキャナの機能が許す範囲で、桁数の指定を行わず読み取ります。

- ・ 6 桁で固定する：**1 つの固定桁数**→[25.数字バーコード](#) (288 ページ) から「0」「6」
- ・ 8 桁と 16 桁で固定する：**2 つの固定桁数**→[25.数字バーコード](#) (288 ページ) から「0」「8」「1」「6」
- ・ 4 桁～12 桁の範囲で設定する：**範囲桁数**→[25.数字バーコード](#) (288 ページ) から「0」「4」「1」「2」

初期値 = 範囲指定 (4 桁～55 桁)



1 つの固定桁数



2 つの固定桁数



範囲桁数 (4～55)



任意桁数

14.10.3. MSI チェックデジットの検査

MSI コードには1桁のチェックデジットが常に必要です。2桁目のチェックデジットはオプションです。**2桁のチェックデジット**を使用する場合は、[14.10.5.MSI チェックデジットのアルゴリズム](#) (130 ページ) も適切に設定してください。

初期値 = 1 桁のチェックデジット



1 桁のチェックデジット



2 桁のチェックデジット

14.10.4. MSI チェックデジットの送信

MSI のチェックデジットの送信を設定することができます。

初期値 = 送信しない



送信しない



送信する

14.10.5. MSI チェックデジットのアルゴリズム

2桁目のチェックデジットを検査するアルゴリズムは2つあります。以下のいずれかのバーコードをスキャンしてアルゴリズムを設定することができます。

初期値 = MOD10/MOD10



MOD11/MOD10



MOD10/MOD10

14.10.6. MSI 縮小クワイエットゾーン

より小さいクワイエットゾーン（バーコードの左右にある空白のマージン）を含む MSI の読取りの有効化/無効化を設定することができます。この機能を「有効」に設定した場合、[14.24.4.1 次元コードのクワイエットゾーンレベル](#)（165 ページ）も選択してください。

初期値 = 無効



無効



有効

14.11. Chinese 2 of 5

14.11.1. Chinese 2 of 5 の読取り

Chinese 2 of 5 の読取りを設定することができます。

初期値 = 無効



無効



有効

14.12. Matrix 2 of 5

14.12.1. Matrix 2 of 5 の読取り

Matrix 2 of 5 の読取りを設定することができます。

初期値 = 無効



無効



有効

14.12.2. Matrix 2 of 5 読取り桁数

Matrix 2 of 5 の読取り可能な桁数を以下の 4 種類から設定することができます。

1 つの固定桁数 — 設定した桁数の Matrix 2 of 5 のみを読み取ります。

2 つの固定桁数 — 設定した 2 つの桁数の Matrix 2 of 5 のみを読み取ります。

範囲指定 — 指定された範囲内の桁数の Matrix 2 of 5 のみを読み取ります。

任意桁数 — スキャナの機能が許す範囲で、桁数の指定を行わず読み取ります。任意桁数の使用は、誤読の発生する可能性を高めますのでご注意ください。

- ・ 6 桁で固定する：**1 つの固定桁数**→[25.数字バーコード](#) (288 ページ) から「0」「6」
- ・ 8 桁と 16 桁で固定する：**2 つの固定桁数**→[25.数字バーコード](#) (288 ページ) から「0」「8」「1」「6」
- ・ 4 桁～12 桁の範囲で設定する：**範囲指定**→[25.数字バーコード](#) (288 ページ) から「0」「4」「1」「2」

初期値 = 1 つの固定桁数 (14 桁)



1 つの固定桁数 (14)



2 つの固定桁数



範囲桁数



任意桁数

14.12.3. Matrix 2 of 5 チェックデジットの検査

Matrix 2 of 5 のチェックデジットの検査を設定することができます。**検査する**場合、誤ったチェックデジットを持つバーコードや、チェックデジットの無いバーコードを読取ることはできません。

初期値 ¥ = 検査しない



検査しない



検査する

14.12.4. Matrix 2 of 5 チェックデジットの送信

Matrix 2 of 5 のチェックデジットの送信を設定することができます。この設定を変更するには [14.12.3. Matrix 2 of 5 チェックデジットの検査](#) (133 ページ) を**検査する**に設定しておく必要があります。

初期値 = 送信しない



送信しない



送信する

14.13. GS1 Databar

14.13.1. GS1 Databar Omnidirectional の読取り

GS1 DataBar Omnidirectional、GS1 Databar Stacked の読取りを設定することができます。

初期値 = 有効



無効



有効

14.13.2. GS1 Databar Limited の読取り

GS1 Databar Limited の読取りを設定することができます。

初期値 = 有効



無効



有効

14.13.3. GS1 Databar Expanded の読取り

GS1 Databar Expanded、GS1 Databar Expanded Stacked の読取りを設定することができます。

初期値 = 有効



無効



有効

14.13.4. GS1 Databar を UPC/JAN に変換

GS1 Databar または GS1 Databar Limited を UPC/JAN に変換して送信します。この設定を**有効**にすると、先頭の「010」を削除して 13 桁の JAN-13 として送信されます。2 個以上 6 個未満の「0」から開始される場合は、「0100」を削除して 12 桁の UPC-A として送信されます。

初期値 = 無効



無効



有効

14.13.5. GS1 Databar Limited マージンチェックレベル

GS1 Databar Limited に対して 4 種類の読取精度レベルを設定することができます。レベルが高いほど読取精度も高くなりますが、バーコードをスキャンするときの読取速度が低下します。

マージンチェックレベル 1 — バーコードにクワイエットゾーン（バーコード左右の空白）は必要ありません。以前の GS1 規格に準拠しています。ただし「7」と「9」で始まる UPC コードを読取った時に GS1 Databar Limited として読取る可能性があります。

マージンチェックレベル 2 — 自動的にバーコードの危険性を検知します。UPC コードを読取った時に GS1 Databar Limited として読取る可能性があります。誤った読取りを行なう場合は、レベルを上げるか下げてください。

マージンチェックレベル 3 — 2011 年以降の新しい GS1 規格を読取るのに適しています。読取るバーコードの末尾に 5 モジュール分のクワイエットゾーン（バーコード左右の空白）が必要です。

マージンチェックレベル 4 — さらに厳しいバーコードの読取りに適しています。読取るバーコードの先頭と末尾に、それぞれ 5 モジュール分のクワイエットゾーン（バーコード左右の空白）が必要です。

初期値 = マージンチェックレベル 3



マージンチェックレベル 1



マージンチェックレベル 2



マージンチェックレベル 3



マージンチェックレベル 4

14.13.6. GS1 Databar セキュリティレベル

スキャナは GS1 Databar (GS1 Databar、GS1 Databar Limited、GS1 Databar Expanded) の誤読に対して以下の 4 つのセキュリティレベルを提供します。セキュリティレベルと読み取り易さは相反していて、セキュリティレベルを上げると誤読に対して強固になりますが、バーコードの読み取り易さは低下します。必要なセキュリティレベルを設定してください。

セキュリティレベル 0 — この設定は、スキャナの設定を最大の状態で使用でき、ほとんどの「規格内」バーコードを読み取るために十分な精度を持っています。

セキュリティレベル 1 — このオプションは、妥当な読み取り精度を維持しながら、ほとんどの誤読を排除します。

セキュリティレベル 2 — このオプションは、**セキュリティレベル 1** でも誤読してしまうような、品質の悪いバーコードの読み取るために使用します。

セキュリティレベル 3 — **セキュリティレベル 2** でも誤読が発生する場合に、スキャナの持つ機能の範囲で最大限の正確性を提供します。

注 **セキュリティレベル 3** を選択することは、仕様外のバーコードを誤読することに対する極端な措置であり、エンジンの読み取り能力を著しく損ないます。このセキュリティレベルが必要な場合は、バーコードの品質を向上させることを強くお勧めいたします。

初期値 = GS1 Databar セキュリティレベル 1



GS1 Databar セキュリティレベル 0



GS1 Databar セキュリティレベル 1



GS1 Databar セキュリティレベル 2



GS1 Databar セキュリティレベル 3

14.14. 合成シンボル

14.14.1. CC-C の読取り

合成シンボル CC-C の読取りを設定することができます。

初期値 = 無効



無効



有効

14.14.2. CC-A/B の読取り

合成シンボル CC-A、CC-B の読取りを設定することができます。

✂ この設定を**有効**にする場合は [14.14.5.UPC 合成モード](#) (141 ページ) も参照してください。

初期値 = 無効



無効



有効

14.14.3. TLC-39 の読取り

合成シンボル TLC-39 の読取りを設定することができます。

初期値 = 無効



無効



有効

14.14.4. 反転合成シンボル

反転した合成シンボルの読取りを設定することができます。

標準のみ — 標準の合成シンボルを読取ることができます。

反転のみ — 反転した合成シンボルを読取ることができます。このモードでは、GS1 Datbaar Limited を 1 次元コードに持った CC-A/B のみがサポートされます。このモードを正しく動作させるには、[14.13.2.GS1 Databar Limited の読取り](#)（134 ページ）と [14.14.2.CC-A/B の読取り](#)（138 ページ）が有効に設定されており、[14.24.1.反転 1 次元バーコード](#)（162 ページ）が**反転のみ**または**自動検出**に設定されている必要があります。

初期値 = 標準のみ



標準のみ



反転のみ

合成シンボルの例

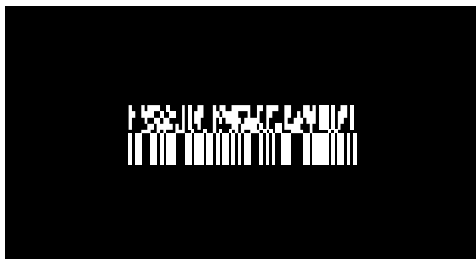
(標準合成シンボル)

標準合成シンボルを読み取るには、**標準のみ**に設定し、**反転 1 次元バーコード**を**標準のみ**または**自動検出**に設定します。



(反転合成シンボル)

反転合成シンボルを読み取るには、**反転のみ**に設定し、**反転 1 次元バーコード**を**標準のみ**または**自動検出**に設定します。



14.14.5. UPC 合成モード

14.14.2.CC-A/B の読取り (138 ページ) を有効に設定した場合、UPC/JAN コードをどのように扱うか設定することができます。

リンクしない — 2次元コードの有無にかかわらず、UPC/JAN コードのみを送信します。

常にリンクする* — UPC/JAN コードと2次元コードを常にリンクして送信します。2次元コードの存在しないUPC/JAN コードは読み取ることができません。

自動認識する — 2次元コードがリンクされているか自動認識して送信します。

初期値 = 常にリンクする



リンクしない



常にリンクする



自動認識する

14.14.6. ビープモード

合成シンボルの読取り成功時に何回ビープ音を鳴らすか設定することができます。

1回 — 読取り成功後に1回鳴ります。

各1回 — 各コードタイプ読取り成功後に1回ずつ鳴ります

2回 — 読取り成功後に2回鳴ります。

初期値 = 各1回



1回



各1回



2回

14.14.7. UCC/EAN 合成シンボルを GS1-128 に変換

UCC/EAN を含む合成シンボルを GS1-128 として出力します。

初期値 = 無効



無効



有効

14.15. PDF417

14.15.1. PDF417 の読取り

PDF417 の読取りを設定することができます。

初期値 = 有効



無効



有効

14.15.2. Micro PDF417 の読取り

Micro PDF417 の読取りを設定することができます。

初期値 = 無効



無効



有効

14.15.3. Code128 エミュレーション

このオプションを有効にすると、特定の Micro PDF417 コードを Code128 として送信することが出来ます。この機能を使用するためには [11.2.コード ID の送信](#) (63 ページ) が **AIM コード ID を送信** にセットされている必要があります。

以下の表は、この機能の設定値と特定の Micro PDF417 を読み取った時の AIM ID の確認表です。

先頭 3 桁	無効	有効
903~905	JL3	JC1
908、909	JL4	JC2
910、911	JL5	JC0

初期値 = 無効



無効



有効

14.15.4. PDF417 優先

この機能を**有効**に設定すると特定の 1 次元バーコード (下記参照) の読取りを [14.15.5.PDF417 優先タイムアウト](#) (145 ページ) の時間だけ遅延させることができます。スキャナは、優先タイムアウトまでの期間は PDF417 コードのみを読み取ろうとし、読取りに成功すると PDF417 コードのデータだけを出力します。その期間に PDF417 コードを読み取らなければ、1 次元バーコードの読取りを行い出力します。この設定は、PDF417 および下記 1 次元バーコード以外には影響を与えません。

特定の 1 次元バーコード

- Code 128 : 7~10 文字、14~22 文字、27~28 文字
- Code 39 : 8 文字、12 文字

初期値 = 無効



無効



有効

14.15.5. PDF417 優先タイムアウト

14.15.4.PDF417 優先 (144 ページ) が有効になっている場合の特定の 1 次元バーコードを読み取るまでのタイムアウト期間を設定することができます。設定範囲は 0000 ミリ秒～5000 ミリ秒です。

初期値 = 0200 ミリ秒



PDF417 優先タイムアウト

「400 ミリ秒」に変更する場合は、次の手順で行います。

1. PDF417 優先タイムアウトを読み取ります。
2. 25.数字バーコード (288 ページ) から「0」「4」「0」「0」の順に読み取ります。

14.16. Data Matrix

14.16.1. Data Matrix の読取り

Data matrix の読取りを設定することができます。

初期値 = 有効



無効



有効

14.16.2. GS1 Data Matrix の読取り

GS1 Data Matrix の読取りを設定することができます。

初期値 = 無効



無効



有効

14.16.3. Data Matrix 反転イメージの読取り

白と黒が反転している Data Matrix の読取りを設定することができます。

初期値 = 標準のみ



標準のみ



反転のみ



自動検出

14.17. Maxicode

14.17.1. Maxicode の読取り

Maxicode の読取りを設定することができます。

初期値 = 無効



無効



有効

14.18. QR コード

14.18.1. QR コードの読取り

QR コードの読取りを設定することができます。

初期値 = 有効



無効



有効

14.18.2. GS1 QR コードの読取り

GS1 QR コードの読取りを設定することができます。

初期値 = 無効



無効



有効

14.18.3. Micro QR コードの読取り

Micro QR コードの読取りを設定することができます。

初期値 = 有効



無効



有効

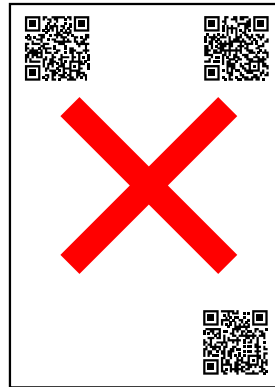
14.18.4. QR コードの連結機能について

スキャナは QR コードの使用に従って分割された QR コードを連結して出力することができます。QR コードの連結機能を使用するには、スキャナのフォーカス範囲にすべての分割された QR コードが存在している必要があります。QR コードの分割仕様に従っていなかったり、QR コード同士が離れていたり、QR コードが複数の紙面にまたがっていたりする場合は読取ることができませんのでご注意ください。

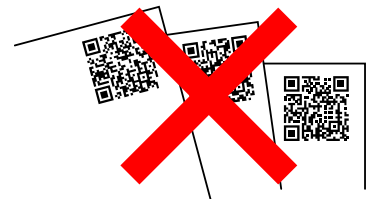
仕様に従っていない



離れている



複数の紙面にまたがっている



常に連結* — スキャナは、仕様に沿って分割された QR コードを 1 回のスキャンで読取り、連結したデータを送信します。

連結なし、ヘッダあり — スキャナは仕様に沿って分割された QR コードを、個別の QR コードとして読取り、ヘッダ情報を含めたデータを送信します。

連結なし、ヘッダなし — スキャナは仕様に沿って分割された QR コードを、個別の QR コードとして読取り、ヘッダ情報を除外したデータで送信します。

初期値 = 常に連結



常に連結



連結なし、ヘッダあり



連結なし、ヘッダなし

14.19. Aztec

14.19.1. Aztec の読取り

Aztec の読取りを設定することができます。

初期値 = 有効



無効



有効

14.19.2. Aztec 反転イメージの読取り

白と黒が反転している Aztec の読取りを設定することができます。

初期値 = 自動検出



標準のみ



反転のみ



自動検出

14.20. Han Xin

14.20.1. Han Xin の読取り

Han Xin の読取りを設定することができます。

初期値 = 無効



無効



有効

14.20.2. Han Xin 反転イメージの読取り

白と黒が反転している Han Xin の読取りを設定することができます。

初期値 = 標準のみ



標準のみ



反転のみ



自動検出

14.21. Grid Matrix

14.21.1. Grid Matrix の読取り

Grid Matrix の読取りを設定することができます。

初期値 = 有効



無効



有効

14.21.2. Grid Matrix 反転イメージの読取り

白と黒が反転している Grid Matrix の読取りを設定することができます。

初期値 = 標準のみ



標準のみ



反転のみ



自動検出

14.21.3. Grid Matrix 鏡面イメージの読取り

左右が反転している Data Matrix の読取りを設定することができます。

初期値 = 標準のみ



標準のみ



反転のみ



自動検出

14.22. DotCode

14.22.1. DotCode の読取り

DotCode の読取りを設定することができます。

初期値 = 無効



無効



有効

14.22.2. DotCode 反転イメージの読取り

白と黒が反転している DotCode の読取りを設定することができます。

初期値 = 自動検出



標準のみ



反転のみ



自動検出

14.22.3. DotCode 鏡面イメージの読取り

左右が反転している DotCode の読取りを設定することができます。

初期値 = 自動検出



標準のみ



反転のみ



自動検出

14.22.4. DotCode 優先

この機能を使用して他のシンボルに比べて DotCode を優先的に読み取れるようにします。

初期値 = 無効



無効



有効

14.23. 郵便バーコード

14.23.1. US Postnet の読取り

US Postnet の読取りを設定することができます。

初期値 = 無効



無効



有効

14.23.2. US Planet の読取り

US Planet の読取りを設定することができます。

初期値 = 無効



無効



有効

14.23.2.1. US Postal チェックデジットの送信

US Postnet および US Planet を含む、US Postal のチェックデジットの送信を設定することができます。

初期値 = 送信する



送信しない



送信する

14.23.3. UK Postal の読取り

UK Postal の読取りを設定することができます。

初期値 = 無効



無効



有効

14.23.3.1. UK Postal チェックデジットの送信

UK Postal のチェックデジットの送信を設定することができます。

初期値 = 送信する



送信しない



送信する

14.23.4. 日本郵便カスタマバーコードの読取り

カスタマバーコードの読取りを設定することができます。

初期値 = 無効



無効



有効

14.23.5. Australia Post の読取り

Australia Post の読取りを設定することができます。

初期値 = 無効



無効



有効

14.23.5.1. Australia Post フォーマット

Australia Post のフォーマットを設定することができます。

自動識別 - N および C エンコーディングテーブルを使用して顧客情報フィールドをデコードします。このオプションは、エンコーディングテーブルを指定していないため、誤読のリスクが増加します。

Raw フォーマット - 0~3 の数字を使用した生データのパターンで出力します。

英数字エンコード - C エンコーディングテーブルを使用して顧客情報フィールドをデコードします。

数字エンコード - N エンコーディングテーブルを使用して顧客情報フィールドをデコードします。

🔗 Australia Post のエンコーディングテーブルの詳細については、<http://www.auspost.com.au> の Australia Post Customer Barcoding Technical Specifications を参照してください。

初期値 = 自動識別



自動識別



Raw フォーマット



英数字エンコード



数字エンコード

14.23.6. Netherlands KIX コードの読取り

Netherlands KIX コードの読取りを設定することができます。

初期値 = 無効



無効



有効

14.23.7. USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail の読取り

USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail の読取りを設定することができます。

初期値 = 無効



無効



有効

14.23.8. UPU FICS Postal の読取り

UPU FICS Postal の読取りを設定することができます。

初期値 = 無効



無効



有効

14.23.9. Mailmark の読取り

Mailmark の読取りを設定することができます。

初期値 = 無効



無効



有効

14.23.10. Korea Postal の読取り

Korean Postal の読取りを設定することができます。

✎ Korean Postal の読取り桁数は「6桁」に固定されています。

初期値 = 無効



無効



有効

14.24. オプション設定

14.24.1. 反転 1 次元バーコード

白と黒が反転している 1 次元バーコードの読取りを設定することができます。

標準のみ — 標準の 1 次元バーコードのみ読取ることができます。

反転のみ — 反転の 1 次元バーコードのみ読取ることができます。

自動検出 — 標準と反転の両方の 1 次元バーコードを読取ることができます。

初期値 = 標準のみ



標準のみ



反転のみ



自動検出

14.24.2. 2 値バーコードのセキュリティレベル

スキャナは特定バーコードの誤読に対して以下の4つのセキュリティレベルを提供します。セキュリティレベルと読み取り易さは相反していて、セキュリティレベルを上げると誤読に対して強固になりますが、バーコードの読み取り易さは低下します。必要なセキュリティレベルを設定してください。

セキュリティレベル 1* – 次のバーコードを読取る際に2度読みして一致してから出力します。

- 8桁以下の Codabar (NW-7)
- 4桁以下の MSI
- 8桁以下の Discrete 2 of 5
- 8桁以下の Interleaved 2 of 5 (ITF)

セキュリティレベル 2 – すべての2値バーコードを読取る際に2度読みして一致してから出力します。

セキュリティレベル 3 – 次のバーコードを読取る際には3度読みして一致してから出力します。それ以外のバーコードは2度読みして一致してから出力します。

- 8桁以下の Codabar (NW-7)
- 4桁以下の MSI
- 8桁以下の Discrete 2 of 5
- 8桁以下の Interleaved 2 of 5 (ITF)

セキュリティレベル 4 – すべての2値バーコードを読取る際に3度読みして一致してから出力します。

初期値 = 2 値バーコード セキュリティレベル 1



2 値バーコード セキュリティレベル 1



2 値バーコード セキュリティレベル 2



2 値バーコード セキュリティレベル 3



2 値バーコード セキュリティレベル 4

14.24.3. 4 値バーコードのセキュリティレベル

スキャナは特定バーコード（Code128、Code93、JAN/EAN/UPC）の誤読に対して以下の4つのセキュリティレベルを提供します。セキュリティレベルと読み取り易さは相反していて、セキュリティレベルを上げると誤読に対して強固になりますが、バーコードの読み取り易さは低下します。必要なセキュリティレベルを設定してください。

セキュリティレベル 0 — この設定は、スキャナの設定を最大の状態で使用でき、ほとんどの「規格内」バーコードを読み取るために十分な精度を持っています。

セキュリティレベル 1* — このオプションは、妥当な読み取り精度を維持しながら、ほとんどの誤読を排除します。

セキュリティレベル 2 — このオプションは、**セキュリティレベル 1**でも誤読してしまうような、品質の悪いバーコードの読み取るために使用します。

セキュリティレベル 3 — **セキュリティレベル 2**でも誤読が発生する場合に、スキャナの持つ機能の範囲で最大限の正確性を提供します。

注 **セキュリティレベル 3**を選択することは、仕様外のバーコードを誤読することに対する極端な措置であり、エンジンの読み取り能力を著しく損ないます。このセキュリティレベルが必要な場合は、バーコードの品質を向上させることを強くお勧めいたします。

初期値 = 4 値バーコード セキュリティレベル 1



4 値バーコード セキュリティレベル 0



4 値バーコード セキュリティレベル 1



4 値バーコード セキュリティレベル 2



4 値バーコード セキュリティレベル 3

14.24.4. 1 次元コードのクワイエットゾーンレベル

この機能は、クワイエットゾーン（バーコード左右にある空白のマージン）が少ないバーコードに対する読み取りに使用されます。クワイエットゾーンレベルを高くすることは、読み取りの時間を長くし誤読のリスクを高めるため、必要なコードタイプのみ有効にし、その他のコードタイプでは無効にすることを強くお勧めします。

クワイエットゾーンレベル 0 – スキャナはクワイエットゾーンに関して通常通りに動作します。

クワイエットゾーンレベル 1* – スキャナはクワイエットゾーンに関して厳密に動作します。

クワイエットゾーンレベル 2 – スキャナは読み取りのためにバーコードの終わりにあるクワイエットゾーンのみを必要とします。

クワイエットゾーンレベル 3 – スキャナはクワイエットゾーンやバーコードの終わりに何も無くても読み取ります。

初期値 = クワイエットゾーンレベル 1



クワイエットゾーンレベル 0



クワイエットゾーンレベル 1



クワイエットゾーンレベル 2



クワイエットゾーンレベル 3

14.24.5. 文字間ギャップサイズ

Code 39 および NW-7 (codabar) は、一般的に小さな文字間ギャップを持っていますが、これは通常とても小さいものです。バーコード印刷技術によっては、このギャップが許容される最大サイズよりも大きくなり、読み取りができなくなる場合があります。この問題が発生した場合、**大きい文字間ギャップ**を設定することで、このような規格外のバーコードを読み取ることができる可能性があります。

初期値 = 通常の文字間ギャップ



通常の文字間ギャップ



大きい文字間ギャップ

14.24.6. 優先シンボル

複数のシンボルから1つのシンボルを優先的に読み取って出力することが出来ます。この機能を使用すれば、構成した設定に従って必要なバーコードをスキャナが自動的に検出し出力します。

設定方法は 123Scan²の [19.4.優先シンボルの設定について](#) (226 ページ) をご確認ください。

14.24.7. マクロ PDF417

マクロ PDF417 とは、単一の PDF417 では表現できないような大量のデータを、複数のコードに分割して表現した PDF417 を一つのデータとしてエンコードする機能のことです。スキャナは、最大 50 個のマクロ PDF417 シンボルに格納された 64KB 以上の読み取りデータに対応することができます。

注 異なるコードタイプのバーコードや、連続していないシーケンスを持つマクロ PDF417 を読み取るとエラー音（低音-低音）が鳴ります。

14.24.7.1. バッファの送信

このバーコードを読み取ると、スキャナはその時点で保存されていたマクロ PDF417 のデータを全てホストへ送信し、マクロ PDF417 の読取りを中止します。



マクロ PDF417 バッファの送信

14.24.7.2. エントリの中止

このバーコードを読み取ると、スキャナはその時点で保存されていたマクロ PDF417 のデータをホストへ送信せずにクリアし、マクロ PDF417 の読取りを中止します。



マクロ PDF417 エントリの中止


15. Digimarc® Barcode

Digimarc Barcode は、人間の目には見えないパターンを製品パッケージ、印刷物、画像などに埋め込みます。埋め込まれたパターンは、人間には知覚できませんが、スマートフォンのカメラやバーコードイメージスキャナなどで読取ることができます。


Digimarc Barcode – The Barcode of Everything™

Digimarc Barcode

- Generally imperceptible by humans in normal use for all media
- Does everything UPC barcode does, but better
- Can be applied to audio as well as images
- Reliable, efficient, economical, and scalable




Looks Like This



Performs Like This

10



[Digimarc 社より引用]

上の画像は Digimarc Barcode の埋め込みイメージです。この図では埋め込みパターンがバーコードとして表されていますが、分かりやすくするためのもので厳密には正しくありません。

MS852LR は、Digimarc 対応バーコードスキャナですので、このようなウォーターマーク（透かし）から情報を取り出して、あたかもバーコードを読み取るのと同じようにデータを復元し出力することができます。

🔗 Digimarc Barcode についての詳細は、Digimarc 社の Web サイトをご覧ください。

15.1. Digimarc Barcode の読取り

Digimarc Barcode の読み取りを設定することができます。

初期値 = 無効



有効



無効

16.2. OCR-A の読取り

OCR-A フォントの読取りを設定します。

注 OCR はバーコードほど誤読に対して強固ではありません。OCR の誤読を減らし、OCR の読取りを高速化させるには、正確な OCR テンプレートと文字サブセットを設定し、チェックデジットを使用します。

注 すべての OCR フォントは、ご購入時には読み取り無効に設定されています。OCR の読取りを有効にすると、バーコードの読取りが遅くなることがあります。複数の OCR フォントを有効にすると、OCR の読取り速度が遅くなり、また OCR の読取り精度にも影響を与える可能性があります。

初期値 = OCR-A 無効



OCR-A 有効



OCR-A 無効

16.3. OCR-A バリエント

OCR-A バリエントを選択するには、以下のバーコードのいずれかをスキャンします。最も適切なバリエントを選択すると、パフォーマンスと精度が最適化されます。

OCR-A は以下のバリエントをサポートします。

- OCR-A フルアスキー
! " # \$ % & ' () * + , - . / 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 < > A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z ¥ ^
- OCR-A 予約 1
\$ * + - . / 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
- OCR-A 予約 2
\$ * + - . / 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 < > A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
- OCR-A Banking
- 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 < > ¥ ¢ ¤

OCR-A Banking 専用の 3 つの特殊文字は、以下の文字として出力されます。

「¥」は「f」として出力されます。

「¢」は「c」として出力されます。

「¤」は「h」として出力されます。

✎ このパラメータを設定する前に、[16.2.OCR-A の読取り](#) (171 ページ) を**有効**にします。

✎ [16.2.OCR-A の読取り](#) (171 ページ) を**無効**にすると、このパラメータは初期値 (OCR-A フルアスキー) に戻ります。

OCR-A バリエント (続き)

初期値 = OCR-A フルアスキー



OCR-A フルアスキー



OCR-A 予約 1



OCR-A 予約 2



OCR-A Banking

16.4. OCR-B の読取り

OCR-B フォントの読取りを設定します。

注 OCR はバーコードほど誤読に対して強固ではありません。OCR の誤読を減らし、OCR の読取りを高速化させるには、正確な OCR テンプレートと文字サブセットを設定し、チェックデジットを使用します。

注 すべての OCR フォントは、ご購入時には読み取り無効に設定されています。OCR の読取りを有効にすると、バーコードの読取りが遅くなることがあります。複数の OCR フォントを有効にすると、OCR の読取り速度が遅くなり、また OCR の読取り精度にも影響を与える可能性があります。

初期値 = OCR-B 無効



OCR-B 有効



OCR-B 無効

16.5. OCR-B バリエーション

OCR-B は以下のバリエーションをサポートします。最も適切なバリエーションを選択すると、パフォーマンスと精度が最適化されます。

- OCR-B フルアスキー
!"#\$%()*+,-./0123456789<>ABCDEFGHIJKLMN OPQRSTUVWXYZ^_|~
- OCR-B Banking
#+-0123456789<>JNP|
- OCR-B Limited
+,-./0123456789<>ACENPSTVX
- OCR-B ISBN-10
-0123456789>BCEINPSXz
- OCR-B ISBN-10 または ISBN-13
-0123456789>BCEINPSXz
- OCR-B 旅券 TD1 サイズ (3 行 ID カード)
-0123456789<ABCDEFGHIJKLMN OPQRSTUVWXYZ
- OCR-B 旅券 TD2 サイズ (2 行 ID カード)
-0123456789<ABCDEFGHIJKLMN OPQRSTUVWXYZ
- OCR-B 旅券サイズ自動識別 (TD1/TD2)
!"#\$%()*+,-./0123456789<>ABCDEFGHIJKLMN OPQRSTUVWXYZ^_|~
- OCR-B パスポート
-0123456789<ABCDEFGHIJKLMN OPQRSTUVWXYZñ
- OCR-B ビザ タイプ A
-0123456789<ABCDEFGHIJKLMN OPQRSTUVWXYZ
- OCR-B ビザ タイプ B
-0123456789<ABCDEFGHIJKLMN OPQRSTUVWXYZñ
- OCR-B ICAO 旅行書類
この文字サブセットは、TD1、TD2、パスポート、ビザ タイプ A、ビザ タイプ B を切り替えずに読み取ることができます。読み取った旅行書類を自動的に識別します。

次の OCR-B バリエーションを選択すると、OCR 読取り行数が自動的に設定されます。これら 5 つのバリエーションは、そのドキュメントタイプ特有のテンプレートや、アルゴリズムをセットします。

文字サブセット OCR ライン

パスポート	2 行
TD1 ID カード	3 行
TD2 ID カード	2 行
ビザ タイプ A	2 行
ビザ タイプ B	2 行

✎ ISBN を選択すると、自動的に適切なチェックデジットが適用されます。

✎ このパラメータを設定する前に、[16.4.OCR-B の読取り](#) (174 ページ) を有効にします。

✎ [16.4.OCR-B の読取り](#) (174 ページ) を無効にすると、このパラメータは初期値 (OCR-B フルアスキー) に戻ります。

OCR-B バリエント (続き)

初期値 = OCR-B フルアスキー



OCR-B フルアスキー



OCR-B Banking



OCR-B Limited



OCR-B ISBN-10

OCR-B バリエント (続き)



OCR-B ISBN-10 または ISBN-13



OCR-B 旅券 TD1 サイズ (3 行 ID カード)



OCR-B 旅券 TD2 サイズ (2 行 ID カード)



OCR-B 旅券サイズ自動識別 (TD1/TD2)

OCR-B バリエント (続き)



OCR-B パスポート



OCR-B ビザ タイプ A



OCR-B ビザ タイプ B



OCR-B ICAO 旅行書類

16.6. MICR E13B の読取り

MICR E13B フォントの読取りを設定します。MICR E13B は、以下の文字をサポートしています。

1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 . / -

MICR E13B 専用の 4 つの特殊文字 (TOAD : Transit、On Us、Amount、Dash) は、以下の文字として出力されます。

「.」は「t」として出力されます。

「/」は「a」として出力されます。

「-」は「o」として出力されます。

「0」は「d」として出力されます。

注 OCR はバーコードほど誤読に対して強固ではありません。OCR の誤読を減らし、OCR の読取りを高速化させるには、正確な OCR テンプレートと文字サブセットを設定し、チェックデジットを使用します。

注 すべての OCR フォントは、ご購入時には読み取り無効に設定されています。OCR の読取りを有効にすると、バーコードの読取りが遅くなることがあります。複数の OCR フォントを有効にすると、OCR の読取り速度が遅くなり、また OCR の読取り精度にも影響を与える可能性があります。

初期値 = MICR E13B 無効



MICR E13B 有効



MICR E13B 無効

16.7. US Currency Serial Number の読取り

US Currency Serial Number の読取りを設定します。

注 OCR はバーコードほど誤読に対して強固ではありません。OCR の誤読を減らし、OCR の読取りを高速化させるには、正確な OCR テンプレートと文字サブセットを設定し、チェックデジットを使用します。

注 すべての OCR フォントは、ご購入時には読み取り無効に設定されています。OCR の読取りを有効にすると、バーコードの読取りが遅くなることがあります。複数の OCR フォントを有効にすると、OCR の読取り速度が遅くなり、また OCR の読取り精度にも影響を与える可能性があります。

初期値 = US Currency Serial Number 無効



US Currency Serial Number 有効



US Currency Serial Number 無効

16.8. OCR 読取り方向

以下の5つのオプションから、OCR文字列の読取り方向を選択します。誤ったOCR文字列の読取り方向は誤読の原因になります。

初期値 = 正面 0°



OCR 読取り方向：正面 0°



OCR 読取り方向：時計回り 270°



OCR 読取り方向：時計回り 180°



OCR 読取り方向：時計回り 90°



OCR 読取り方向：全方向

16.9. OCR 読取り行数

以下から読み取る OCR 文字列の行数を選択します。[16.5.OCR-B バリエント](#) (175 ページ) のパスポート、ビザ、TD1/TD2 ID カードでは適切な行数が自動的に使用されます。

初期値 = OCR 読取り行数 : 1 行



OCR 読取り行数 : 1 行



OCR 読取り行数 : 2 行



OCR 読取り行数 : 3 行

16.10. OCR 最小文字数

読取りを行う行ごとの OCR 文字列の最小文字数 (スペースは含まない) を設定します。この値を変更するには、以下の **OCR 最小文字数** バーコードを読み取り、続いて [25.数字バーコード](#) (288 ページ) を使用して、希望の最小文字数を 3 つの数値を読み取って設定します。設定可能な範囲は 003~100 です。MS852LR は、最小文字数未満で構成された OCR 文字列を無視して読み取りません。

初期値 = 003



OCR 最小文字数

16.11. OCR 最大文字数

読取りを行う行ごとの OCR 文字列の最大文字数 (スペースも含む) を設定します。この値を変更するには、以下の **OCR 最大文字数** バーコードを読み取り、続いて [25.数字バーコード](#) (288 ページ) を使用して、希望の最大文字数を 3 つの数値を読み取って設定します。設定可能な範囲は 003~100 です。MS852LR は、最大文字数より多い文字数で構成された OCR 文字列を無視して読み取りません。

初期値 = 100



OCR 最大文字数

16.12. OCR サブセット

OCR サブセットを設定して、プリセットされている OCR-A/OCR-B バリエントの代わりに文字のカスタムグループを定義します。たとえば、数字と A、B、C、D の文字のみで構成された OCR 文字を読み取る場合は、読取りを高速化するために、これらの文字のみのサブセットを作成します。ここで定義されたカスタムサブセットは、有効なすべての OCR フォントに対して適用されます。

OCR サブセットを設定または変更するには、まず適切な OCR フォント（OCR-A または、OCR-B）を有効にします。次に、以下の **OCR サブセット** バーコードを読み取り、[26.英数記号バーコード](#)（290 ページ）から、数字と文字を読み取って OCR サブセットを形成します。最後に、[26.英数記号バーコード](#)（290 ページ）から**メッセージの終了**バーコードを読み取り、OCR サブセットを保存します。

OCR-A または OCR-B の OCR サブセットの使用を中止するには、[16.3.OCR-A バリエント](#)（172 ページ）または、[16.5.OCR-B バリエント](#)（175 ページ）のフルアスキーを設定し、OCR サブセットに Null を設定します。



OCR サブセット

16.13. OCR クワイエットゾーン

このオプションは、OCR のクワイエットゾーン（空白領域）を設定します。スキャナは、OCR 文字列内に十分に広い空白領域を検出すると、そこを終端としてスキャンを停止します。この空白の幅は「フィールドの終了」オプションによって定義されます。斜体文字を許容するパーサーと一緒に使用すると、「フィールドの終了」カウントは、文字幅に対しておよそ 8 となります。たとえば、このオプションが 15 に設定されている場合、2 文字分の幅の空白領域が、OCR 文字列の行末（終端）指標となります。このオプションの値を大きくすると、その分だけ OCR 文字列の各終端に大きな幅のクワイエットゾーン（空白領域）が必要になります。

クワイエットゾーンの値を変更するには、以下のバーコードをスキャンしてから、[25.数字バーコード](#)（288 ページ）を使用して、2 桁の数字を読み取ります。クワイエットゾーンの適用可能範囲は 20～99 です。標準値は 50 で、6 文字幅のクワイエットゾーンを示します。

初期値 = 50



OCR クワイエットゾーン

16.14. OCR テンプレート

このオプションは、スキャンする OCR 文字列を希望の入力形式に正確に一致させるためのテンプレートを作成します。OCR テンプレートを適切に作成すると、スキャンエラーがなくなります（減少します）。

OCR テンプレートを設定または変更するには、**OCR テンプレート**バーコードをスキャンしてから、次から始まる数字と文字に対応するバーコードをスキャンしてテンプレート式を形成し、最後に**メッセージの終了**バーコードをスキャンして、OCR テンプレートの設定または変更を終了します。標準値は、8桁の数字のみで構成された OCR 文字列の読取りのみを許可する「99999999」です。

初期値 = 99999999



OCR テンプレート



メッセージの終了

16.14.1. 数字必須

OCR テンプレート内のこの文字が示す位置では、数字のみが許可されます。



9

テンプレート	有効な OCR 文字列	有効な OCR 文字列	無効な OCR 文字列
99999	12987	30517	123AB

16.14.2. 英字必須

OCR テンプレート内のこの文字が示す位置では、英字のみが許可されます。



A

テンプレート	有効な OCR 文字列	有効な OCR 文字列	無効な OCR 文字列
AAA	ABC	WXY	12F

16.14.3. 英数字オプション

OCR テンプレート内のこの文字が示す位置に英数字が現れた場合は受け入れます。

注 オプション文字は、同種の文字のフィールドの最初の文字としては使用できません。



1

テンプレート	有効な OCR 文字列	有効な OCR 文字列	無効な OCR 文字列
99991	1234A	12345	1234<

16.14.4. 英字オプション

OCR テンプレート内のこの文字が示す位置に英字が現れた場合は受け入れます。

注 オプション文字は、同種の文字のフィールドの最初の文字としては使用できません。



2

テンプレート	有効な OCR 文字列	有効な OCR 文字列	無効な OCR 文字列
AAAA2	ABCDE	WXYZ	ABCD6

16.14.5. 英字または数字

OCR テンプレート内のこの文字が示す位置では、英字または数字のみが許可されます。



3

テンプレート	有効な OCR 文字列	有効な OCR 文字列	無効な OCR 文字列
33333	12ABC	WXY34	12AB<

16.14.6. スペース/リジェクトを含む任意の文字

OCR テンプレート内のこの文字が示す位置では、スペースとリジェクトを含む任意の文字を受け入れます。リジェクトは、アンダースコア (_) として出力されます。これはトラブルシューティングに適した選択です。



4

テンプレート	有効な OCR 文字列	有効な OCR 文字列
99499	12\$34	34_98

16.14.7. スペース/リジェクトを除く任意の文字

OCR テンプレート内のこの文字が示す位置では、スペースとリジェクトを除く任意の文字を受け入れます。



5

テンプレート	有効な OCR 文字列	有効な OCR 文字列	無効な OCR 文字列
55999	A.123	*Z456	A BCD

16.14.8. 数字オプション

OCR テンプレート内のこの文字が示す位置に数字が現れた場合は受け入れます。

注 オプション文字は、同種の文字のフィールドの最初の文字としては使用できません。



7

テンプレート	有効な OCR 文字列	有効な OCR 文字列	無効な OCR 文字列
99977	12345	789	7898AB

16.14.9. 数字または埋め文字

OCR テンプレート内のこの文字が示す位置では、数字または埋め文字のみが許可されます。



8

テンプレート	有効な OCR 文字列	有効な OCR 文字列	有効な OCR 文字列
88899	12345	>>789	<<789

16.14.10. 英字または埋め文字

OCR テンプレート内のこの文字が示す位置では、英字または埋め文字のみが許可されます。



F

テンプレート	有効な OCR 文字列	有効な OCR 文字列	無効な OCR 文字列
AAAFF	ABCXY	LMN>>	ABC<5

16.14.11. スペースオプション

OCR テンプレート内のこの文字が示す位置にスペースが現れた場合は受け入れます。

注 オプション文字は、同種の文字のフィールドの最初の文字としては使用できません。



スペース

テンプレート	有効な OCR 文字列	有効な OCR 文字列	無効な OCR 文字列
99 99	12 34	1234	67891

16.14.12. 特殊文字オプション

OCR テンプレート内のこの文字が示す位置に特殊文字が現れた場合は受け入れます。

注 オプション文字は、同種の文字のフィールドの最初の文字としては使用できません。

注 特殊文字とは「- (ハイフン)」と「. (ドット)」です。



テンプレート	有効な OCR 文字列	有効な OCR 文字列	無効な OCR 文字列
AA.99	MN.35	XY98	XYZ12

16.14.13. その他のテンプレート演算子

これらのテンプレート演算子は、スキャンした OCR 文字列のキャプチャ、区切り、フォーマットをサポートします。

16.14.13.1. リテラル文字列

スキャンする OCR 文字列に存在しなければならないリテラル文字列を定義するには、[26.英数記号バーコード](#) (290 ページ) を使用して文字 (列) を作成し、2つの区切り文字のいずれかで囲みます。リテラル文字列を区切るための文字は、「“ (ダブルクォーテーション)」または「+ (プラス)」です。これらの区切り文字のいずれかが希望するリテラル文字列に存在する場合は、もう一方の区切り文字を使用します。



“



+

テンプレート	有効な OCR 文字列	無効な OCR 文字列
“35+BC”	35+BC	AB+22

16.14.13.2. 改行

複数行のテンプレートを作成するには、各行のテンプレートの上に E を追加します。



E

テンプレート	有効な OCR 文字列	有効な OCR 文字列	無効な OCR 文字列
999EAAAA	321 BCAD	987 ZXYW	XYZW 12

16.14.13.3. 文字列抽出

このテンプレート用演算子は、他のテンプレート用演算子と組み合わせて、読み取った OCR 文字列から抽出する文字列を定義します。文字列の抽出は以下の様に構成されています。

CbPe

- C は、文字列抽出演算子
- b は、抽出を開始する区切り文字
- P は、文字列表現を記述するカテゴリ（1つ以上の数字または英字）
- e は、抽出を終了する区切り文字

b と e の値は、任意の読取り可能な文字にすることができます。これらは出力データに含まれます。



C

テンプレート	読み取る OCR 文字列	出力される OCR 文字列
C>A>	XQ3>ABCDE>	>ABCDE>
	->ATHRUZ>123	>ATHRUZ>
	1ABCZXYZ	出力なし

16.14.13.4. フィールドの終わりを無視す

このテンプレート演算子を使用すると、それ以降の OCR 文字列がすべて無視されます。テンプレート式の最後の文字として使用します。



D

テンプレート	読み取る OCR 文字列	出力される OCR 文字列
999D	123-PED	123
	357298	357
	193	193

16.14.13.5. XX に一致するまでスキップ

このテンプレート演算子を使用すると、特定の文字種またはリテラル文字列に一致するまで OCR 文字をスキップします。2つの方法で使用できます。

P1ct

(特定の文字種)

- P1 は、XX に一致するまでスキップする演算子
- c は、出力を開始するためのトリガーとなる文字種
- t は、1つ以上の OCR テンプレート文字

(特定のリテラル文字列)

- P1 は、XX に一致するまでスキップする演算子
- c は、出力を開始するためのトリガーとなる1つ以上のリテラル文字列 (189 ページ)
- t は、1つ以上の OCR テンプレート文字

トリガーとなる文字種またはリテラル文字列は出力されるデータに含まれ、それはテンプレートに含まれなければなりません。



P



1

テンプレート	読み取る OCR 文字列	出力される OCR 文字列
P1"PN"AA9999	123PN9876	PN9876
	PN1234	PN1234
	X-PN3592	PN3592

16.14.13.6. XX に非一致するまでスキップ

このテンプレート演算子を使用すると、特定の文字種またはリテラル文字列に非一致するまで OCR 文字をスキップします。2つの方法で使用できます。

P0ct

(特定の文字種)

- P1 は、XX に非一致するまでスキップする演算子
- c は、出力を開始するためのトリガーとなる文字種
- t は、1つ以上の OCR テンプレート文字

(特定のリテラル文字列)

- P1 は、XX に非一致するまでスキップする演算子
- c は、出力を開始するためのトリガーとなる1つ以上のリテラル文字列 (189 ページ)
- t は、1つ以上の OCR テンプレート文字

トリガーとなる文字種またはリテラル文字列は出力されるデータには含まれません。



P



0

テンプレート	読み取る OCR 文字列	出力される OCR 文字列
P0A9999	BPN3456	3456
	PN1234	1234
	5341	出力なし

テンプレート	読み取る OCR 文字列	出力される OCR 文字列
P0"PN"9999	PN3456	3456
	5341	出力なし
	PNPN7654	7654

16.14.13.7. 繰り返し

このテンプレート演算子は、直前の OCR テンプレート文字を 1 回以上繰り返すことを許容し、可変長の OCR 文字列の読取りを可能にします。例では、2 つの英字（必須）の後に 1 つ以上の数字（必須）を受け入れます。



R

テンプレート	読み取る OCR 文字列	出力される OCR 文字列
AA9R	AB3	AB3
	PN12345	PN12345
	32RM52700	出力なし

16.14.13.8. テンプレートに一致するまでスクロール

このテンプレート演算子は、読み取った OCR 文字列に対してテンプレートが一致するまで 1 文字ずつスクロールします。



S

テンプレート	読み取る OCR 文字列	出力される OCR 文字列
S99999	AB3	出力なし
	PN12345	12345
	32RM52700	52700

16.14.13.9. 複数テンプレート

この機能では OCR 文字列読取り用の複数のテンプレートをスキヤナに設定します。これを行うには、16.14. OCR テンプレート (184 ページ) の手順に従って OCR テンプレートを作成し、次の OCR テンプレートと区切るために X を区切り文字として使用します。

たとえば、OCR テンプレートを **99999XAAAAA** に設定すると、**12345** または **ABCDE** のいずれかの OCR 文字列を読取ることができます。

16.14.13.10. テンプレート例

以下は、各定義の有効なデータを記述したテンプレートのサンプルです。

テンプレート例	詳細
"M"99977	M に続く 3 桁の数字 (必須) と 2 桁の数字 (オプション)
"X"997777"X"	X に続く 2 桁の数字 (必須) と 4 桁の数字 (オプション) と X
9959775599	2 桁の数字 (必須) に続く任意の 1 文字、1 桁の数字 (必須)、2 桁の数字 (オプション)、任意の 2 文字と 2 桁の数字 (必須)
A55"-"999"-"99	1 文字の英字 (必須) に続く任意の 2 文字、ダッシュ、3 桁の数字 (必須)、ダッシュと 2 桁の数字 (必須)
33A"."99	2 桁の英数字 (必須) に続く 1 文字の英字 (必須)、ドットと 2 桁の数字 (必須)
999992991	5 桁の数字 (必須) に続く 1 文字の英字 (オプション)、2 桁の数字 (必須) と英数字 (オプション)
"PN98"	リテラル文字列「PN98」

16.15. OCR チェックデジットのモジュラス

このオプションは、OCR 文字列のチェックデジットの計算方法を設定します。チェックデジットは OCR 文字列の最終桁（最も右の位置）に配置され、読み取った OCR 文字列の正確性（精度）を向上させます。チェックデジットは入力された OCR 文字列から最終的に生成されるものです。チェックデジットを計算する場合、OCR 文字列の英字と数字にあらかじめ割り当てられているウェイトと呼ばれる数値を、[16.16.OCR チェックデジットの乗数](#)（196 ページ）で設定された乗数で乗算し、計算の結果のチェックデジットが OCR 文字列の最後に追加されます。読み取ったデータがチェックデジットと一致しない場合は、データが破損しているとみなされます。

このオプションは、[16.17.OCR チェックデジットの検査](#)（197 ページ）が設定されるまで効果はありません。

モジュラスを変更するには、以下のバーコードを読み取って、[25.数字バーコード](#)（288 ページ）を使用して、モジュラスを表す 3 桁の数値（モジュラス 10=010）を入力します。設定範囲は 001~099 です。

初期値 = 1（モジュラス 1）



OCR チェックデジット

16.16. OCR チェックデジットの乗数

このオプションは、文字位置の OCR チェックデジットの乗数を設定します。チェックデジットの検証のため、読み取られたデータの各文字は、チェックデジットの計算に使用されるウェイトと呼ばれる数値を持っています。MS852LR には、以下のウェイトが定義されています。

0 = 0	A = 10	K = 20	U = 30
1 = 1	B = 11	L = 21	V = 31
2 = 2	C = 12	M = 22	W = 32
3 = 3	D = 13	N = 23	X = 33
4 = 4	E = 14	O = 24	Y = 34
5 = 5	F = 15	P = 25	Z = 35
6 = 6	G = 16	Q = 26	スペース = 36
7 = 7	H = 17	R = 27	
8 = 8	I = 18	S = 28	
9 = 9	J = 19	T = 29	

その他のすべての文字はウェイトとして 1 を持っています。

初期値と異なる乗数を必要とする場合は、乗数文字列を設定することができます。

121212121212 (乗数文字列の初期値)

例：16.15.OCR チェックデジットのモジュラス (195 ページ) に **10** (モジュラス 10) を選択し、16.17.OCR チェックデジットの検査 (197 ページ) に **積を左から右へ計算** を選択する場合

OCR 文字列	1	2	3	4	5	6	7	8	4	
乗数	1	2	1	2	1	2	1	2	1	
積	1	4	3	8	5	12	7	16	4	
総和	1+	4+	3+	8+	5+	12+	7+	16+	4=	60

総和の 60 をモジュラス 10 の 10 で除算します。60 は 10 で割り切れるためチェックデジットの検証をパスします。

乗数文字列を設定するには、以下のバーコードを読み取って、26.英数記号バーコード (290 ページ) から乗数文字列の数字および英字を読み取り、最後に**メッセージの終了**を読み取ります。

初期値 = 121212121212



OCR チェックデジット乗数

16.17. OCR チェックデジットの検査

このオプションを使用してチェックデジット検査スキームを適用することで、OCR の読取りエラーから保護します。以下のオプションがあります。

16.17.1. 検査なし

チェックデジットの検査を行いません。これが初期値です。



検査なし

16.17.2. 積を左から右に計算

読み取った OCR 文字列の各文字にはウェイト (16.16.OCR チェックデジットの乗数 (196 ページ) 参照) とよばれる数値が割り当てられます。各桁の文字のウェイトは、16.16.OCR チェックデジットの乗数 (196 ページ) の対応する乗数と乗算され、各桁の積の総和が計算されます。この総和を 16.15.OCR チェックデジットのモジュラス (195 ページ) で設定した数値で除算し、余り (モジュロ) が 0 (ゼロ) の場合、チェックデジットの検査結果が合格となりデータが出力されます。

(例)

読み取った OCR 文字列が「132456 (6 はチェックデジット)」

OCR チェックデジットモジュラスは「モジュラス 10」

OCR チェックデジット乗数は「123456」

OCR 文字列	1	3	2	4	5	6		
乗数	1	2	3	4	5	6		
積	1	6	6	16	25	36		
総和	1+	6+	6+	16+	25+	36=	90	

総和の 90 は、10 で割り切れる (余りが 0) ため検査に合格します。



積を左から右へ計算

16.17.3. 積を右から左に計算

読み取った OCR 文字列の各文字にはウェイト (16.16.OCR チェックデジットの乗数 (196 ページ) 参照) とよばれる数値が割り当てられます。各桁の文字のウェイトは、16.16.OCR チェックデジットの乗数 (196 ページ) の反転した対応する乗数と乗算され、各桁の積の総和が計算されます。この総和を 16.15.OCR チェックデジットのモジュラス (195 ページ) で設定した数値で除算し、余り (モジュロ) が 0 (ゼロ) の場合、チェックデジットの検査結果が合格となりデータが出力されます。

(例)

読み取った OCR 文字列が「132459 (9 はチェックデジット)」

OCR チェックデジットモジュラスは「モジュラス 10」

OCR チェックデジット乗数は「123456」

OCR 文字列	1	3	2	4	5	9	
乗数	6	5	4	3	2	1	
積	6	15	8	12	10	9	
総和	6+	15+	8+	12+	10+	9=	60

総和の 60 は、10 で割り切れる (余りが 0) ため検査に合格します。



積を右から左に計算

16.17.4. 桁を左から右に計算

読み取った OCR 文字列の各文字にはウェイト（16.16.OCR チェックデジットの乗数（196 ページ）参照）とよばれる数値が割り当てられます。各桁の文字のウェイトは、16.16.OCR チェックデジットの乗数（196 ページ）の対応する乗数と乗算され、各桁の積の総和が計算されます。この総和を 16.15.OCR チェックデジットのモジュラス（195 ページ）で設定した数値で除算し、余り（モジュロ）が 0（ゼロ）の場合、チェックデジットの検査結果が合格となりデータが出力されます。

(例)

読み取った OCR 文字列が「132456（6 はチェックデジット）」

OCR チェックデジットモジュラスは「モジュラス 12」

OCR チェックデジット乗数は「123456」

OCR 文字列	1	3	2	4	5	6	
乗数	1	2	3	4	5	6	
積	1	6	6	16	25	36	
総和	1+	6+	6+	1+6+	2+5+	3+6=	36

総和の 36 は、12 で割り切れる（余りが 0）ため検査に合格します。



桁を左から右へ計算

16.17.5. 桁を右から左へ計算

読み取った OCR 文字列の各文字にはウェイト (16.16.OCR チェックデジットの乗数 (196 ページ) 参照) とよばれる数値が割り当てられます。各桁の文字のウェイトは、16.16.OCR チェックデジットの乗数 (196 ページ) の反転した対応する乗数と乗算され、各桁の積の総和が計算されます。この総和を 16.15.OCR チェックデジットのモジュラス (195 ページ) で設定した数値で除算し、余り (モジュロ) が 0 (ゼロ) の場合、チェックデジットの検査結果が合格となりデータが出力されます。

(例)

読み取った OCR 文字列が「132456 (6 はチェックデジット)」

OCR チェックデジットモジュラスは「モジュラス 10」

OCR チェックデジット乗数は「123456」

OCR 文字列	1	3	2	4	5	6	
乗数	6	5	4	3	2	1	
積	6	15	8	12	10	6	
総和	6+	1+5+	8+	1+2+	1+0+	6=	30

総和の 30 は、10 で割り切れる (余りが 0) ため検査に合格します。



桁を右から左に計算

16.17.6. チェックデジットを除いて積を右から左に計算

読み取った OCR 文字列の各文字にはウェイト (16.16.OCR チェックデジットの乗数 (196 ページ) 参照) とよばれる数値が割り当てられます。各桁の文字のウェイトは、16.16.OCR チェックデジットの乗数 (196 ページ) の反転した対応する乗数と乗算され、**チェックデジットの桁を除いた**各桁の積の総和が計算されます。この総和を 16.15.OCR チェックデジットのモジュラス (195 ページ) で設定した数値で除算し、余り (モジュロ) がチェックデジットの積と等しい場合、チェックデジットの検査結果が合格となりデータが出力されます。

(例)

読み取った OCR 文字列が「122456 (6 はチェックデジット)」

OCR チェックデジットモジュラスは「モジュラス 10」

OCR チェックデジット乗数は「123456」

OCR 文字列	1	2	2	4	5		6
乗数	6	5	4	3	2		1
積	6	10	8	12	10		6
総和	6+	10+	8+	12+	10=	46	6

チェックデジットを除いた積の総和の 46 は、10 で割ると余りが 6 であるため、チェックデジットの積と等しくなり、検査に合格します。



チェックデジットを除いて積を右から左に計算

16.17.7. チェックデジットを除いて桁を右から左へ計算

読み取った OCR 文字列の各文字にはウェイト (16.16.OCR チェックデジットの乗数 (196 ページ) 参照) とよばれる数値が割り当てられます。各桁の文字のウェイトは、16.16.OCR チェックデジットの乗数 (196 ページ) の反転した対応する乗数と乗算され、**チェックデジットの桁を除いた**各桁の積の総和が計算されます。この総和を 16.15.OCR チェックデジットのモジュラス (195 ページ) で設定した数値で除算し、余り (モジュロ) がチェックデジットの積と等しい場合、チェックデジットの検査結果が合格となりデータが出力されます。

(例)

読み取った OCR 文字列が「122459 (9 はチェックデジット)」

OCR チェックデジットモジュラスは「モジュラス 10」

OCR チェックデジット乗数は「123456」

OCR 文字列	1	2	2	4	5		9
乗数	6	5	4	3	2		1
積	6	10	8	12	10		9
総和	6+	1+0+	8+	1+2+	1+0=	19	9

チェックデジットを除いた積の総和の 19 は、10 で割ると余りが 9 であるため、チェックデジットの積と等しくなり、検査に合格します。



チェックデジットを除いて桁を右から左に計算

16.17.8. 医療業界-HIBCC43

このオプションは、医療業界標準のモジュラス 43 チェックデジットです。チェックデジットは、与えられたデータのすべてのウェイトの総和をモジュラス 43 で計算し、与えられたデータの最後の桁として追加されます。

(例)

供給元のラベルデータの構成が「+A123BJC5D6E71」

データ	+	A	1	2	3	B	J	C	5	D	6	E	7	1
ウェイト	41	10	1	2	3	11	19	12	5	13	6	14	7	1
総和	41+	10+	1+	2+	3+	11+	19+	12+	5+	13+	6+	14+	7+	1= 145

総和の 145 を 43 で除算すると、商は 3 で余りは 16 になります。チェックデジットは余りに対応した値になり、例では 16、つまり G となります。そのため、最終桁にチェックデジットを加えた実際の OCR 文字列は「+A123BJC5D6E71G」となります。

0 = 0	A = 10	K = 20	U = 30	/ = 40
1 = 1	B = 11	L = 21	V = 31	+ = 41
2 = 2	C = 12	M = 22	W = 32	% = 42
3 = 3	D = 13	N = 23	X = 33	
4 = 4	E = 14	O = 24	Y = 34	
5 = 5	F = 15	P = 25	Z = 35	
6 = 6	G = 16	Q = 26	- = 36	
7 = 7	H = 17	R = 27	. = 37	
8 = 8	I = 18	S = 28	スペース = 38	
9 = 9	J = 19	T = 29	\$ = 39	



医療業界-HIBCC43

16.18. 反転 OCR

反転 OCR は、黒または暗色の背景に白または明色の OCR 文字列です。反転 OCR を読み取るためのオプションを選択します。

初期値 = 標準 OCR のみ



標準 OCR のみ



反転 OCR のみ



自動識別する

16.19. OCR 冗長化

このオプションは、出力前に OCR 文字列をデコードする回数を調整します。このオプションには 3 つのレベルが存在します。レベルと OCR 文字列の読取り積極性（読み取りやすさ）は反対の関係にあり、レベルを上げると読取り積極性は低下します。必要なレベルを選択してください。

OCR 冗長化レベル 1 - この設定では、スキャナを最も積極的な状態で動作させながら、ほとんどの仕様内の OCR 文字列の読取りに十分な精度を提供することができます。

OCR 冗長化レベル 2 - この設定では、十分な積極性を維持しつつ、ほとんどの誤読を排除することができます。

OCR 冗長化レベル 3 - OCR 冗長化レベル 2 でも誤読の排除ができない場合に、この設定を選択して冗長化の要件をさらに厳しくします。

初期値 = OCR 冗長化レベル 1



OCR 冗長化レベル 1



OCR 冗長化レベル 2



OCR 冗長化レベル 3

17. CJK コントロール

17.1. CJK コントロールとは

CJK は、Chinese、Japanese、Korean の頭文字です。CJK コントロールを適切に設定することで、USB キーボードエミュレーションのまま、日本語の入った 2 次元コード（QR コードなど）を読み取り出力することができるようになります。

- ✎ CJK コントロールは Windows 専用の機能です。
- ✎ CJK コントロールを使用するには Windows のレジストリを編集する必要があります。
- ✎ Alt キーが機能として割り当てられているソフトウェア上では、CJK コントロールは正しく動作しません。それらのソフトウェアを使用している場合は、[20.USB 仮想 COM エミュレーション](#)（244 ページ）による日本語読取りをご利用ください。（Alt キーによるショートカット機能を無効化できれば使用可能です。）

17.2. CJK コントロールとデータ編集

CJK コントロールとデータ編集機能は共用できません。CJK コントロールを使用する場合、スキャナはすべてのデータを出力します。データ編集機能を使用したい場合は [20.USB 仮想 COM エミュレーション](#)（244 ページ）の使用を検討してください。

17.3. CJK コントロールの動作確認リスト

下記リストは弊社環境での動作確認の結果であり、如何なる環境でも同じ結果になることを保証するものではありません。

ソフトウェア名	動作可否
Internet Explorer	NG
Microsoft Edge	NG
Google Chrome	NG
Microsoft Word for Office 365	NG
Microsoft Excel for Office 365	OK
Microsoft Power Point for Office 365	OK
メモ帳	OK
ワードパッド	OK
秀丸 64bit 版	OK
コマンドプロンプト	OK
Power Shell	OK

17.4. Windows でのセットアップ

17.4.1. レジストリを変更します。

注 レジストリを変更する前に、編集するレジストリキーをエクスポートするか、レジストリ全体をバックアップしてください。レジストリを編集すると即座に変更が適用され、バックアップが自動的に作成されることはありません。レジストリエディタを正しく使用して変更しないと、深刻なシステム規模の問題を引き起こす可能性があります。正しく変更操作を行える確信がない場合は、レジストリ編集を行わないようお願い致します。ユニテックは、レジストリエディタおよび下記ツール「SetUnicodeInputRegistry」を使用して発生したいかなる問題の発生について解決は保証できません。これらのツールの使用は、使用者の責任において行ってください。

🔗 レジストリのアクセス権により編集が行えない場合はシステム管理者へ連絡してください。

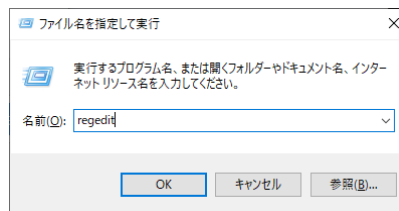
以下の3つのステップを自動で実行するためのツールを用意しております。このツールの実行には、Microsoft .NET Framework 4.6.2 以上が必要です。レジストリのバックアップは行いません。当該ツールを実行する前に必ず上記の注意書きをご確認いただき、十分に注意して実行してください。

<http://www.unitech-japan.co.jp/public/software/SetUnicodeInputRegistry.zip>

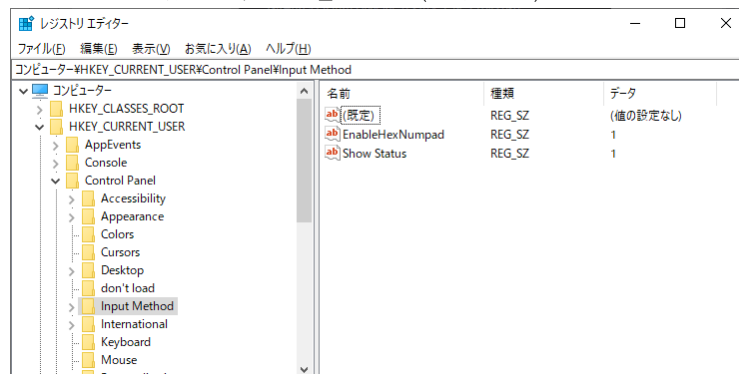
1. レジストリエディタを実行します。

Windows 7 : [スタート]→[ファイル名を指定して実行]→[regedit]と入力して[OK]をクリックします

Windows 10 : [Windows マーク]を右クリック→[ファイル名を指定して実行]→[regedit]と入力して[OK]をクリックします



2. [HKEY_Current_User\Control Panel\Input Method]へ移動します。[EnableHexNumpad]を[1]に設定します。このキーが存在しない場合は、REG_SZ 型 (文字列値) として追加します。



3. 変更したレジストリ値を適用するため、コンピューターを再起動します。

17.4.2. スキャナの設定を変更します

以下の設定バーコードのいずれかを読み取ります。

QR コードには2種類 (Shift-JIS または UTF-8) のエンコード方法があり、どちらのエンコード方式の QR コードを読み取りのターゲットとするかによって設定するバーコードが異なります。

ターゲットの QR コードがどちらのエンコード方式を採用しているか不明な場合は、最初に「日本語(SHIFT-JIS)」をお試し頂き、文字化けするようなら「日本語(UTF-8)」をお試しください。



日本語 (SHIFT-JIS)



日本語 (UTF-8)

17.4.3. 読み取りテストを行います

メモ帳やワードパッドを開いて以下のサンプル QR コードまたは、実際に読み取りを希望するターゲットの QR コードを読み取ります。サンプル QR コードは、上が Shift-JIS エンコード、下が UTF-8 エンコードとなります。



日本語 S H I F T - J I S テスト、〒104-0033 東京都中央区新川 1-5-19 茅場町長岡ビル 8F ユニッテック・ジャパン株式会社



日本語 U T F - 8 テスト、〒104-0033 東京都中央区新川 1-5-19 茅場町長岡ビル 8F ユニッテック・ジャパン株式会社

18. 標準設定値一覧

パラメータ	標準値	掲載ページ
システム設定		
設定値の初期化	N/A	29
設定バーコードの読取	有効	31
設定バーコードのロック/アンロック	N/A	32
USB インターフェース設定		
USB デバイスタイプ	SNAPI イメージングインターフェース付き	33
不明な文字の無視	不明な文字を無視する	34
SNAPI ステータスハンドシェイク	無効	34
キーストロークディレイ	ディレイ無し	35
Caps Lock オーバーライド	無効	35
キーパッドエミュレート	無効	36
ゼロ付きキーパッドエミュレート	無効	36
ファンクションキーマッピング設定	無効	37
Caps Lock シミュレート	無効	37
大文字/小文字の変換	無効	38
FNC1 置換設定	無効	38
FNC1 置換値	Enter	39
クイックキーパッドエミュレート	無効	39
TGCS (IBM) USB ダイレクト I/O ビープ	有効	40
TGCS (IBM) USB ビープ指示	無効	40
TGCS (IBM) USB バーコード設定指示	無効	41
不明なバーコードタイプを Code39 に変換する	無効	41
IBM 仕様バージョン	Version 2.2	42
高速 HID キーボード	無効	42
USB ポーリング間隔	8 ミリ秒	43
静的 USB CDC	有効	44
カントリーコード		
キーボードレイアウト	英語 (北米)	45
カントリーコードページ		
カントリーコードページ	N/A	57

標準設定値一覧（続き）

パラメータ	標準値	掲載ページ
データ送信設定		
コード ID テーブル	送信しない	63
プリフィックス	Enter	69
サフィックス 1	Enter	69
サフィックス 2	Enter	69
送信データフォーマット	データのみ	72
“読取なし”メッセージの送信	無効	73
インジケータ設定		
読取成功後のビープ音	ビープ音を鳴らす	74
電源投入時のビープ音	ビープ音を鳴らす	74
ビープ音の音量	大	75
ビープ音の音程	中	75
ビープ音の鳴動時間	中	76
ダイレクトデコードインジケータ	無効	76
[BEL]コマンド	有効	77
トリガー操作設定		
スキャンモード	レベル	78
連続読取りモード	無効	79
ユニークバーコードの読取り	無効	79
ピックリストモード	常に無効	80
屋外ピックリストモード	屋外ピックリスト無効	80
読取りセッションタイムアウト	9.9 秒	81
同一バーコードの読取間隔	0.5 秒	81
異なるバーコードの読取間隔	0.1 秒	82
照準パターンの切り替え	許可	83
照準パターンの明るさ	明度 3	83
照明の切り替え	許可	84
照明の明るさ	7	85
バーコード検出支援	支援なし	86
視界調整	標準の境界	86
携帯電話／ディスプレイモード	無効	87
バーコード読取設定		
全てのバーコードの読取り	N/A	88

標準設定値一覧（続き）

パラメータ	標準値	掲載ページ
バーコード読取設定（続き）		
UPC/JAN		
UPC-A の読取り	有効	89
UPC-E の読取り	有効	89
UPC-E1 の読取り	無効	89
JAN-8 の読取り	有効	90
JAN-13 の読取り	有効	90
ISBN の読取り	無効	90
UPC/JAN アドオンコードの読取り	無視	91
ユーザー定義アドオン 1	000	93
ユーザー定義アドオン 2	000	93
アドオンコードの確認回数	10	93
アドオンコードの AIM ID フォーマット	結合	94
UPC 縮小クワイエットゾーン	無効	94
UPC-A チェックデジットの送信	送信する	95
UPC-E チェックデジットの送信	送信する	95
UPC-E1 チェックデジットの送信	送信する	95
UPC-A プリアンブル	システムキャラクタ	96
UPC-E プリアンブル	システムキャラクタ	97
UPC-E1 プリアンブル	システムキャラクタ	98
UPC-E を UPC-A に拡張	拡張しない	99
UPC-E1 を UPC-A に拡張	拡張しない	99
JAN-8 を JAN-13 に拡張	拡張しない	99
ISBN の出力フォーマット	ISBN-10	100
UCC クーポン拡張コード	無効	100
クーポンフォーマット	新クーポン	101
ISSN の読取り	有効	101
Code128		
Code128 の読取り	有効	102
Code128 読取り桁数	任意桁数	102
GS1-128 の読取り	有効	103
ISBT 128 の読取り	有効	103
ISBT 連結	ISBT 連結無効	104

標準設定値一覧（続き）

パラメータ	標準値	掲載ページ
バーコード読取設定（続き）		
Code128（続き）		
ISBT テーブルチェック	チェックする	104
ISBT 連結冗長性	10	105
Code128 セキュリティレベル	セキュリティレベル 1	106
Code128 縮小クワイエットゾーン	無効	107
Code128 <FNC4>	<FNC4>を使用する	107
Code39		
Code39 の読取り	有効	108
Trioptic Code 39 の読取り	無効	108
Code39 を Code32 に変換	無効	109
Code32 プリフィックス	無効	109
Code39 読取り桁数	範囲指定（2 桁～55 桁）	110
Code39 チェックデジットの検査	検査しない	111
Code39 チェックデジットの送信	送信しない	111
Code39 読取りフォーマット	標準フォーマット	111
Code39 セキュリティレベル	セキュリティレベル 1	112
Code39 縮小クワイエットゾーン	無効	113
Code93		
Code93 の読取り	無効	114
Code93 読取り桁数	範囲指定（4 桁～55 桁）	114
Code11		
Code11 の読取り	無効	115
Code11 読取り桁数	範囲指定（4 桁～55 桁）	115
Code11 チェックデジットの検査	無効	116
Code11 チェックデジットの送信	送信しない	116
ITF (Interleaved 2 of 5)		
ITF の読取り	無効	117
ITF 読取り桁数	1 つの固定桁数（14 桁）	117
ITF チェックデジットの検査	検査しない	118
ITF チェックデジットの送信	送信しない	118
ITF を JAN13 に変換する	変換しない	119
ITF セキュリティレベル	セキュリティレベル 1	120

標準設定値一覧（続き）

パラメータ	標準値	掲載ページ
バーコード読取設定（続き）		
ITF (Interleaved 2 of 5)（続き）		
ITF 縮小クワイエットゾーン	無効	121
Discrete 2 of 5		
Discrete 2 of 5 の読取り	無効	122
Discrete 2 of 5 読取り桁数	1つの固定桁数（12桁）	122
NW-7 (codabar)		
NW-7 の読取り	有効	123
NW-7 読取り桁数	範囲指定（5桁～55桁）	123
NW-7 CLSI 編集	無効	124
NW-7 セキュリティレベル	セキュリティレベル 1	125
NW-7 スタート・ストップキャラクタの送信	送信する	126
NW-7 スタート・ストップキャラクタの文字種	大文字	126
NW-7 Mod16 チェックデジットの検査	検査しない	127
NW-7 Mod16 チェックデジットの送信	送信しない	127
MSI		
MSI の読取り	無効	128
MSI 読取り桁数	範囲指定（4桁～55桁）	128
MSI チェックデジットの検査	1桁のチェックデジット	129
MSI チェックデジットの送信	送信しない	129
MSI チェックデジットのアルゴリズム	MOD 10/MOD 10	130
MSI 縮小クワイエットゾーン	無効	130
Chinese 2 of 5		
Chinese 2 of 5 の読取り	無効	131
Matrix 2 of 5		
Matrix 2 of 5 の読取り	無効	132
Matrix 2 of 5 読取り桁数	1つの固定桁数（14桁）	132
Matrix 2 of 5 チェックデジットの検査	検査しない	133
Matrix 2 of 5 チェックデジットの送信	送信しない	133
GS1 Databar		
GS1 Databar Omnidirectional の読取り	有効	134
GS1 Databar Limited の読取り	有効	134
GS1 Databar Expanded の読取り	有効	134

標準設定値一覧（続き）

パラメータ	標準値	掲載ページ
バーコード読取設定（続き）		
GS1 Databar（続き）		
GS1 Databar を UPC/JAN に変換	無効	135
GS1 Databar Limited マージンチェックレベル	チェックレベル 3	136
GS1 Databar セキュリティレベル	セキュリティレベル 1	137
合成シンボル		
CC-C の読取り	無効	138
CC-A/B の読取り	無効	138
TLC-39 の読取り	無効	139
反転合成シンボル	標準のみ	140
UPC 合成モード	常にしない	141
ビープモード	各 1 回	141
UCC/EAN 合成シンボルを GS1-128 に変換	無効	142
PDF417		
PDF417 の読取り	有効	143
Micro PDF417 の読取り	無効	143
Code128 エミュレーション	無効	144
PDF417 優先	無効	144
PDF417 優先タイムアウト	200 ミリ秒	145
Data Matrix		
Data Matrix の読取り	有効	146
GS1 Data Matrix の読取り	無効	146
Data Matrix 反転イメージの読取り	標準のみ	147
Maxicode		
Maxicode の読取り	無効	148
QR コード		
QR コードの読取り	有効	149
GS1 QR コードの読取り	無効	149
Micro QR コードの読取り	有効	149
QR コードの連結機能について	常に連結	150
Aztec		
Aztec の読取り	有効	151
Aztec 反転イメージの読取り	自動検出	151

標準設定値一覧（続き）

パラメータ	標準値	掲載ページ
バーコード読取設定（続き）		
Han Xin		
Han Xin の読取り	無効	152
Han Xin 反転イメージの読取り	標準のみ	152
Grid Matrix		
Grid Matrix の読取り	無効	153
Grid Matrix 反転イメージの読取り	標準のみ	153
Grid Matrix 鏡面イメージの読取り	標準のみ	154
DotCode		
DotCode の読取り	無効	155
DotCode 反転イメージの読取り	自動検出	155
DotCode 鏡面イメージの読取り	自動検出	156
DotCode 優先	無効	156
郵便バーコード		
US Postnet の読取り	無効	157
US Planet の読取り	無効	157
US Postal チェックデジットの送信	送信する	157
UK Postal の読取り	無効	158
UK Postal チェックデジットの送信	送信する	158
日本郵便カスタマバーコードの読取り	無効	158
Australia Post の読取り	無効	159
Australia Post フォーマット	自動識別	159
Netherlands KIX コードの読取り	無効	160
USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail の読取り	無効	160
UPU FICS Postal の読取り	無効	160
Mailmark の読取り	無効	161
Korea Postal の読取り	無効	161
オプション設定		
反転 1 次元バーコード	標準のみ	162
2 値バーコードのセキュリティレベル	セキュリティレベル 1	163
4 値バーコードのセキュリティレベル	セキュリティレベル 1	164
1 次元コードのクワイエットゾーンレベル	クワイエットゾーンレベル 1	165
文字間ギャップサイズ	通常の文字間ギャップ	166

標準設定値一覧（続き）

パラメータ	標準値	掲載ページ
バーコード読取設定（続き）		
オプション設定（続き）		
優先シンボル	N/A	166
マクロ PDF417	N/A	167
Digimarc® Barcode		
Digimarc Barcode の読取り	無効	169
OCR プログラミング		
OCR-A の読取り	OCR-A 無効	171
OCR-A バリエント	OCR-A フルアスキー	172
OCR-B の読取り	OCR-B 無効	174
OCR-B バリエント	OCR-B フルアスキー	175
MICR E13B の読取り	MICR E13B 無効	179
US Currency Serial Number の読取り	US Currency Serial Number 無効	180
OCR 読取り方向	読取り方向：正面 0°	181
OCR 読取り行数	OCR 読取り行数：1 行	182
OCR 最小文字数	003	182
OCR 最大文字数	100	182
OCR サブセット	NULL	183
OCR クワイエットゾーン	50	183
OCR テンプレート	99999999	184
OCR チェックデジットのモジュラス	1	195
OCR チェックデジットの乗数	121212121212	196
OCR チェックデジットの検査	検査なし	197
反転 OCR	標準 OCR のみ	204
OCR 冗長化	OCR 冗長化レベル 1	205
CJK コントロール		
CJK コントロール	N/A	206
SSI 設定バーコード		
ソフトウェアハンドシェイク	ACK/NAK 有効	267
ホストの RTS 制御線の状態	Low レベル	267
デコードデータパケットフォーマット	Raw データで送信	268
ホストシリアルレスポンスタイムアウト	小 - 2 秒	268
ホストキャラクタタイムアウト	小 - 200 ミリ秒	269

標準設定値一覧（続き）

パラメータ	標準値	掲載ページ
SSI 設定バーコード（続き）		
マルチパケットオプション	オプション 1	270
パケット間遅延	最小 — 0 ミリ秒	271
読取イベント	無効	272
起動イベント	無効	272
設定イベント	無効	272

19. 123Scan²

19.1. はじめに

123Scan は、Zebra Technologies 社の提供する Windows 向け GUI 設定ツールです。Unitech MS852LR は、123Scan による設定に対応しています。

123Scan を使用することで、複雑なデータ編集の設定などを簡単に行うことができます。

123Scan は、以下の Zebra Technologies 社の公式サイトよりダウンロードすることができます。

<http://www.zebra.com/123Scan2>

123Scan で設定を行うためには、ホストコンピューターと MS852LR を USB ケーブルで接続し次のバーコードを読み込んでから 123Scan を実行してください。



123Scan USB 通信

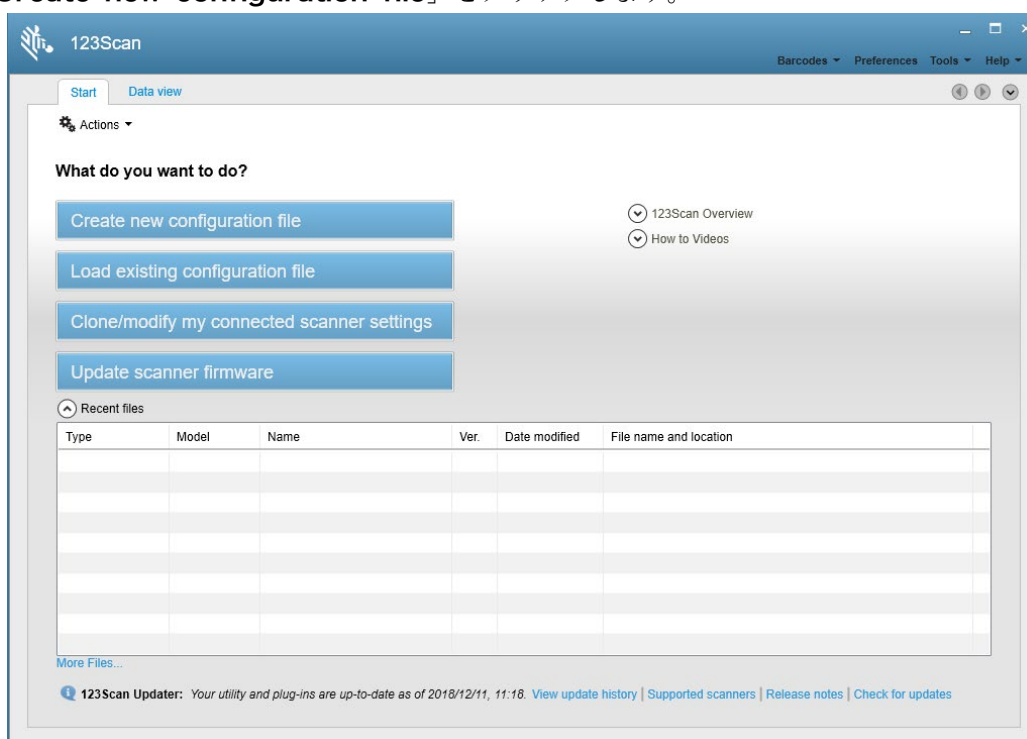
123Scan 終了後は、[8.1.USB デバイスタイプ](#) (33 ページ) および、[9.1.キーボードレイアウト](#) (45 ページ) を正しく設定してください。そうしないと、データを出力できなかつたり、一部の記号が正しく表示されなかつたりする可能性があります。

123Scan²の表示言語は、英語と中国語がサポートされています。標準の表示言語は英語です。

19.2. 新しい設定を作成する

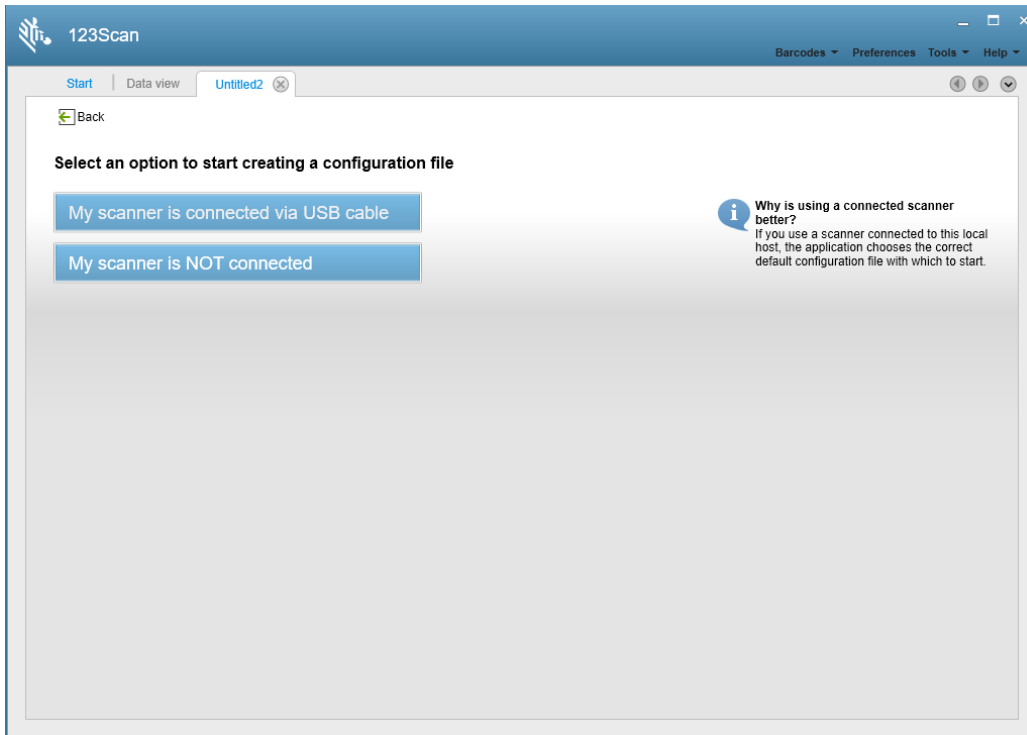
この項目では、接続されているスキャナの設定にかかわらず、新しい設定を作成してスキャナに適用する方法が示されています。123Scan²に接続されているスキャナの現在の設定を確認したり、その現在の設定を編集したりしたい場合は、[19.3.現在の設定を編集する](#)（223 ページ）を参照してください。

1. 123Scan²を実行します。
2. スキャナの LED ランプが緑に点滅を開始するまで待機します。1 分以上待っても LED ランプの表示が変わらない場合は、USB ケーブルで接続しているか、[19.1.はじめに](#)（218 ページ）の **123Scan USB 通信** バーコードを読み取ったか確認してください。
3. 「**Create new configuration file**」をクリックします。

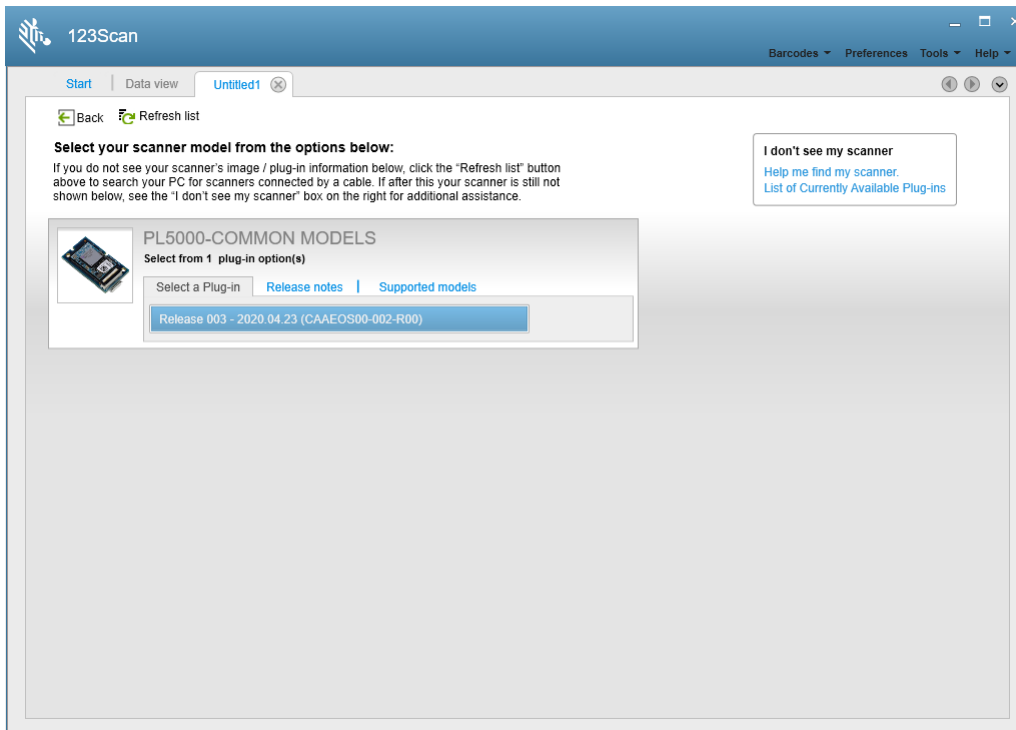


新しい設定を作成する（続き）

4. 「My scanner is connected via USB cable」をクリックします。

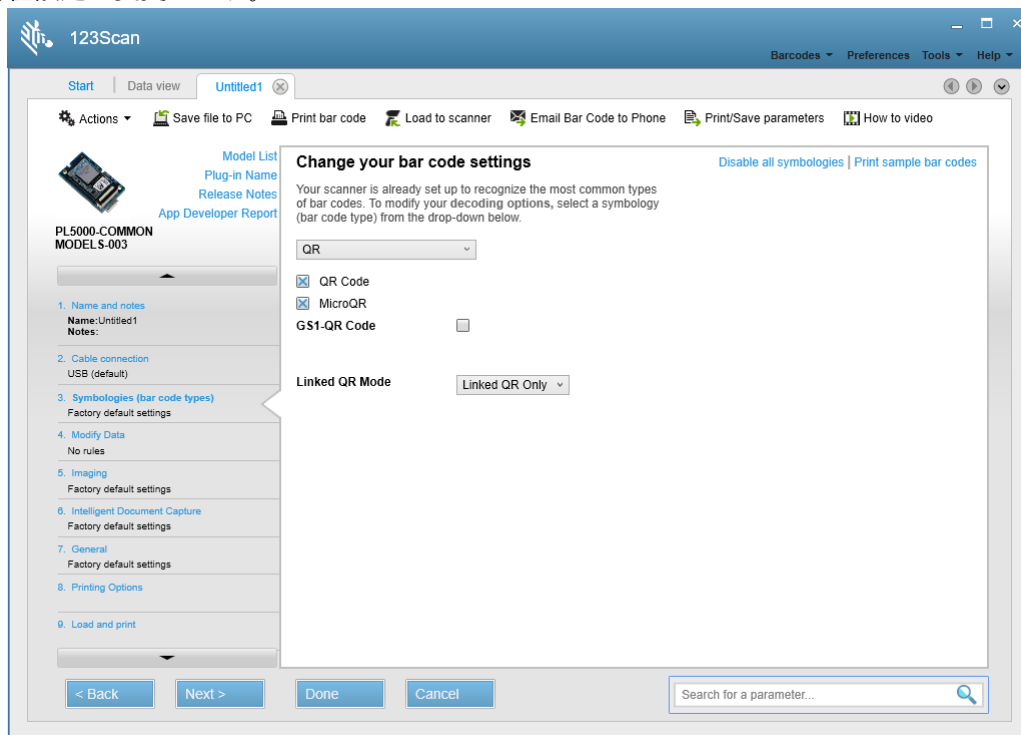


5. Select a Plug-in の「Release xxx - xxxxx」をクリックします。

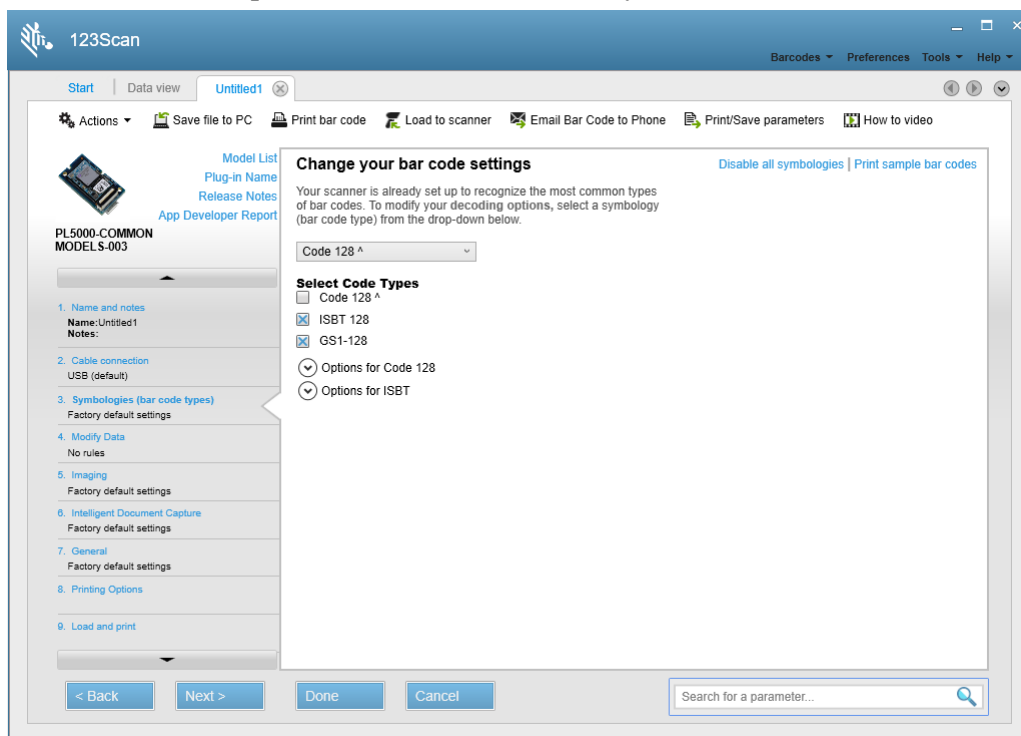


新しい設定を作成する（続き）

6. 各種設定を変更します。

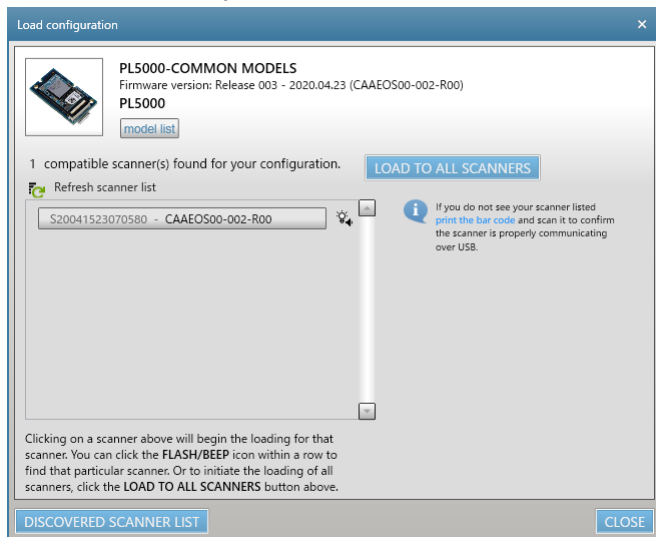


7. 「Load to scanner」ボタンをクリックして、新しい設定をスキャナに送信します。作成した設定をファイルとして保存するには「Save file to PC」ボタンを、設定用のバーコードを作成して印刷するには「Print bar code」ボタンをそれぞれ使用します。

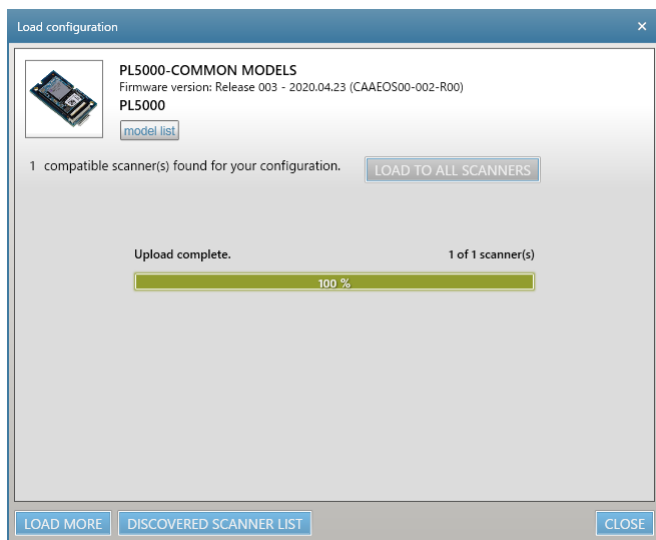


新しい設定を作成する（続き）

8. 接続されているスキャナの一覧が表示されます。単一のスキャナをクリックして1台に対して設定を送信するか、「**LOAD TO ALL SCANNERS**」ボタンをクリックして接続されているすべてのスキャナに設定を送信します。



9. 設定の送信が完了したら、「**LOAD MORE**」ボタンをクリックして直前の画面に戻って他のスキャナにも設定を送信するか、「**CLOSE**」ボタンをクリックして設定の送信を終了します。



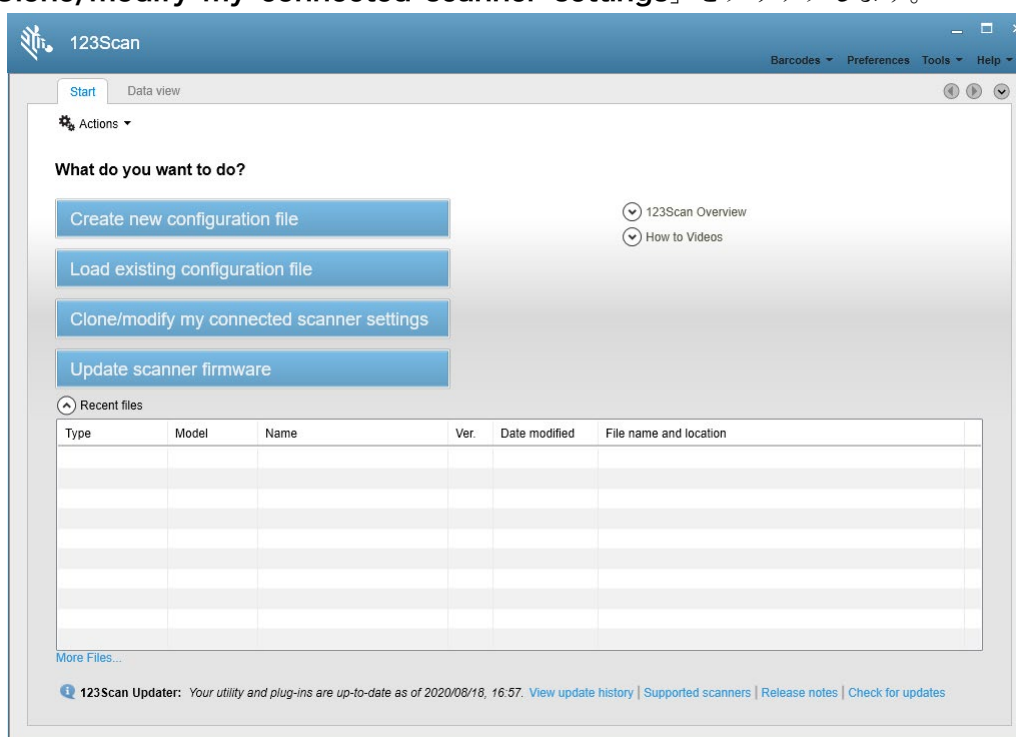
10. 123Scan²を終了します。

- ✎ 123Scan²を終了し、[8.1.USB デバイスタイプ](#) (33 ページ) および、[9.1.キーボードレイアウト](#) (45 ページ) を適切に設定してください。

19.3. 現在の設定を編集する

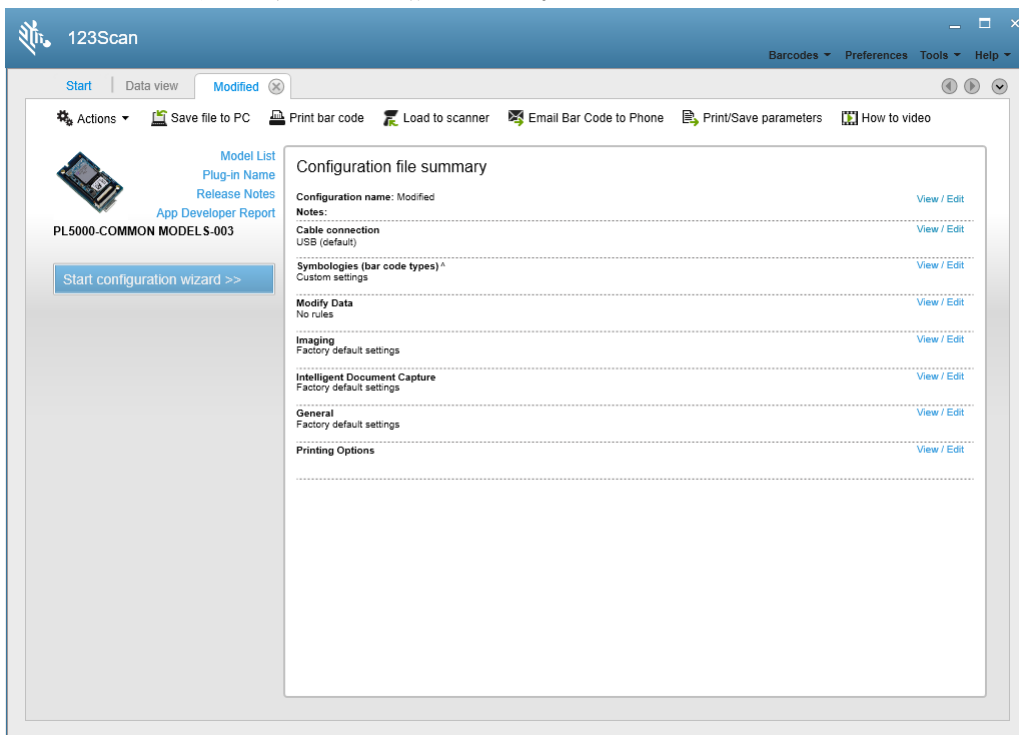
この項目では、接続されているスキャナの設定を取得し編集する方法が示されています。現在のスキャナの設定にかかわらず新しい設定を作成したい場合は、[19.2.新しい設定を作成する](#) (219 ページ) を参照してください。

1. 123Scan²を実行します。
2. スキャナの LED ランプが緑に点滅を開始するまで待機します。1 分以上待っても LED ランプの表示が変わらない場合は、USB ケーブルで接続しているか、[19.1.はじめに](#) (218 ページ) の **123Scan USB 通信** バーコードを読み取ったか確認してください。
3. 「Clone/modify my connected scanner settings」をクリックします。

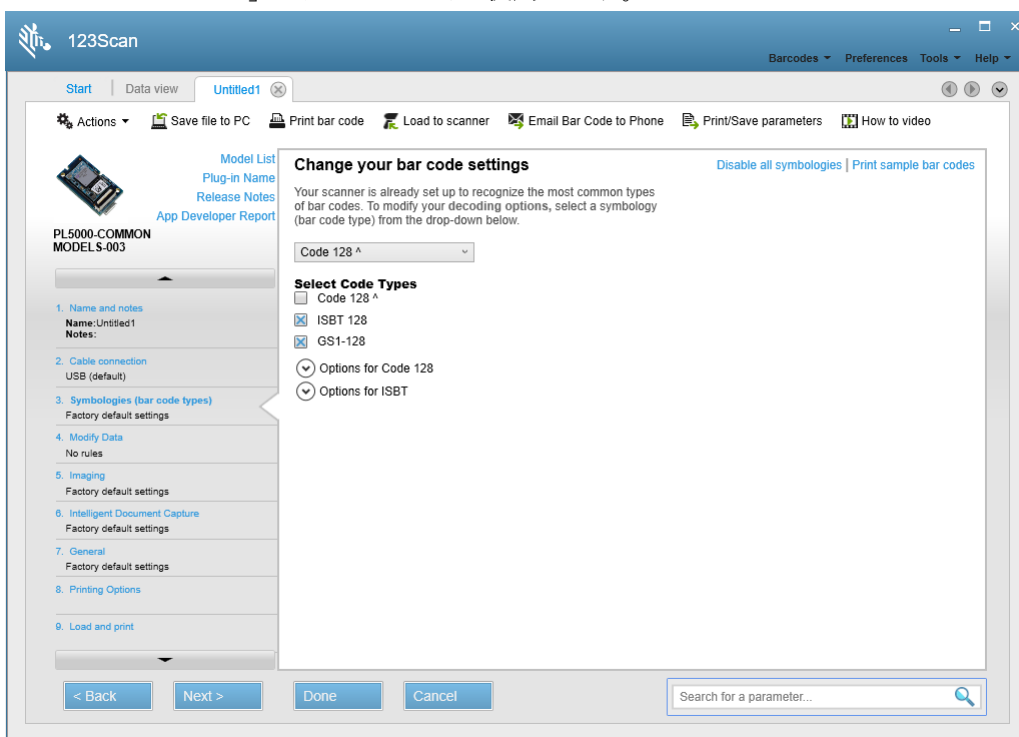


現在の設定を編集する（続き）

4. 左側の「Start configuration wizard >>」をクリックするか、右側の各項目の「View/Edit」をクリックして現在の設定を表示または編集します。

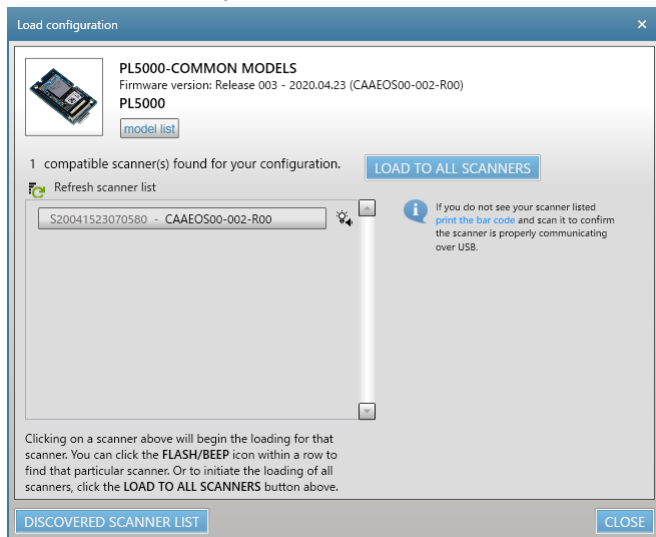


5. 「Load to scanner」ボタンをクリックして、新しい設定をスキャナに送信します。作成した設定をファイルとして保存するには「Save file to PC」ボタンを、設定用のバーコードを作成して印刷するには「Print bar code」ボタンをそれぞれ使用します。

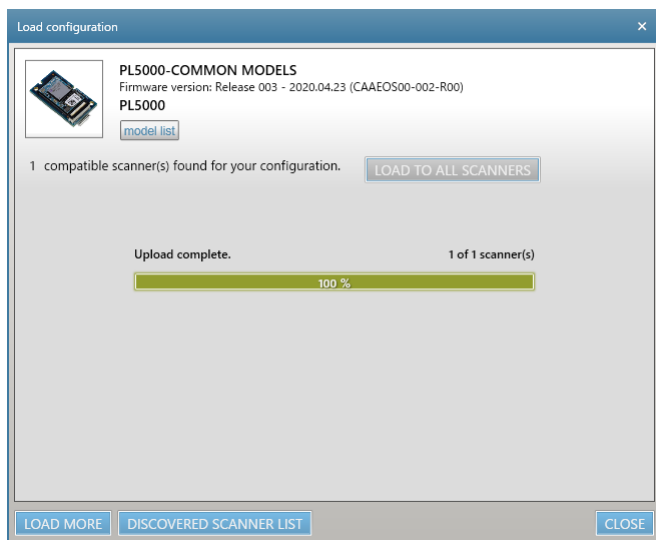


現在の設定を編集する（続き）

6. 接続されているスキャナの一覧が表示されます。単一のスキャナをクリックして1台に対して設定を送信するか、「**LOAD TO ALL SCANNERS**」ボタンをクリックして接続されているすべてのスキャナに設定を送信します。



7. 設定の送信が完了したら、「**LOAD MORE**」ボタンをクリックして直前の画面に戻って他のスキャナにも設定を送信するか、「**CLOSE**」ボタンをクリックして設定の送信を終了します。



8. 123Scan²を終了します。

- ✎ 123Scan²を終了し、[8.1.USB デバイスタイプ](#)（33 ページ）および、[9.1.キーボードレイアウト](#)（45 ページ）を適切に設定してください。

19.4. 優先シンボルの設定について

[3. Symbologies (bar code types)]→[Preferred Symbol]

19.4.1. 例：JAN コードだけを優先して出力する

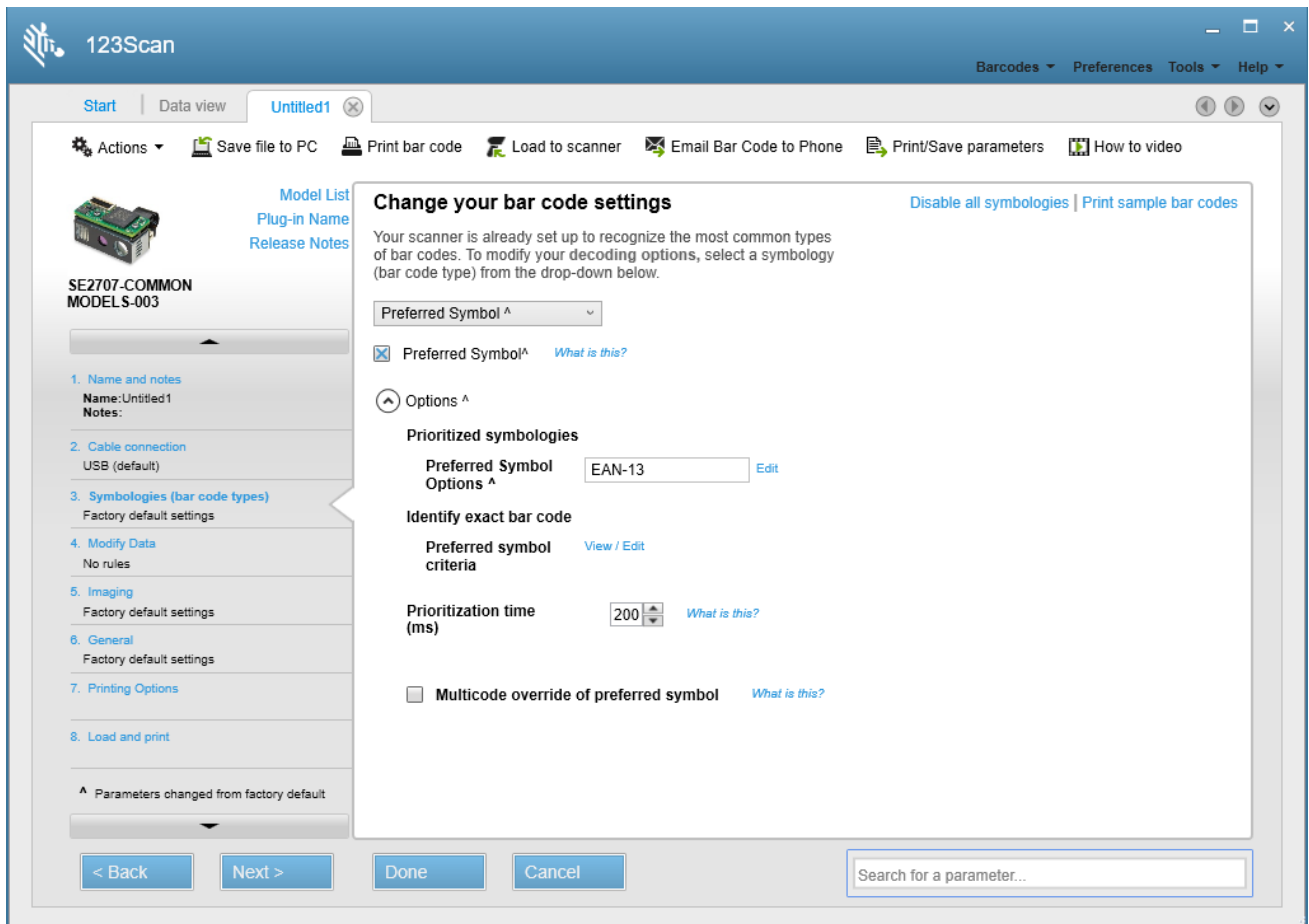
下図のように、複数のバーコードが近距離で混在しているときに、JAN-13 コードだけを出力する場合



[Preferred Symbol]→チェック

[Preferred Symbol Options]→[EAN-13]

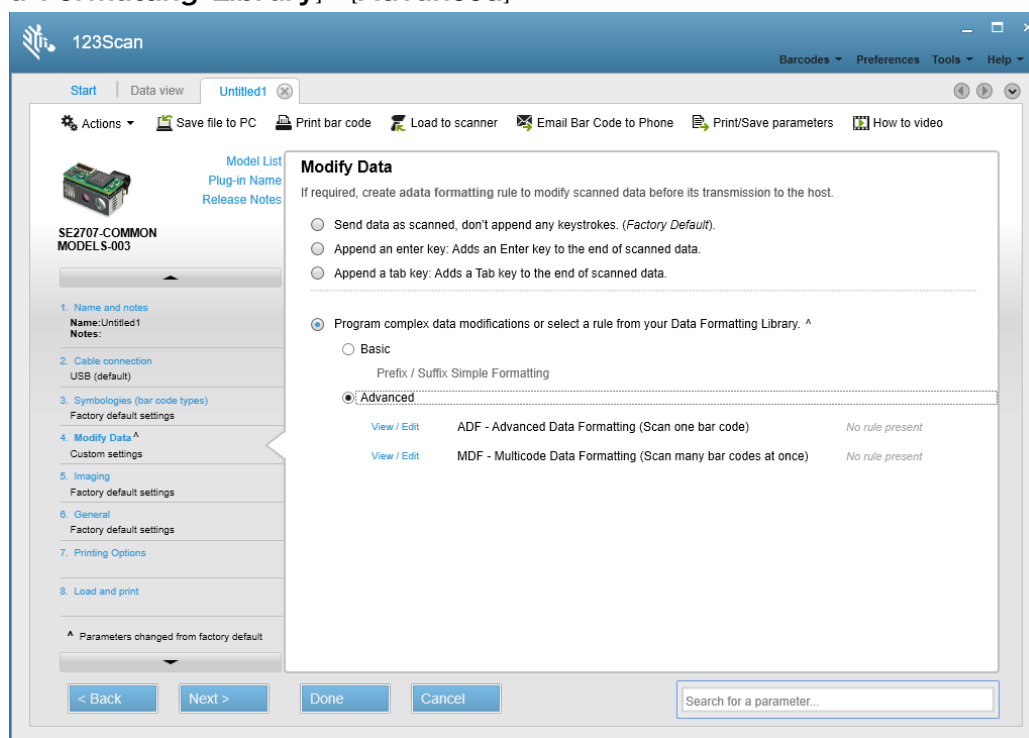
[Prioritization time (ms)]→[300]



19.5. データ編集について

17.CJK コントロール（206 ページ）を使用している間は、データ編集機能によるバーコードデータの編集出力は適用されません。

[4. Modify Data]→[Program complex data modifications or select a rule from your Data Formatting Library]→[Advanced]



ADF – Advanced Data Formatting (Scan one bar code)

1つのバーコードをスキャンし、そのデータを編集して出力します。

MDF – Multicode Data Formatting (Scan many bar codes at once)

1度に複数のバーコードをスキャンし、そのデータを編集して出力します。

19.5.1. ADF - Advanced Data Format

19.5.1.1. ADF 例 1 : Code 39 の先頭と末尾に「*」を付加して送信する

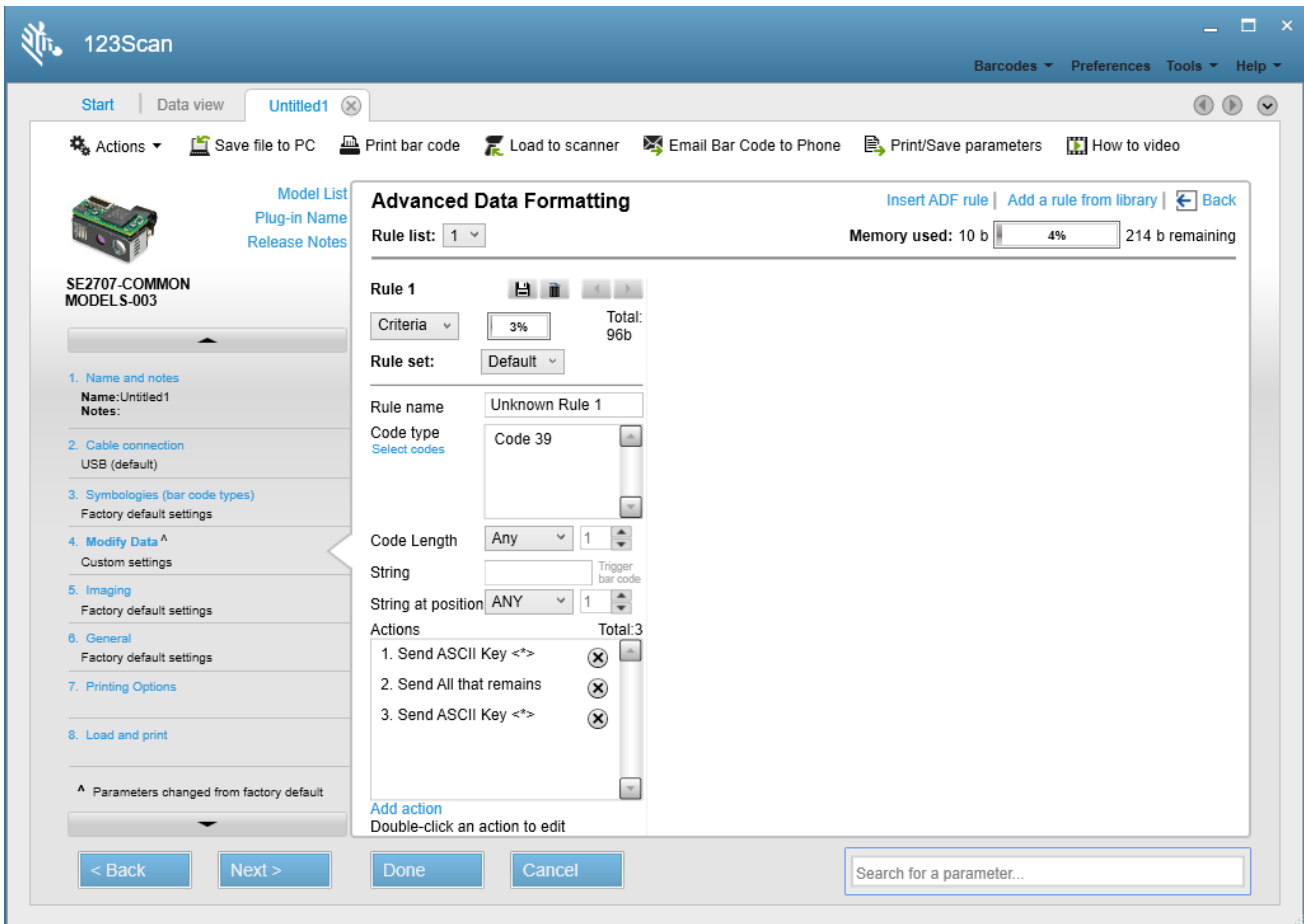
[ADF]→[Insert ADF rule]

[Code Type]→[Specific code types]→[Code 39]

[Actions]→[Send Value]→[Send ASCII Key]→[42 <*>]

[Actions]→[Send]→[All that remains]

[Actions]→[Send Value]→[Send ASCII Key]→[42 <*>]



設定後は、8.1.USB デバイスタイプ (33 ページ) および、9.1.キーボードレイアウト (45 ページ) を正しく設定してください。

【設定バーコード例】



設定バーコード (1/1)

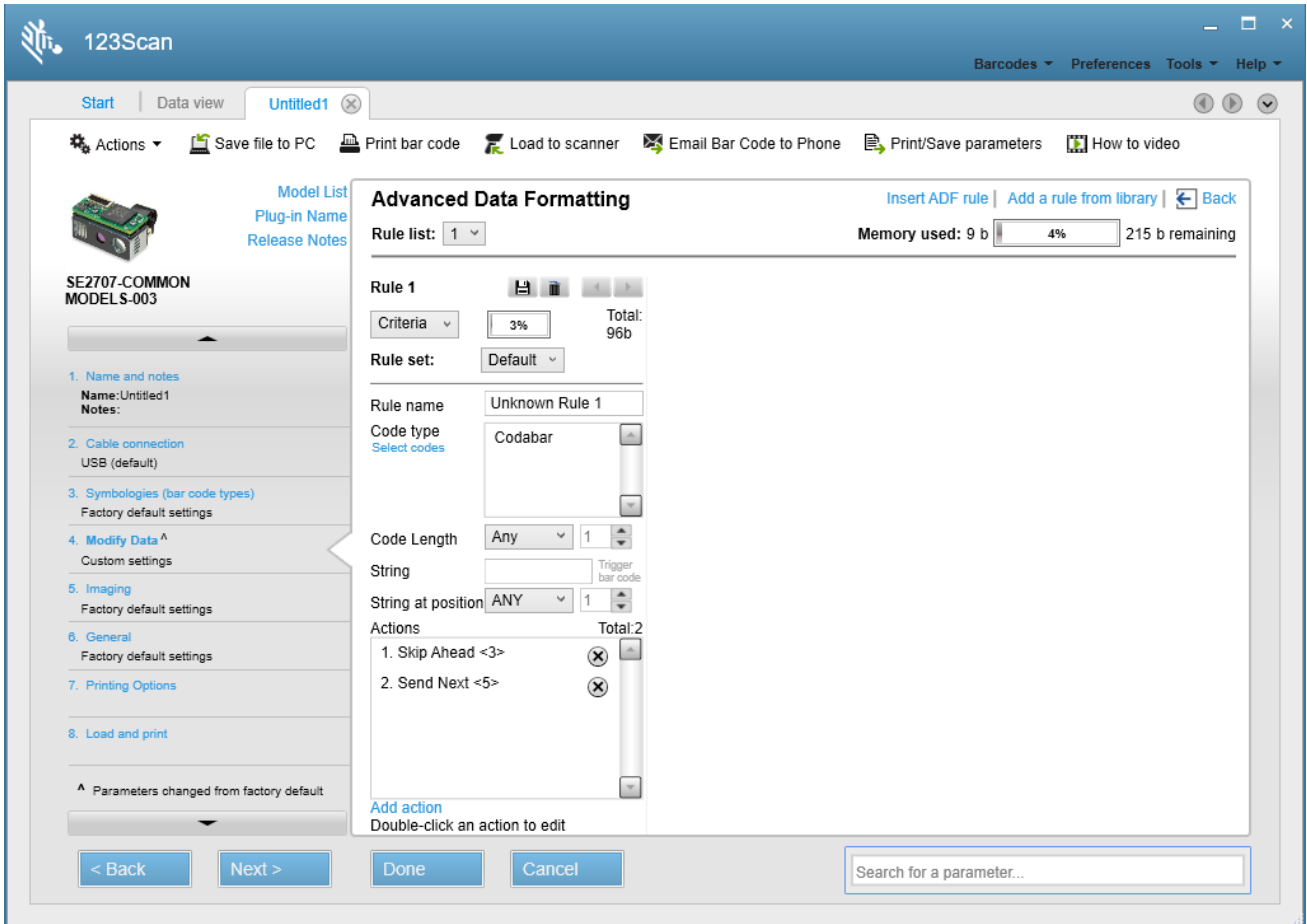
19.5.1.2. ADF 例 2： NW-7 (codabar) の 3 桁目から 5 文字のデータを送信する

[ADF]→[Insert ADF rule]

[Code Type]→[Specific code types]→[Codabar]

[Actions]→[Skip]→[Ahead]→[3]

[Actions]→[Send]→[Next]→[5]



✎ 設定後は、[8.1.USB デバイスタイプ](#) (33 ページ) および、[9.1.キーボードレイアウト](#) (45 ページ) を正しく設定してください。

【設定バーコード例】



設定バーコード (1/1)

19.5.1.3. ADF 例 3 : QR コード内のすべてのカンマ(,)を TAB に変更して送信する

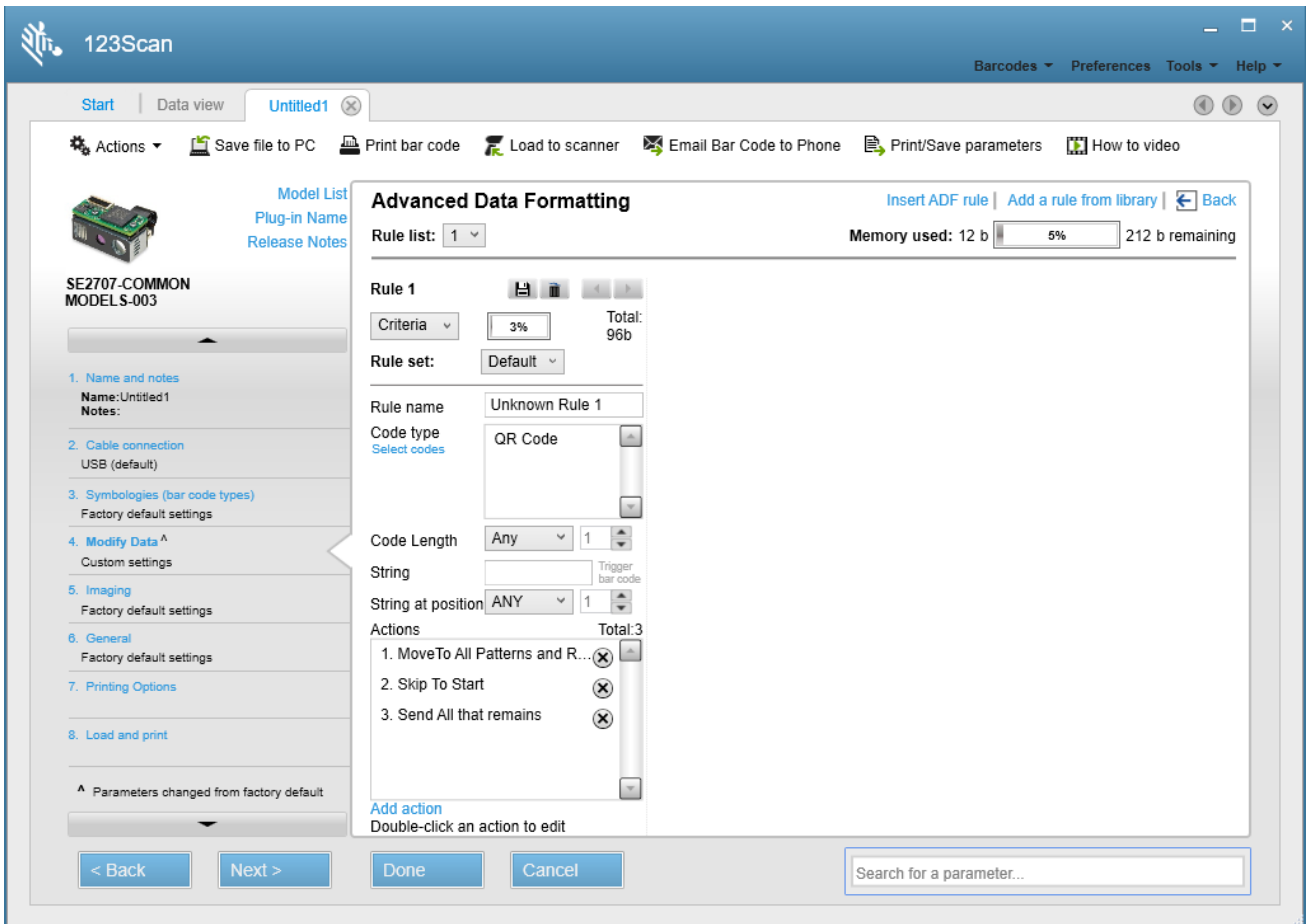
[ADF]→[Insert ADF rule]

[Code Type]→[Specific code types]→[QR Code]

[Actions]→[Move To/Replace]→[To All Patterns and Replace]→Find[,], Replace[9<TAB>]

[Actions]→[Skip]→[To Start]

[Actions]→[Send]→[All that remains]



✂ 設定後は、8.1.USB デバイスタイプ (33 ページ) および、9.1.キーボードレイアウト (45 ページ) を正しく設定してください。

【設定バーコード例】



設定バーコード (1/1)

19.5.1.4. ADF 例 4：先頭の文字によって出力方法を変更して送信する

例えば、先頭が「A」から始まるバーコードは「2文字目から5文字を送信」し、先頭が「B」から始まるバーコードは「7文字目から5文字」を送信する場合。

[ADF]→[Insert ADF rule]

[String]→[A]

[String at position]→[=]→[1]

[Actions]→[Skip]→[Ahead]→[1]

[Actions]→[Send]→[Next]→[5]

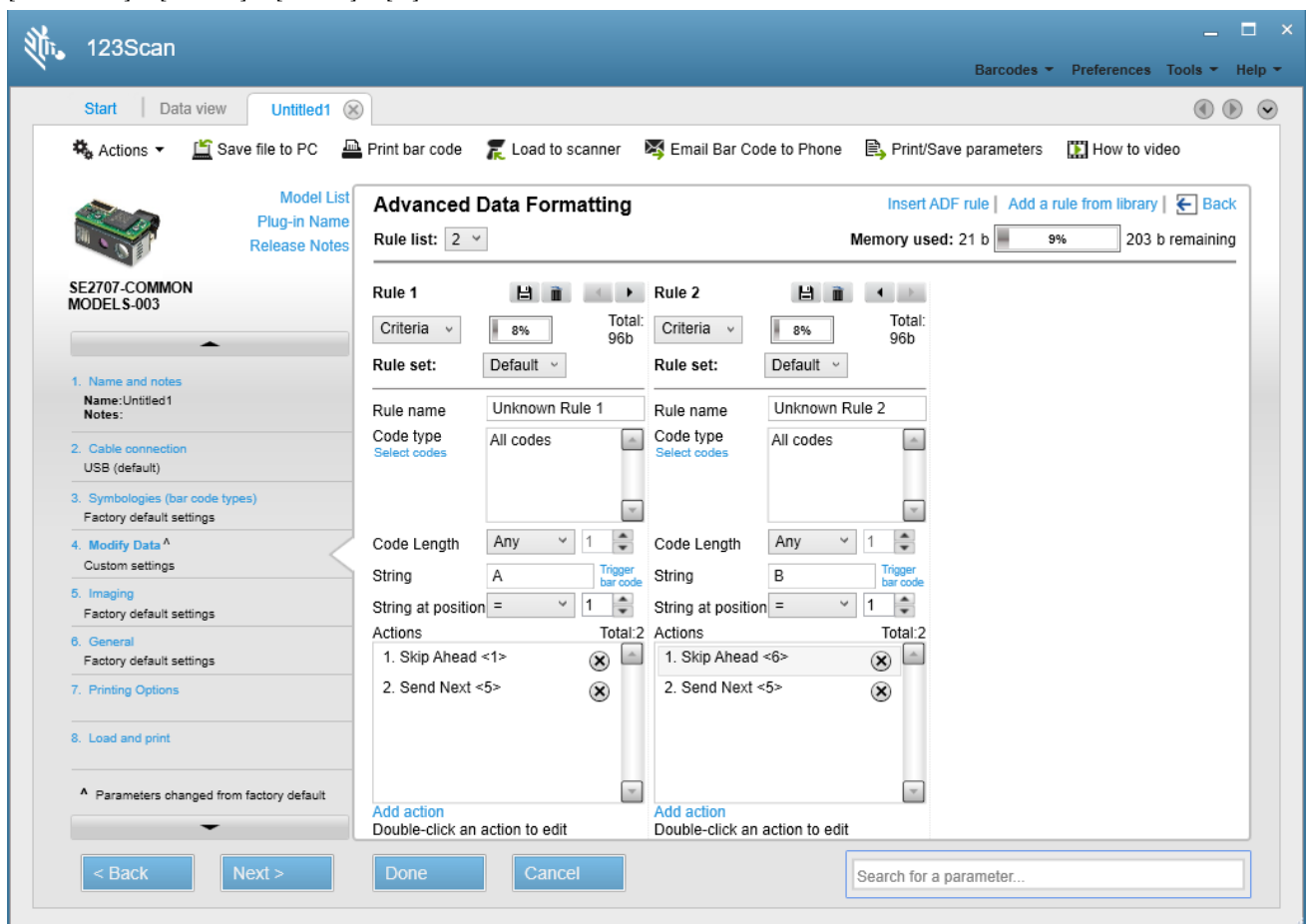
[Insert ADF rule]

[String]→[B]

[String at position]→[=]→[1]

[Actions]→[Skip]→[Ahead]→[6]

[Actions]→[Send]→[Next]→[5]



設定後は、8.1.USB デバイスタイプ (33 ページ) および、9.1.キーボードレイアウト (45 ページ) を正しく設定してください。

【設定バーコード例】



設定バーコード (1/1)

19.5.1.5. ADF 例 5：複数のサフィックスを追加して送信する

例えば、バーコードデータを送信した後に、「TAB、TAB、TAB、ENTER」の4つを送信する場合。

[ADF]→[Insert ADF rule]

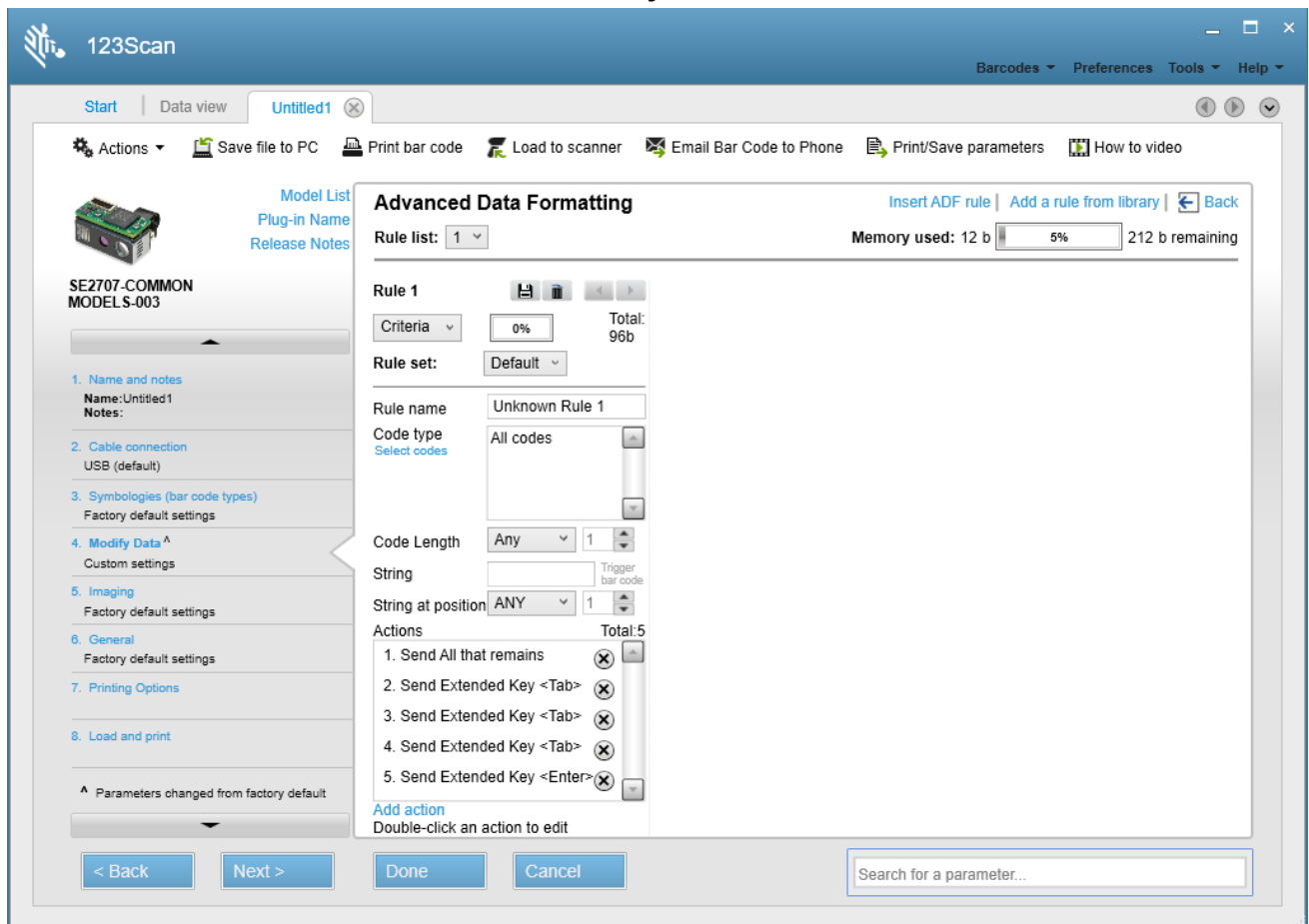
[Actions]→[Send]→[All that remains]

[Actions]→[Send Value]→[Send Extended Key]→[9 <Tab>]

[Actions]→[Send Value]→[Send Extended Key]→[9 <Tab>]

[Actions]→[Send Value]→[Send Extended Key]→[9 <Tab>]

[Actions]→[Send Value]→[Send Extended Key]→[13 <Enter>]



✂ 設定後は、[8.1.USB デバイスタイプ](#) (33 ページ) および、[9.1.キーボードレイアウト](#) (45 ページ) を正しく設定してください。

【設定バーコード例】

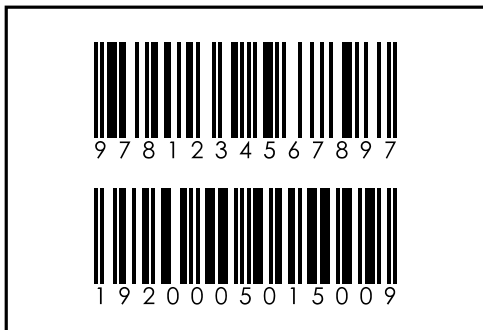


設定バーコード (1/1)

19.5.2. MDF - Multicode Data Format

19.5.2.1. MDF 例 1：書籍用二段 JAN コードを 1 回のスキャンで読み取る

上段の JAN コードは「978」から始まり、下段の JAN コードは「192」から始まるとします。



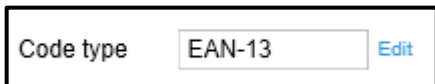
【123Scan を実行し、MDF を起動します】

[Create new configuration file]→[My scanner is NOT connected]→[SE2707]→[Select a Plug-in(Release XXX - ...)]→[4. Modify Data]→[Program complex data modifications or select a rule from your Data Formatting Library]→[Advanced]→MDF を選択して[View/Edit]→[Insert MDF rule]

【1 つ目（上段）の JAN コードについて設定を作成します。】

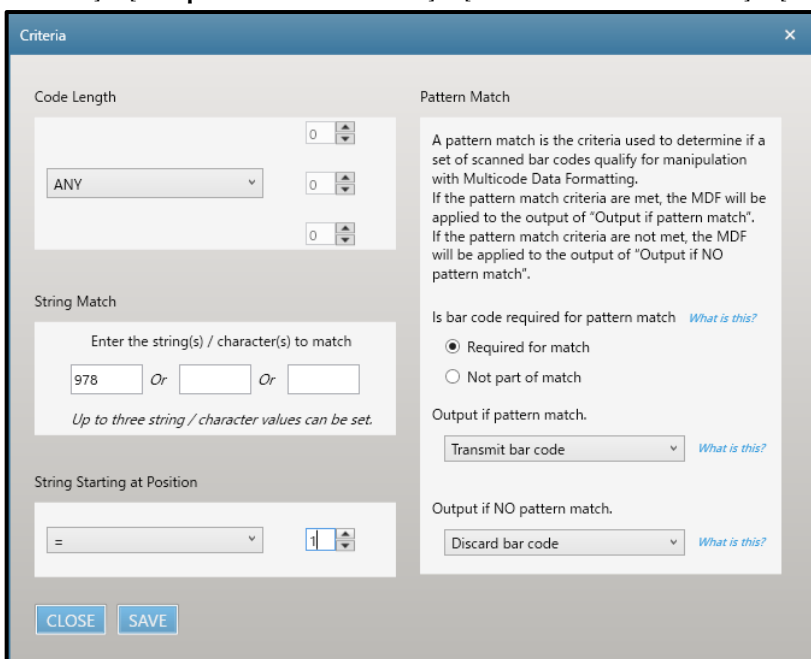
① JAN コードのみを対象とします

[Code Type]→[Edit]→[Specific code types]→[EAN-13]→[SAVE]



② 「978」で始まるバーコードのみを対象とします

[Criteria]→[View/Edit]→[String Match]→[978]→[String Start at Position]→[=]→[1]→[Pattern Match]→[Required for match]→[Transmit bar code]→[Discard bar code]→[SAVE]



MDF 例 1：書籍用二段 JAN コードを 1 回のスキャンで読み取る（続き）

String Match — 読み取ったデータのパターン一致条件として、「特定の文字(列)をデータに含む場合」とするため「978」を指定しています。

String Starting at Position — 読み取ったデータの追加のパターン一致条件として、「String Match で指定した特定の文字(列)がデータのどの位置から開始される場合」とするため「=1」（先頭から）を指定しています。

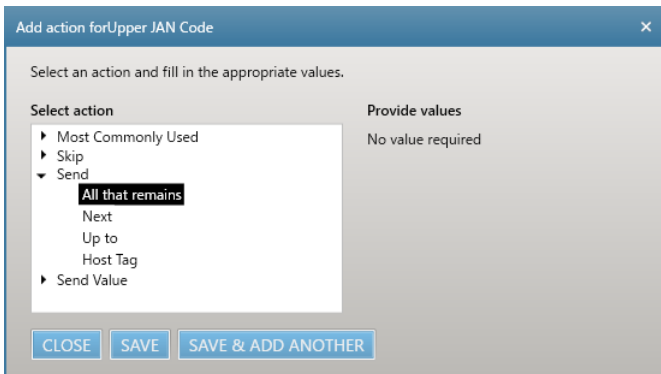
Is bar code required for pattern match — String Match および String Starting at Position のパターン一致を必須とするため「Required for match」を指定しています。

Output if pattern match — 指定したパターンに一致したバーコードを読んだときの動作として、データ送信させるため「Transmit bar code」を指定します。

Output if NO pattern match — 指定したパターンに一致しないバーコードを読んだときの動作として、データを破棄するため「Discard bar code」を指定しています。

③ パターン一致したデータをホストへ送信します

[Actions]→[Add action]→[Send]→[All that remains]→[SAVE]

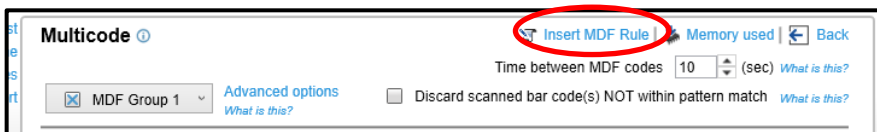


All that remains — 残っている全てをホストへ送信します。

【2つ目（下段）の JAN コードについて設定を作成します。】

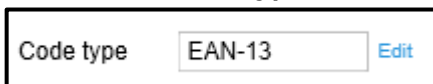
① 2つ目の条件を追加します

[Insert MDF Rule]



② JAN コードのみを対象とします

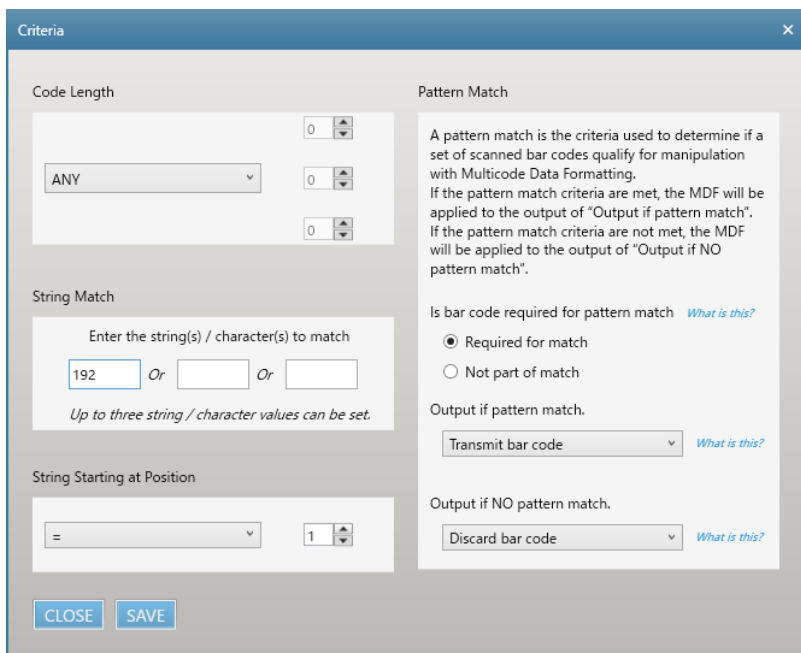
[Rule 2]→[Code Type]→[Edit]→[Specific code types]→[EAN-13]→[SAVE]



③ 「192」で始まるバーコードのみを対象とします

[Criteria]→[View/Edit]→[String Match]→[192]→[String Start at Position]→[=]→[1]→[Pattern Match]→[Required for match]→[Transmit bar code]→[Discard bar code]→[SAVE]

MDF 例 1：書籍用二段 JAN コードを 1 回のスキャンで読み取る（続き）



String Match — 読み取ったデータのパターン一致条件として、「特定の文字(列)をデータに含む場合」とするため「1921」を指定しています。

String Starting at Position — 読み取ったデータの追加のパターン一致条件として、「String Match で指定した特定の文字(列)がデータのどの位置から開始される場合」とするため「=1」（先頭から）を指定しています。

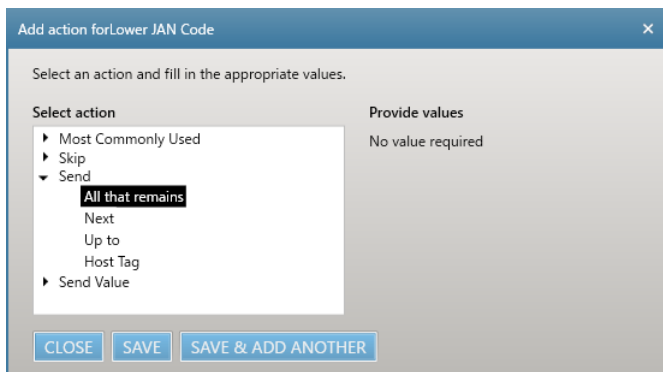
Is bar code required for pattern match — String Match および String Starting at Position のパターン一致を必須とするため「Required for match」を指定しています。

Output if pattern match — 指定したパターンに一致したバーコードを読んだときの動作として、データ送信させるため「Transmit bar code」を指定します。

Output if NO pattern match — 指定したパターンに一致しないバーコードを読んだときの動作として、データを破棄するため「Discard bar code」を指定しています。

④ パターン一致したデータをホストへ送信します

[Actions]→[Add action]→[Send]→[All that remains]→[SAVE]



All that remains — 残っている全てをホストへ送信します。

MDF 例 1：書籍用二段 JAN コードを 1 回のスキャンで読み取る（続き）

【最終的に次のような画面となります】

The screenshot shows the 'Multicode' configuration window. At the top, there are options for 'Insert MDF Rule', 'Memory used', and 'Back'. Below this, there is a dropdown for 'MDF Group 1' and a checkbox for 'Advanced options'. A setting for 'Time between MDF codes' is set to 10 seconds. There is also a checkbox for 'Discard scanned bar code(s) NOT within pattern match'. The main area is divided into two columns for 'Rule 1' and 'Rule 2'. Rule 1 is named 'Upper JAN code' and Rule 2 is named 'Lower JAN code'. Both rules have a 'Code type' of 'EAN-13'. Each rule has a list of actions, with '1. Send All that remains' being the only action in each list. At the bottom of each rule's action list, there is an 'Add action' button and a note: 'Double-click an action to edit'.

【設定バーコードを表示、印刷して使用する】

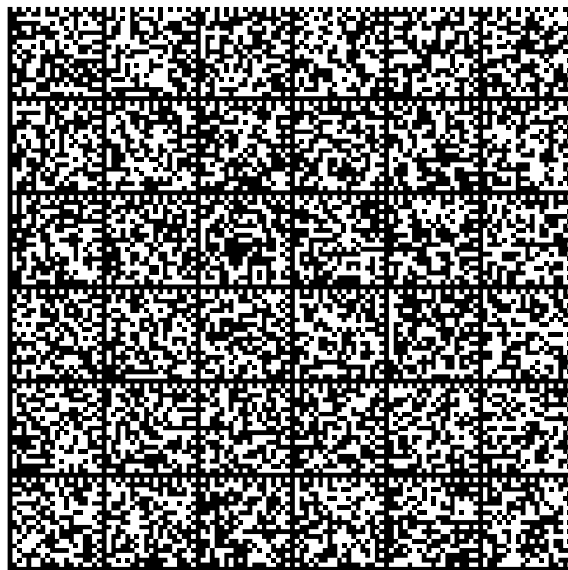
変更された設定を行うためのバーコードを作成し印刷するために「Print bar code」をクリックします。



設定後は、8.1.USB デバイスタイプ（33 ページ）および、9.1.キーボードレイアウト（45 ページ）を正しく設定してください。

MDF 例 1：書籍用二段 JAN コードを 1 回のスキャンで読み取る（続き）

【設定バーコード例】

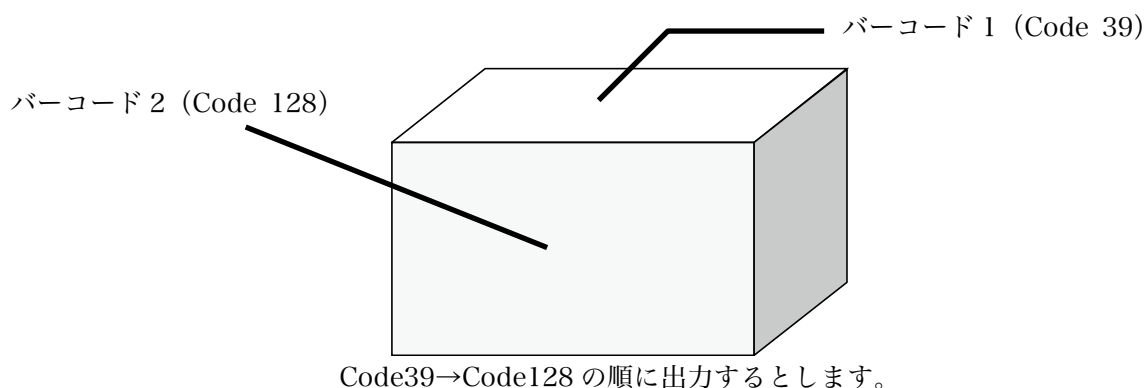


設定バーコード (1/2)



設定バーコード (2/2)

19.5.2.2. MDF 例 2：箱の異なる面のバーコードを 1 回のスキャンで読み取る



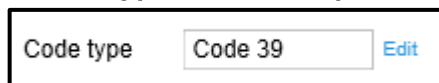
【123Scan を実行し、MDF を起動します】

[Create new configuration file]→[My scanner is NOT connected]→[SE2707]→[Select a Plug-in(Release XXX - ...)]→[4. Modify Data]→[Program complex data modifications or select a rule from your Data Formatting Library]→[Advanced]→MDF を選択して[View/Edit]→[Insert MDF rule]

【Code 39 について設定を作成します。】

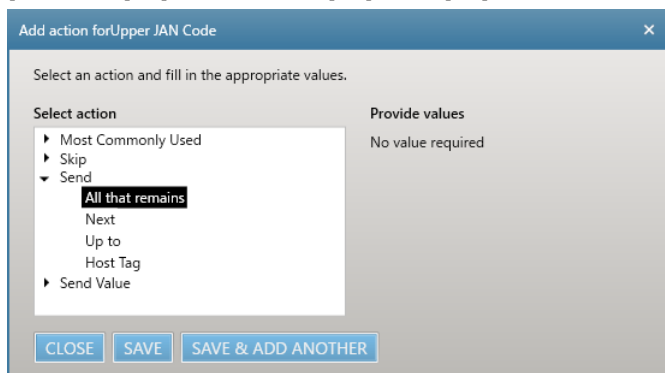
① Code 39 コードのみを対象とします

[Code Type]→[Edit]→[Specific code types]→[Code 39]→[SAVE]



② データをホストへ送信します

[Actions]→[Add action]→[Send]→[All that remains]→[SAVE]

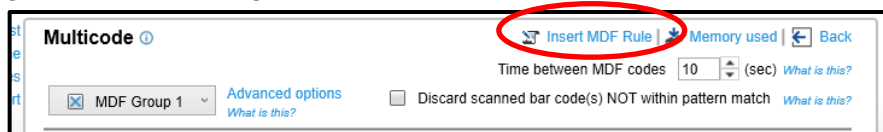


All that remains — 残っている全てをホストへ送信します。

【別の面の Code 128 について設定を作成します。】

① 2つ目の条件を追加します

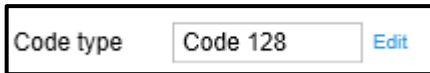
[Insert MDF Rule]



MDF 例 2：箱の異なる面のバーコードを 1 回のスキャンで読み取る（続き）

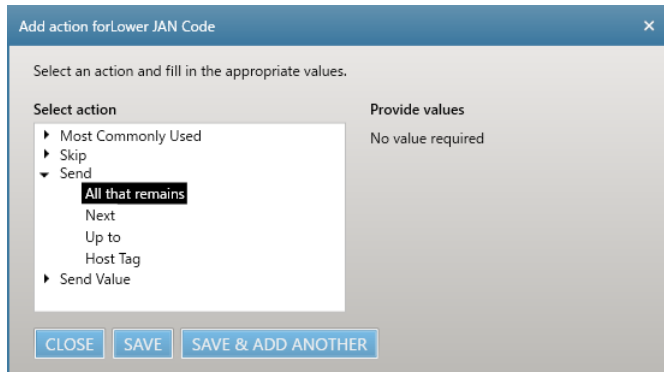
② Code 128 コードのみを対象とします

[Rule 2]→[Code Type]→[Edit]→[Specific code types]→[Code 128]→[SAVE]



④ パターン一致したデータをホストへ送信します

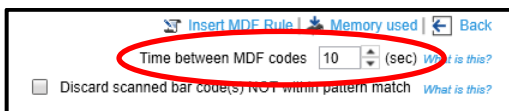
[Actions]→[Add action]→[Send]→[All that remains]→[SAVE]



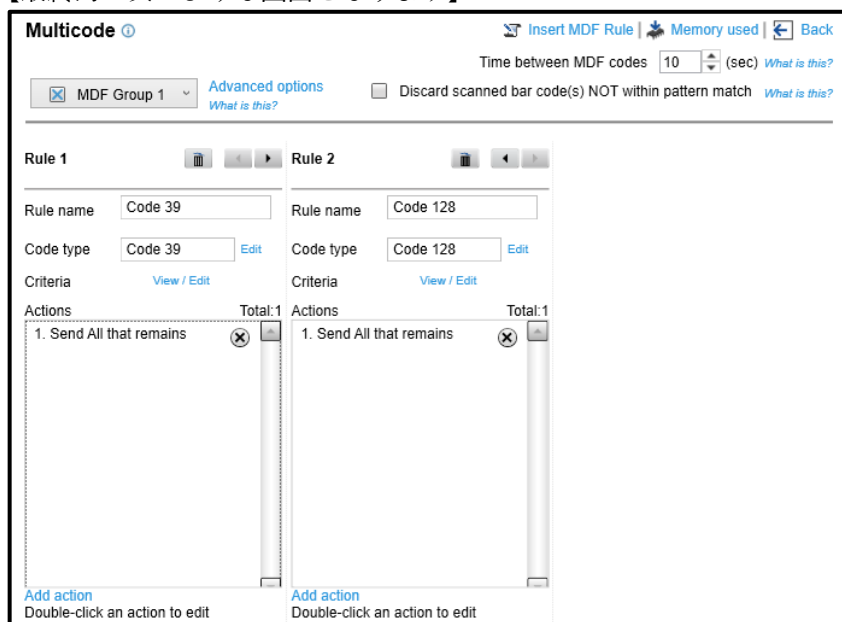
All that remains — 残っている全てをホストへ送信します。

【2つのバーコードの連結読取りを許可する時間を指定します。】

Time between MDF codes に「10」を設定します。この値は標準値です。



【最終的に次のような画面となります】



MDF 例 2：箱の異なる面のバーコードを 1 回のスキャンで読み取る（続き）

【設定バーコードを表示、印刷して使用する】

変更された設定を行うためのバーコードを作成し印刷するために「Print bar code」をクリックします。



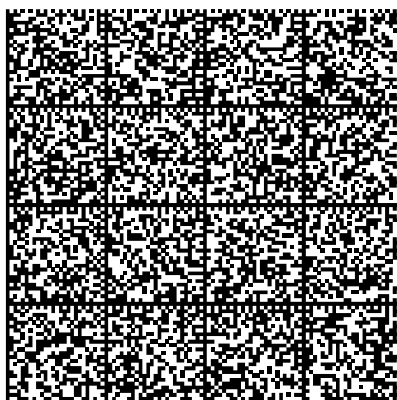
設定後は、[8.1.USB デバイスタイプ](#) (33 ページ) および、[9.1.キーボードレイアウト](#) (45 ページ) を正しく設定してください。

【読取り方】

トリガーを引いたまま、Code 39 バーコードに照準を合わせます。そのままトリガーを引き続けて Code128 バーコードを読み取ります。ただしく読取れば、2つのバーコードを連結して出力します。

トリガーを引き続けて Time Between MDF codes で設定されている時間を過ぎると MDF ルールは一時的に破棄され通常通りにバーコードを読み取ります。再びトリガーを引くと、MDF ルールが再適用されます。

【設定バーコード例】



設定バーコード (1/2)



設定バーコード (2/2)

19.6. デバイスクローニング

注 一部の機種、バージョンでは使用できません。

19.6.1. デバイスクローニングとは

設定されているスキャナからパラメータを取り出し、別のスキャナにコピーして、同じ設定のスキャナを複数作成することです。この機能を使用することで、同一の設定を持つスキャナを簡単に複製することができます。

19.6.2. デバイスクローニングの注意事項

デバイスクローニングをサポートするのはスタンダードファームウェアのみです。カスタムファームウェアでは行わないでください。

19.6.3. デバイスクローニングのセットアップ

事前に必要な設定をスキャナに適用してください。元となるスキャナをスキャナ(A)、クローニングを行うスキャナをスキャナ(B)としています。

1. ホストコンピューターとスキャナ(A)を USB ケーブルで接続し次のバーコードを読み込みます。



123Scan USB 通信

2. **123Scan** を実行します。
3. **Clone/modify my connected scanner settings** ボタンをクリックします。
4. **A USB communication setting may have changed** メッセージが表示されたら、**CLOSE** ボタンをクリックします。
5. **Start configuration wizard >>** ボタンをクリックします。
6. **2. Cable connection** をクリックし、**USB Device Type** から正しい USB インターフェースを選択します。(殆どの場合は「**HID Keyboard Emulation**」)
7. **スキャナ(A)**を取り外し、**スキャナ(B)**を接続し、上記の **123Scan USB 通信** コードを読み取ります。
8. **Load to Scanner** をクリックします。
9. **LOAD TO ALL SCANNERS** ボタンをクリックします。

19.7. ファームウェア更新

注 一部の機器、バージョンでは使用できません。

1. ホストコンピューターとスキャナを USB ケーブルで接続し次のバーコードを読み込みます。

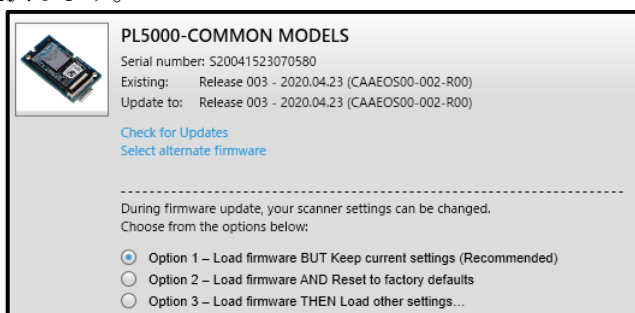


123Scan USB 通信

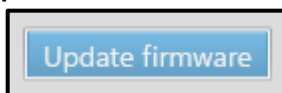
2. **123Scan** を実行します。
3. **Update Scanner firmware** ボタンをクリックします。



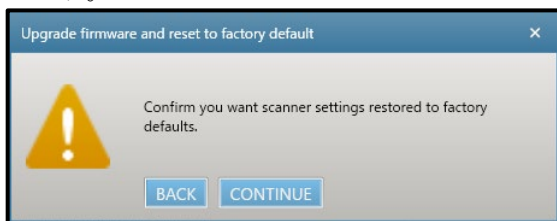
4. 更新後に現在の設定を維持したい場合は **Option 1** を、全ての設定を初期化したい場合は **Option 2** を選択します。



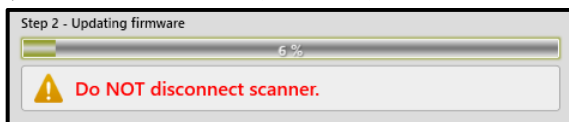
5. **Update firmware** ボタンをクリックします。



6. Option 2 選択時は、次のメッセージダイアログが表示されます。**CONTINUE** ボタンをクリックして続行します。

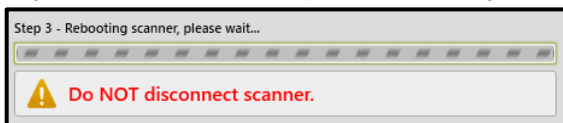


7. ファームウェアアップデートが実行されます。更新中はソフトウェアを終了したり、PC の電源を切ったり、USB ケーブルを取り外したりしないでください。

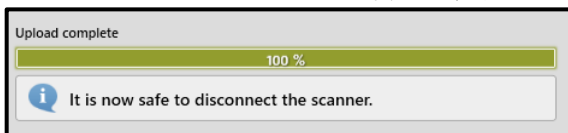


ファームウェア更新（続き）

8. ファームウェアアップデートが完了すると、スキャナに新しいファームウェアの適用と再起動が行われます。数分～十数分かかる場合があります。



9. すべてが完了したら 123Scan²を終了し、設定を初期化した場合は再設定を行ってください。



20. USB 仮想 COM エミュレーション

20.1. はじめに

USB 仮想 COM エミュレーションとは、USB 接続を利用して COM 通信（シリアル通信）をエミュレートする接続方法です。USB 仮想 COM エミュレーションを使用するためには、①適切なドライバのインストール、②スキャナの設定変更、③適切なソフトウェアの使用が求められます。

USB 仮想 COM エミュレーションは、Windows のみを正式にサポートしています。その他の OS についてはドライバおよびソフトウェアの提供は行っておりません。あらかじめご了承ください。

20.2. セットアップ

ドライバのインストール前に、USB 仮想 COM エミュレーションへ設定を変更しても、スキャナはエラーを検知して USB デバイスタイプを元に戻します。スキャナを仮想 COM エミュレーションへ設定する前に、Windows に適切なドライバがインストールされている必要があります。

20.2.1. ドライバのダウンロードとインストール

Windows 8.1 以前の OS を使用している場合、[23.各種ドライバ、ソフトウェア](#) (277 ページ) から **USB CDC ドライバ** をダウンロードし、インストールを行ってください。ドライバのインストール後は、Windows の再起動が必要です。

Windows 10 以降の OS を使用している場合、ドライバは Windows に含まれています。この場合、ドライバのインストールは必要ありませんので、そのまま次の手順へ進んでください。

20.2.2. スキャナの設定を変更する

スキャナで、[8.1.USB デバイスタイプ](#) (33 ページ) の **USB CDC ホスト** バーコードを読み取ります。初回変更時は、ドライバを認識するまでに時間が必要な場合があります。スキャナが使用可能な状態になると電源投入時のビープ音（低音—中音—高音）が鳴動します。ドライバが適切にインストールされている場合は、次の手順で確認する COM ポートが Windows 上に作成されます。



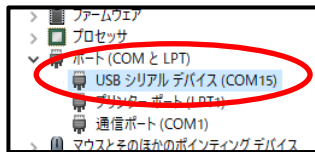
USB CDC ホスト

20.2.3. COMポート番号の確認

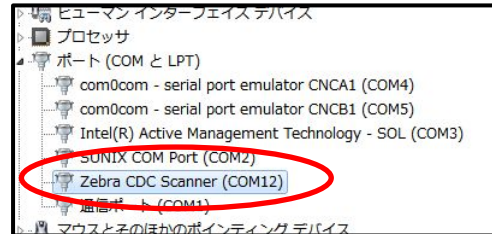
Windows のデバイスマネージャを使用して、スキャナが接続している COM ポートの番号を確認します。この COM ポート番号はスキャナからのデータを受信するときに必ず必要です。

【参考】デバイス マネージャを開く

<https://support.microsoft.com/ja-jp/help/4026149/windows-open-device-manager>



Windows10 以降



Windows 8.1 以前

20.2.4. COMポートからのデータを受信する

COM 通信（シリアル通信）をサポートしたソフトウェアを使用して、1つ前の手順で確認した COM 番号を指定して接続します。

または、弊社が提供している「[20.3.RSWedge Unitech 版](#)（245 ページ）」をご利用いただき、1つ前の手順で確認した COM 番号を指定して接続してください。

20.3. RSWedge Unitech 版

20.3.1. はじめに

RSWedge Unitech 版（以降、RSWedge）は、指定した COM ポートからのデータを受信し、アクティブ（最前面）なソフトウェアに対してデータを再送信します。COM 通信に対応していないソフトウェアに対して日本語を含む QR コードを文字化けせずに再送信することも可能です。

RSWedge は、一般には公開されておらず、弊社のスキャナをご購入いただいたお客様が送付申請を行っていただくことで入手することができます。RSWedge の送付申請は、以下の申請フォームより行ってください。申請には、ご購入頂いた機器名称とシリアル番号が必要です。

【RSWedge 送付依頼フォーム】

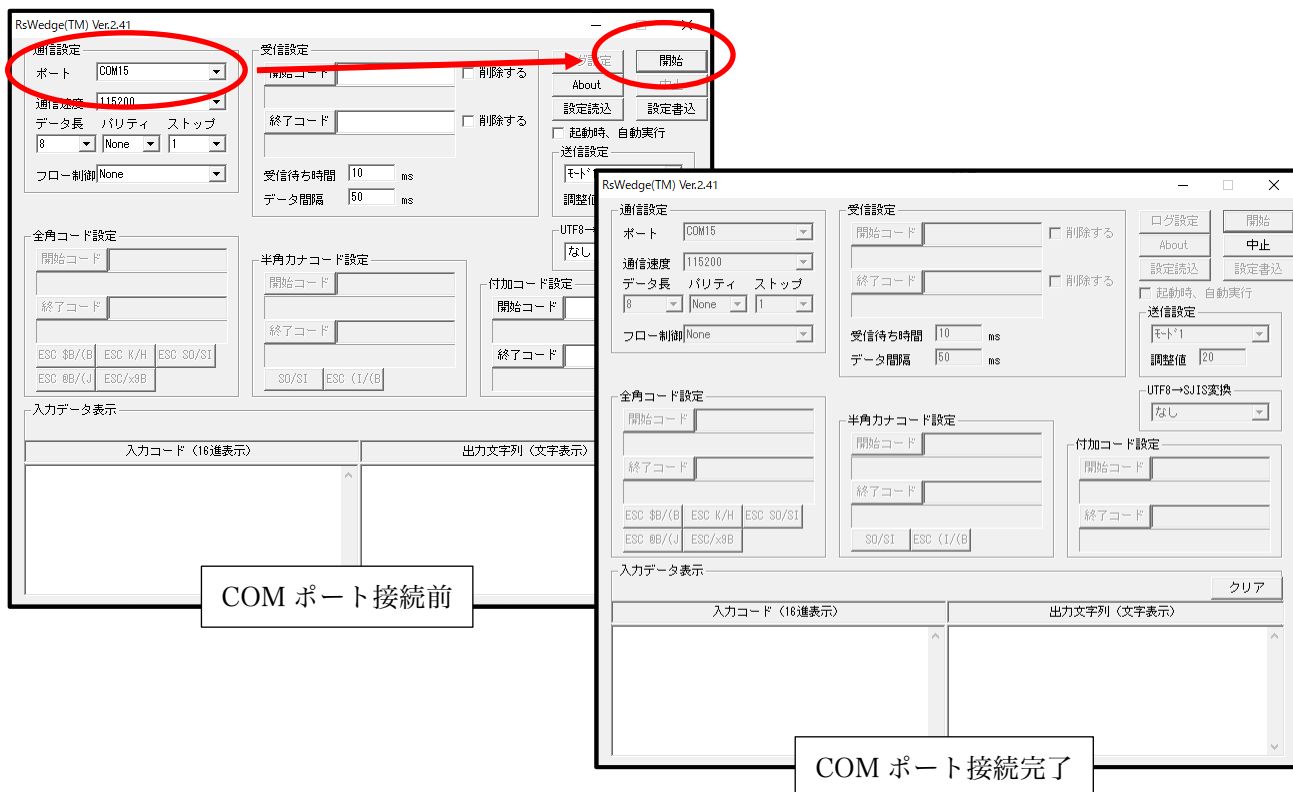
<http://www.unitech-japan.co.jp/rswedge.html>

申請後、当日～数日で RSWedge のインストールファイルが送付されます。お受け取り後、インストールを行ってください。

20.3.2. セットアップ例

以下は、データを受信して別のソフトウェアへ再送信するための簡単なセットアップ例です。その他のパラメータの説明などは、インストールしたフォルダに存在する「操作ガイド」をご覧ください。

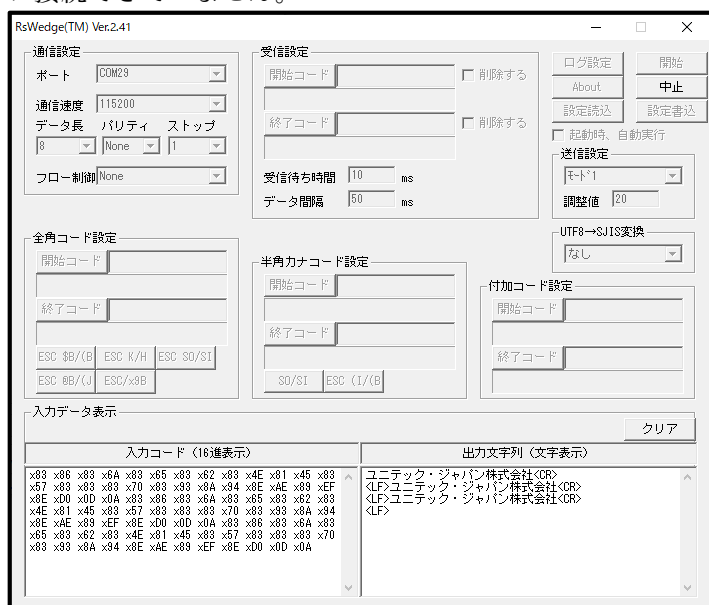
RSWedge 実行後、通信設定のポートにデバイスマネージャーで確認した COM ポート番号を選択し、「開始」ボタンをクリックします。正常に COM ポートに接続できたら、「中止」ボタン以外はロックされます。



20.3.3. データの受信確認

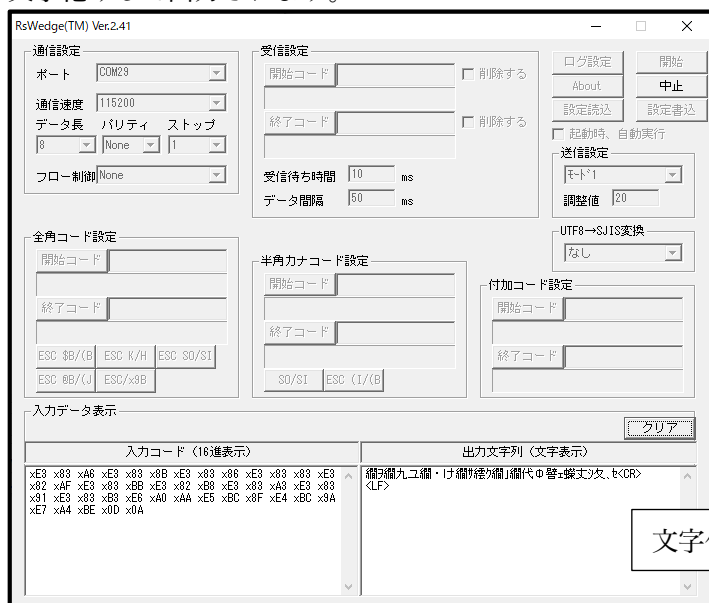
RSWedge の COM ポートへの接続が正常に完了したら、ターゲットのソフトウェアへデータを再送信する前に、RSWedge 上でデータが受信できているかどうかを確認することをお勧めいたします。RSWedge は、自身がアクティブ（最前面）の場合は、データの再送信を行わずに自身の**入力データ表示**に受信したデータを表示します。

正常に COM ポートからのデータが受信出来ている場合は、バーコードを読み取る度に**入力データ表示の入力コード（16進表示）**と**出力文字列（文字表示）**の両方にデータが出力されます。どちらか一方にしか表示されない場合は、スキャナが USB 仮想 COM エミュレーションへ変更されていないか、正しい COM ポートに接続できていません。

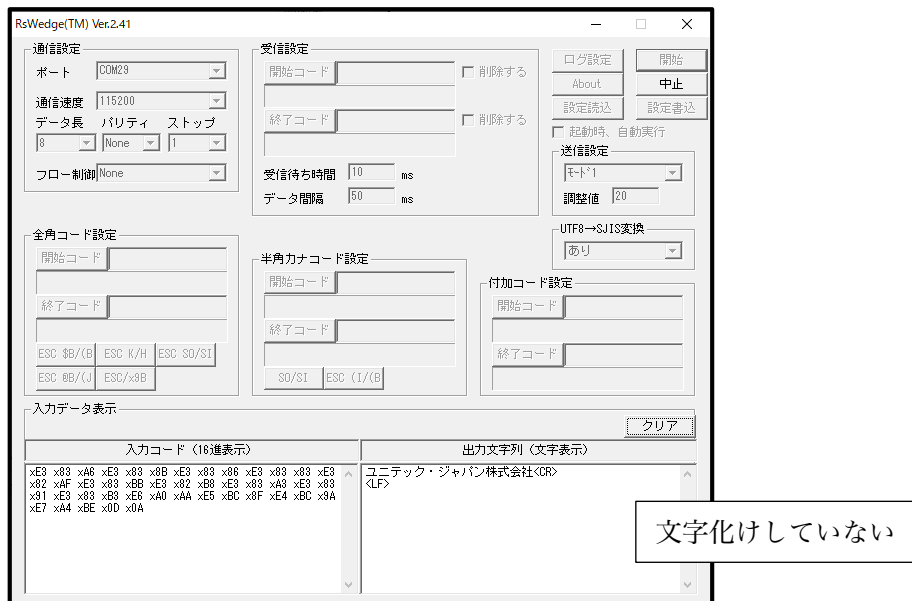


20.3.4. 受信したデータが文字化けしている場合

読み取った QR コードのエンコード方式と、RSWedge のエンコード方式が異なっている場合、日本語部分が文字化けして出力されます。

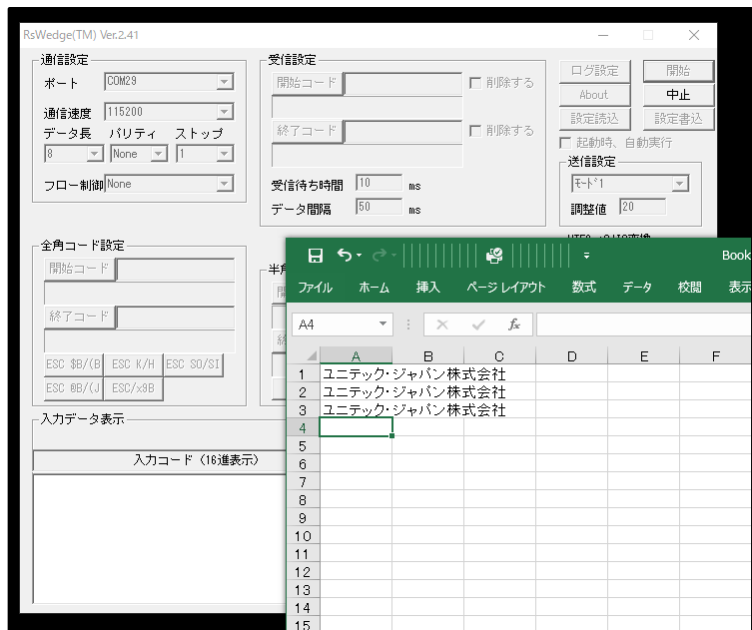


その場合、「中止」ボタンをクリックしてCOMポートとの接続を切断し、UTF8→SJIS変換オプションを逆の値にセットしてください。その後「開始」ボタンをクリックして再びCOMポートと接続します。UTF8→SJIS変換オプションに正しい値がセットされていれば、文字化けせずに出力されます。



20.3.5. データを他のソフトウェアへ再送信させる

データを再送信させたいソフトウェアをアクティブ（最前面）にし文字を入力したい場所にカーソルを合わせます。希望のバーコードを読み取り、データが正しく表示されるか確認します。



20.3.6. 起動時、自動実行について

RSWedge のこのオプションがチェックされている場合、RSWedge の起動時に自動的に開始ボタンが押されて COM ポートへ接続し、RSWedge は最小化してタスクトレイへ格納されます。ただし、これは Windows の再起動時などに自動実行させるための設定ではありません。 Windows の再起動時などに自動実行させたい場合は、このオプションにチェックを入れた RSWedge のショートカットを、Windows のスタートアップフォルダへコピーするなどしておく必要があります。



【参考】 Windows 10 の起動時に自動的に実行されるアプリを変更する

<https://support.microsoft.com/ja-jp/help/4026268/windows-10-change-startup-apps>

21. SSI によるスキャナの制御について

21.1. はじめに

Simple Serial Interface (以下 SSI) は、COM 通信 (シリアル通信) を使用して、ホストからスキャナをコントロールします。ホストからの指示によってバーコードの読取りを開始したり、ビープ音を鳴らしたりすることができます。この章では、SSI の簡単な使用方法と一部のコマンドについて説明しています。

21.2. コマンドについて

SSI メッセージのための一般的なパケットフォーマットは次の通りです。

データ長	オペコード	メッセージソース	ステータス	データ	チェックサム
------	-------	----------	-------	-----	--------

21.3. 各フィールドの詳細

フィールド名	フォーマット	サブフィールド	意味
データ長	1 Byte	長さ	チェックサムを除いたメッセージの長さ。 最大値は 0xFF
オペコード	1 Byte	SSI コマンドリスト (一部) 参照	送信されたパケットデータの種類を識別します
メッセージソース	1 Byte	00 = デコーダから 04 = ホストから	メッセージがどこから来たのか識別します
ステータス	Bit 0	再送信	0 = 初めてのパケットが送信される 1 = 後続の送信
	Bit 1	継続ビット	0 = マルチパケットメッセージの最終フレーム 1 = マルチパケットメッセージの中間パケット
	Bit 2	予約	常に 0 にセットされます
	Bit 3	変更タイプ (パラメータ変更で適用)	0 = 一時的な変更 1 = 恒久的な変更
	Bit 4 - 7	未使用ビット	常に 0 にセットされます
データ	可変	詳細は個々のセクションを参照	
チェックサム	2 Byte	チェックサムを除いたメッセージの 合計の 2 の補数	メッセージのチェックサムは上位バイトと 下位バイトで形成されます

注 チェックサムは 2 バイトであり、上位バイトとそれに続く下位バイトで送信する必要があります。

21.4. SSI コマンドリスト (一部)

コマンド名	タイプ	オペコード	説明
CMD_ACK	H/D	0xD0	受信したパケットに対する肯定応答
CMD_NAK	H/D	0xD1	受信したパケットに対する否定応答
START_DECODE	H	0xE4	スキャナに読取り開始を指示
STOP_DECODE	H	0xE5	スキャナに読取り中止を指示
BEEP	H	0xE6	スキャナにビープ音の鳴動を指示
SCAN_ENABLE	H	0xE9	スキャナに読取り許可を指示
SCAN_DISABLE	H	0xEA	スキャナに読取り禁止を指示
DECODE_DATA	D	0xF3	21.5.3.デコードデータパケットフォーマット (268 ページ) がパケットフォーマットのときのデータ

21.4.1. CMD_ACK

受信したパケットに対する肯定応答

パケットフォーマット

データ長	オペコード	メッセージソース	ステータス	チェックサム
04h	D0h			

フィールドの詳細

フィールド名	フォーマット	サイズ	詳細
データ長	チェックサムを含まないメッセージの長さ	1 Byte	データ長フィールド
オペコード	D0h	1 Byte	このオペコードタイプを識別します
メッセージソース	0 = スキャナ 4 = ホスト	1 Byte	メッセージがどこから来たのか識別します
ステータス		1 Byte	Bit 0: 再送信 0 = 初めての送信 1 = 後続の送信 Bit 1: 継続 0 = マルチパケットメッセージの最終パケット 1 = 中間のパケット Bit 2: 予約 常に 0 Bit 3: パラメータ変更タイプ 0 = 一時的な変更 1 = 恒久的な変更
チェックサム	チェックサムを除いたメッセージの合計の 2 の補数	2 Byte	メッセージのチェックサム

このメッセージは、受信したパケットがチェックサムの検証に成功し、CMD_NAK（否定応答）の条件が適用されない場合に送信されます。要求コマンド（例えば、PARAM_REQUEST や REQUEST_REVISION）に応答している場合、ACK の送信はありません。

✂ ACK/NAK ハンドシェイクは無効化できますが、有効のまま使用することをお勧めします。

注 有効な ACK または NAK メッセージに応答しないでください。

21.4.2. CMD_NAK

受信したパケットに対する否定応答

パケットフォーマット

データ長	オペコード	メッセージソース	ステータス	理由	チェックサム
05h	D1h				

フィールドの詳細

フィールド名	フォーマット	サイズ	詳細
データ長	チェックサムを含まないメッセージの長さ	1 Byte	データ長フィールド
オペコード	D1h	1 Byte	このオペコードタイプを識別します
メッセージソース	0 = スキャナ 4 = ホスト	1 Byte	メッセージがどこから来たのか識別します
ステータス		1 Byte	Bit 0: 再送信 0 = 初めての送信 1 = 後続の送信 Bit 1: 継続 0 = マルチパケットメッセージの最終パケット 1 = 中間のパケット Bit 2: 予約 常に 0 Bit 3: パラメータ変更タイプ 0 = 一時的な変更 1 = 恒久的な変更
理由		1 Byte	NAKが発生した内容を特定します 0 = 予約 1 = (RESEN)チェックサム不合格 2 = (BAD_CONTEXT)予約しないまたは不明なメッセージ 3 = 予約 4 = 予約 5 = 予約 6 = (DENIED)ホストディレクティブ拒否 7 = 予約 8 = 予約 9 = 予約 10 = (CANCEL)望ましくないメッセージ
チェックサム	チェックサムを除いたメッセージの合計の2の補数	2 Byte	メッセージのチェックサム

このメッセージは、受信したパケットがチェックサムの検証に失敗したり、メッセージの処理中に何らかのエラーが発生したりした場合に送信されます。

✂ ACK/NAK ハンドシェイクは無効化できますが、有効のまま使用することをお勧めします。

注 有効な ACK または NAK メッセージに応答しないでください。

CMD_NAK (続き)

サポートされている NAK タイプ

NAK タイプ	意味	受信側の行動
BAD_CONTEXT	ホストはコマンドを認識できない	
CANCEL	ホストは進行中のメッセージを望んでいない	スキャナは現在のメッセージを破棄します
DENIED	ホストは要求されたメッセージに従えない (例えば範囲外の BEEP コマンド)	このメッセージと一緒にデータを送信しないでください。正しい値を確認する必要があります。
RESEND	チェックサムが正しくない	チェックサムが正しいことを確認してください。再送信回数を制限します。再送信ビットを指定してパケットを再送信します。

スキャナはメッセージを 2 回再送します。その時点でメッセージが正常に送信されなかった場合、スキャナは送信エラーを宣言し、送信エラーのビープ音 (低—低—低—低) を鳴動します。

21.4.3. START_DECODE

スキヤナに読取り開始を指示

パケットフォーマット

データ長	オペコード	メッセージソース	ステータス	チェックサム
04h	E4h	04h		

フィールドの詳細

フィールド名	フォーマット	サイズ	詳細
データ長	チェックサムを含まないメッセージの長さ	1 Byte	データ長フィールド
オペコード	E4h	1 Byte	このオペコードタイプを識別します
メッセージソース	4 = ホスト	1 Byte	メッセージがどこから来たのか識別します
ステータス		1 Byte	Bit 0: 再送信 0 = 初めての送信 1 = 後続の送信 Bit 1: 継続 0 = マルチパケットメッセージの最終パケット 1 = 中間のパケット Bit 2: 予約 常に 0 Bit 3: パラメータ変更タイプ 0 = 一時的な変更 1 = 恒久的な変更
チェックサム	チェックサムを除いたメッセージの合計の 2 の補数	2 Byte	メッセージのチェックサム

21.4.4. STOP_DECODE

スキヤナに読取り中止を指示

パケットフォーマット

データ長	オペコード	メッセージソース	ステータス	チェックサム
04h	E5h	04h		

フィールドの詳細

フィールド名	フォーマット	サイズ	詳細
データ長	チェックサムを含まないメッセージの長さ	1 Byte	データ長フィールド
オペコード	E5h	1 Byte	このオペコードタイプを識別します
メッセージソース	4 = ホスト	1 Byte	メッセージがどこから来たのか識別します
ステータス		1 Byte	Bit 0: 再送信 0 = 初めての送信 1 = 後続の送信 Bit 1: 継続 0 = マルチパケットメッセージの最終パケット 1 = 中間のパケット Bit 2: 予約 常に 0 Bit 3: パラメータ変更タイプ 0 = 一時的な変更 1 = 恒久的な変更
チェックサム	チェックサムを除いたメッセージの合計の 2 の補数	2 Byte	メッセージのチェックサム

21.4.5. BEEP

スキヤナにビーブ音の鳴動を指示

パケットフォーマット

データ長	オペコード	メッセージソース	ステータス	ビーブコード	チェックサム
05h	E6h	04h			

フィールドの詳細

フィールド名	フォーマット	サイズ	詳細
データ長	チェックサムを含まないメッセージの長さ	1 Byte	データ長フィールド
オペコード	E6h	1 Byte	このオペコードタイプを識別します
メッセージソース	4 = ホスト	1 Byte	メッセージがどこから来たのか識別します
ステータス		1 Byte	Bit 0: 再送信 0 = 初めての送信 1 = 後続の送信 Bit 1: 継続 0 = マルチパケットメッセージの最終パケット 1 = 中間のパケット Bit 2: 予約 常に 0 Bit 3: パラメータ変更タイプ 0 = 一時的な変更 1 = 恒久的な変更
ビーブコード	ビーブコードテーブル参照	1Byte	ビーブシーケンスを識別する番号
チェックサム	チェックサムを除いたメッセージの合計の 2 の補数	2 Byte	メッセージのチェックサム

ビーブコードテーブル

ビーブコード	長さ	音程	鳴動回数
00h	短い	高音	1 回
01h	短い	高音	2 回
02h	短い	高音	3 回
03h	短い	高音	4 回
04h	短い	高音	5 回
05h	短い	低音	1 回
06h	短い	低音	2 回
07h	短い	低音	3 回
08h	短い	低音	4 回
09h	短い	低音	5 回
0Ah	長い	高音	1 回
0Bh	長い	高音	2 回
0Ch	長い	高音	3 回
0Dh	長い	高音	4 回
0Eh	長い	高音	5 回

BEEP (続き)

ビープコードテーブル (続き)

ビープコード	長さ	音程	鳴動回数
0Fh	長い	低音	1回
10h	長い	低音	2回
11h	長い	低音	3回
12h	長い	低音	4回
13h	長い	低音	5回
14h	速い震音	高音—低音—高音—低音	4回
15h	遅い震音	高音—低音—高音—低音	4回
16h	混在 1	高音—低音	2回
17h	混在 2	低音—高音	2回
18h	混在 3	高音—低音—高音	3回
19h	混在 4	低音—高音—低音	3回
1Ah	長い	高音—高音—低音—低音	4回
1Bh	短い	高音—高音—高音	3回
1Ch	瞬間	高音	1回
1Dh	瞬間	低音	1回

21.4.6. SCAN_ENABLE

スキャナに読取り許可を指示

パケットフォーマット

データ長	オペコード	メッセージソース	ステータス	チェックサム
04h	E9h	04h		

フィールドの詳細

フィールド名	フォーマット	サイズ	詳細
データ長	チェックサムを含まないメッセージの長さ	1 Byte	データ長フィールド
オペコード	E9h	1 Byte	このオペコードタイプを識別します
メッセージソース	4 = ホスト	1 Byte	メッセージがどこから来たのか識別します
ステータス		1 Byte	Bit 0: 再送信 0 = 初めての送信 1 = 後続の送信 Bit 1: 継続 0 = マルチパケットメッセージの最終パケット 1 = 中間のパケット Bit 2: 予約 常に 0 Bit 3: パラメータ変更タイプ 0 = 一時的な変更 1 = 恒久的な変更
チェックサム	チェックサムを除いたメッセージの合計の 2 の補数	2 Byte	メッセージのチェックサム

スキャナは電源投入時に読取り許可の状態では起動しますので、このコマンドは、**SCAN_DISABLE** が送信された場合のみ送信する必要があります。

スキャナは、このコマンドを受信するとトリガー操作や読取り操作を許可します。

21.4.7. SCAN_DISABLE

スキャナに読取り禁止を指示

パケットフォーマット

データ長	オペコード	メッセージソース	ステータス	チェックサム
04h	EAh	04h		

フィールドの詳細

フィールド名	フォーマット	サイズ	詳細
データ長	チェックサムを含まないメッセージの長さ	1 Byte	データ長フィールド
オペコード	EAh	1 Byte	このオペコードタイプを識別します
メッセージソース	4 = ホスト	1 Byte	メッセージがどこから来たのか識別します
ステータス		1 Byte	Bit 0: 再送信 0 = 初めての送信 1 = 後続の送信 Bit 1: 継続 0 = マルチパケットメッセージの最終パケット 1 = 中間のパケット Bit 2: 予約 常に 0 Bit 3: パラメータ変更タイプ 0 = 一時的な変更 1 = 恒久的な変更
チェックサム	チェックサムを除いたメッセージの合計の 2 の補数	2 Byte	メッセージのチェックサム

スキャナは、**SCAN_ENABLE** が送信されるか、スキャナがリセットされるまで、すべての読取り動作が無効になります。

スキャナは、このコマンドを受信するとすべてのトリガー操作や読取り操作を無視します。

21.4.8. DECODE_DATA

21.5.3.デコードデータパッケージフォーマット (268 ページ) がパッケージフォーマットのときのデータ。

パッケージフォーマット

データ長	オペコード	メッセージソース	ステータス	バーコードタイプ	読取データ	チェックサム
	F3h	00h				

フィールドの詳細

フィールド名	フォーマット	サイズ	詳細
データ長	チェックサムを含まないメッセージの長さ	1 Byte	データ長フィールド
オペコード	F3h	1 Byte	このオペコードタイプを識別します
メッセージソース	0 = スキャナ	1 Byte	メッセージがどこから来たのか識別します
ステータス		1 Byte	Bit 0: 再送信 0 = 初めての送信 1 = 後続の送信 Bit 1: 継続 0 = マルチパッケージメッセージの最終パッケージ 1 = 中間のパッケージ Bit 2: 予約 常に 0 Bit 3: パラメータ変更タイプ 0 = 一時的な変更 1 = 恒久的な変更
バーコードタイプ	コードタイプと識別子参照	1 Byte	読み取ったバーコードタイプを識別します
読取データ	データ	可変	データは、プリフィックスとサフィックスを含む ASCII フォーマットで送信されます
チェックサム	チェックサムを除いたメッセージの合計の 2 の補数	2 Byte	メッセージのチェックサム

読み取ったデータに標準フォーマットで表示できる以上の構造が含まれている場合、「バーコードタイプ」フィールドは 0x99 に設定され、「デコードデータ」メッセージに複数のパッケージが含まれていることを示します。「読取データ」フィールドのフォーマットには、実際のバーコードタイプとパッケージ形式の読み取りデータが含まれています。たとえば、Micro PDF 417 のパッケージ化されたデコードデータメッセージは次のようになります。

MicroPDF417 のパッケージデータメッセージの例

データ長	オペコード	メッセージソース	ステータス	バーコードタイプ	読取データ	チェックサム
12	F3h	00h	0	99	以下参照	

読取データは次のように分割されます

実際のバーコードタイプ	パッケージ数	予備バイト	パッケージ番号#1 のデータ長	データ	予備バイト	パッケージ番号#2 のデータ長	データ
1A	2	0	00 03	ABC	0	00 04	DEFG

DECODE_DATA (続き)

21.4.8.1. コードタイプと識別子

シンボル	SSI ID	コード ID	AIM ID	AIM ID 修飾子
Aztec Code	0x2D	z	z	0
Aztec Rune Code	0x2E	z	z	C
Bookland	0x16	L	X	0
C 2 of 5	0x72	U	X	0
Codabar	0x02	C	F	0 (1) - standard (ABC)
Code 11	0x0C	H	H	0 - 1 チェックデジット検査&送信 1 - 2 チェックデジット検査&送信 3 - チェックデジット検査&送信しない
Code 128	0x03	D	C	0
Code 16K	0x12	X	X	0
Code 32	0x20	B	A	Code 39 と同様のルール
Code 39	0x01	B	A	0 - チェックデジットなし 1 - チェックデジット検査&送信 3 - チェックデジット検査&送信しない
Code 39 Full ASCII	0x13	B	A	4 - チェックデジットなし 5 - チェックデジット検査&送信 7 - チェックデジット検査&送信しない
Code 49	0x0D	X	X	0
Code 93	0x07	E	G	0
Composite (CC-A + GS1-128)	0x51	T		合成シンボルのデータフォーマット参照
Composite (CC-A + EAN-13)	0x52	T		合成シンボルのデータフォーマット参照
Composite (CC-A + EAN-8)	0x53	T		合成シンボルのデータフォーマット参照
Composite (CC-A + GS1 DataBar Expanded)	0x54	T		合成シンボルのデータフォーマット参照
Composite (CC-A + GS1 DataBar Limited)	0x55	T		合成シンボルのデータフォーマット参照
Composite (CC-A + GS1 DataBar-14)	0x56	T		合成シンボルのデータフォーマット参照
Composite (CC-A + UPC-A)	0x57	T		合成シンボルのデータフォーマット参照
Composite (CC-A + UPC-E)	0x58	T		合成シンボルのデータフォーマット参照
Composite (CC-B + GS1-128)	0x61	T		合成シンボルのデータフォーマット参照

注意：

1. **E+C** は、2つの AIM ID が送信されることを示し、1つ目は UPC/JAN の、2つ目は拡張 GS1-128 のプリフィックスです。
2. **E+E** は、2つの AIM ID が送信されることを示し、1つ目は UPC/JAN の、2つ目はアドオンコードのプリフィックスです。
3. UPCE、UPCE1、UPCA は、JAN-13 の AIM ID に変換されます。

コードタイプと識別子 (続き)

シンボル	SSI ID	コード ID	AIM ID	AIM ID 修飾子
Composite (CC-B + EAN-13)	0x62	T		合成シンボルのデータフォーマット参照
Composite (CC-B + EAN-8)	0x63	T		合成シンボルのデータフォーマット参照
Composite (CC-B + GS1 DataBar Expanded)	0x64	T		合成シンボルのデータフォーマット参照
Composite (CC-B + GS1 DataBar Limited)	0x65	T		合成シンボルのデータフォーマット参照
Composite (CC-B + GS1 DataBar-14)	0x66	T		合成シンボルのデータフォーマット参照
Composite (CC-B + UPC-A)	0x67	T		合成シンボルのデータフォーマット参照
Composite (CC-B + UPC-E)	0x68	T		合成シンボルのデータフォーマット参照
Composite (CC-C + GS1-128)	0x59	T		合成シンボルのデータフォーマット参照
Coupon Code	0x17	N	E+C ¹	0+1
Cue CAT Code	0x38	Q	X	0
D25	0x04	G	S	0
Data Matrix	0x1B	P00	d	1 - ECC 200 (ECI なし) 4 - ECC 200 (ECI あり)
GS1-128	0x0F	K	C	1 - 1 文字目に FNC1 2 - 2 文字目に FNC1
GS1 QR	0xC2	P0Q	Q	3
JAN-13	0x0B	A	E	0
JAN-13 + 2	0x4B	A	E+E ²	0+1 (アドオンコードの AIM ID フォーマット参照)
JAN-13 + 5	0x8B	A	E+E ²	0+2 (アドオンコードの AIM ID フォーマット参照)
JAN-8	0x0A	A	E	4
JAN-8 + 2	0x4A	A	E+E ²	4+1 (アドオンコードの AIM ID フォーマット参照)
JAN-8 + 5	0x8A	A	E+E ²	4+2 (アドオンコードの AIM ID フォーマット参照)
French Lottery	0x2F	X	X	0
GS1 DataBar Expanded	0x32	R		
GS1 DataBar Limited	0x31	R		
GS1 DataBar-14	0x30	R		
GS1 Datamatrix	0xC1	P0G	d	2
Han Xin	0xB7	P0H	X	0
IATA	0x05	G	S	0

注意：

1. E+C は、2つの AIM ID が送信されることを示し、1つ目は UPC/JAN の、2つ目は拡張 GS1-128 のプリフィックスです。
2. E+E は、2つの AIM ID が送信されることを示し、1つ目は UPC/JAN の、2つ目はアドオンコードのプリフィックスです。
3. UPCE、UPCE1、UPCA は、JAN-13 の AIM ID に変換されます。

コードタイプと識別子 (続き)

シンボル	SSI ID	コード ID	AIM ID	AIM ID 修飾子
ISBT-128	0x19	D	C	0
ISBT-128 Concat	0x21	D	C	4
ISSN	0x36	X	X	0
ITF	0x06	F	I	Code 39 と同様のルール
Korean 2 of 5	0x73	V	X	0
Macro Micro PDF	0x9A	X	L	Micro PDF-417 と同様のルール
Macro PDF-417	0x28	X	L	PDF-417 と同様のルール
Macro QR Code	0x29	X	X	0
Matrix 2 of 5	0x39	S	X	0
Maxicode	0x25	P02	U	0 - Mode 4 または Mode 5 (ECI なし) 1 - Mode 2 または Mode 3 (ECI なし) 2 - Mode 4 または Mode 5 (ECI あり) 3 - Mode 2 または Mode 3 (ECI あり)
Micro PDF	0x1A	X	L	3 - Code 128 エミュレーション: 1 文字目に暗黙の FNC1 4 - Code 128 エミュレーション: 先頭後に暗黙の FNC1 5 - Code 128 エミュレーション: 暗黙の FNC1 なし
Micro PDF CCA	0x1d	X	X	0
Micro QR Code	0x2C	P01	Q	1
MSI	0x0E	J	M	0 - Mod10 チェックデジット検査&送信 1 - Mod10 チェックデジット検査&送信しない
Multipacket Format	0x99	N/A	N/A	データはパケット化されており、SSI ID はデコードデータに組み込まれます
NW7	0x18	X	X	0
OCRB	0xA0	X	X	0
Parameter (FNC3)	0x33	N/A	N/A	
PDF-417	0x11	X	L	0 - 1994 PDF-417 仕様に準拠 1 - バックスラッシュ 2 バイト (2 重) 2 - バックスラッシュ 1 バイト
Planet (US)	0x1F	P04	X	
Postal (Australia)	0x23	P09	X	0
Postal (Dutch)	0x24	P08	X	0
Postal (Japan)	0x22	P05	X	0
Postal (UK)	0x27	P06	X	0
Postbar (CA)	0x26	P07	X	0
Postnet (US)	0x1E	P03	X	0
QR Code	0x1C	P01	Q	0
RFID Raw	0xE0	X	X	0
RFID URI	0xE1	X	X	0

注意:

1. **E+C** は、2つの AIM ID が送信されることを示し、1つ目は UPC/JAN の、2つ目は拡張 GS1-128 のプリフィックスです。
2. **E+E** は、2つの AIM ID が送信されることを示し、1つ目は UPC/JAN の、2つ目はアドオンコードのプリフィックスです。
3. UPCE、UPCE1、UPCA は、JAN-13 の AIM ID に変換されます。

コードタイプと識別子 (続き)

シンボル	SSI ID	コード ID	AIM ID	AIM ID 修飾子
RSS (GS1 DataBar) Expanded Coupon	0xB4	R	X	0
Scanlet Webcode	0x37	W	X	0
Signature	0x69	P0X	X	0
TLC-39	0x5A	T	合成シンボルのデータフォーマット参照	
Trioptic	0x15	M	X	0
UPCA	0x08	A	E	0
UPCA + 2	0x48	A	E+E ²	0+1 (アドオンコードの AIM ID フォーマット参照)
UPCA + 5	0x88	A	E+E ²	0+2 (アドオンコードの AIM ID フォーマット参照)
UPCD	0x14	X	X	0
UPCE 3	0x09	A	E	0
UPCE + 2	0x49	A	E+E ²	0+1 (アドオンコードの AIM ID フォーマット参照)
UPCE + 5	0x89	A	E+E ²	0+2 (アドオンコードの AIM ID フォーマット参照)
UPCE1	0x10	A	E	0
UPCE1 + 2	0x50	A	E+E ²	0+1 (アドオンコードの AIM ID フォーマット参照)
UPCE1 + 5	0x90	A	E+E ²	0+2 (アドオンコードの AIM ID フォーマット参照)
4State US	0x34	P0A	X	0
4State US4	0x35	P0B	X	0
<p>注意：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. E+C は、2つの AIM ID が送信されることを示し、1つ目は UPC/JAN の、2つ目は拡張 GS1-128 のプリフィックスです。 2. E+E は、2つの AIM ID が送信されることを示し、1つ目は UPC/JAN の、2つ目はアドオンコードのプリフィックスです。 3. UPCE、UPCE1、UPCA は、JAN-13 の AIM ID に変換されます。 				

21.4.8.2. 合成シンボルのデータフォーマット

1D コンポーネント	データフォーマット	
	標準モード	GS1-128 エミュレーションモード
JAN-13 UPC-A UPC-E	1D :]E0 2D :]e0 ※下記注意の 5 参照	1D :]E0 2D :]C1 分割送信される各 GS1-128 の前 ※下記注意の 3~5 参照
EAN-8	1D :]E4 2D :]e0 ※下記注意の 5 参照	1D :]E4 2D :]C1 分割送信される各 GS1-128 の前 ※下記注意の 3~5 参照
GS1 Databar-14 GS1 Databar Limited	1D :]e0 2D :]e1 ※下記注意の 2 参照]C1 分割送信される各 GS1-128 の前 ※下記注意の 3~5 参照
Code 39 (TLC39)	ANSI MH10.8.3M syntax: 06 Format:]> ^R _s 06 ^G _s 6P 1D ^G _s S 2D ^R _s EOT 05 Format:]> ^R _s 05 ^G _s 906P 1D ^G _s 8004 2D ^R _s EOT ※下記注意の 6 参照	
GS1-128 GS1 DataBar Expanded	GS1-128 の最後の AI が所定の固定長であれば、]e0 その他の場合は、]e0 GS ※下記注意の 2 参照]C1 分割送信される各 GS1-128 の前 ※下記注意の 3、4 参照
注意： 1. 1D と 2D の FNC1 は全て $^G_s (^{29}_{10})$ として送信され、GS1-128 の最初の FNC1 は送信されません。 2. 標準モードでは、シンボルセパレータに続くデータは「]e1」で始まる。合成コンポーネントエスケープメカニズムに続くデータは、ECI が有効な場合は「]e2」、ECI が有効でない場合は「]e3」で始まる。 3. GS1-128 エミュレーションモードでは、各パケットは AI フィールドで分割され、48 文字以下に制限されます。 4. GS1-128 エミュレーションモードでは、最初のシンボルセパレータまたはエスケープメカニズムの後にデータが破棄されます。 5. UPC/JAN コンポーネントにアドオンコードがある場合、「]E1」は 2 桁アドオンの前に、「]E2」は 5 桁アドオンの前になります。 6. RS は $^{30}_{10}$ 、EOT は 04 です。送信フォーマット (05 または 06) はデータに依存します。		

21.5. SSI 設定バーコード

21.5.1. ソフトウェアハンドシェイク

ソフトウェアハンドシェイクによるデータ制御を設定します。ハードウェアハンドシェイクについては常に有効で無効にすることはできません。

ACK/NAK 有効* — データ送信後、スキャナはホストからの ACK または NAK の応答を期待します。また、スキャナはホストからのメッセージに対して ACK または NAK で応答します。

ACK/NAK 無効 — スキャナは ACK/NAK ハンドシェイクパケットを生成しません。またホストからの送信も期待しません。

スキャナは [21.5.4.ホストシリアルレスポンスタイムアウト](#) (268 ページ) まで ACK または NAK の受信を待機します。もしもスキャナがこの時間内に応答を得られなかった場合、2 回の再送信を行い、それでも応答がない場合はデータを廃棄し送信エラーを宣言します。

初期値 = ACK/NAK 有効



ACK/NAK 有効



ACK/NAK 無効

21.5.2. ホストの RTS 制御線の状態

シリアルホストの RTS 制御線の予想されるアイドル状態を設定します。

初期値 = Low レベル



Low レベル



High レベル

21.5.3. デコードデータパケットフォーマット

デコードされたデータを（パケット化されていない）Raw データ形式で送信するか、シリアルプロトコルで定義されたパケット形式で送信するか選択することができます。**Raw データで送信**を選択するとデコードデータのための ACK/NAK ハンドシェイクが無効化されます。

初期値 = Raw データで送信



Raw データで送信



パケットデータで送信

21.5.4. ホストシリアルレスポンスタイムアウト

スキャナがデータを再送するまでにホストからの ACK または NAK の受信を待機する時間を設定します。

初期値 = 小 — 2 秒



小 — 2 秒



中 — 5 秒



大 — 7.5 秒



最大 — 9.9 秒

21.5.5. ホストキャラクタタイムアウト

スキャナがホストによって送信された文字と文字の間に待機する時間の最大値を設定します。スキャナがこの時間を超えて受信ができなかった場合、データを破棄してエラーを宣言します。

初期値 = 小 — 200 ミリ秒



小 — 200 ミリ秒



中 — 500 ミリ秒



大 — 750 ミリ秒



最大 — 990 ミリ秒

21.5.6. マルチパケットオプション

このパラメータはマルチパケット送信時の各データパケットのための ACK/NAK ハンドシェイクを制御します。

オプション 1 — ホストは、マルチパケット送信時に各データパケットのために ACK/NAK を送信します。

オプション 2 — スキャナは、送信速度をあげるために ACK/NAK ハンドシェイクを行わずに、連続してデータパケットを送信します。データが超過した場合、ホストはハードウェアハンドシェイクを使用してスキャナの送信を一時的に遅らせることができます。スキャナは、送信を終了すると、ホストからの **CMD_ACK** または **CMD_NAK** を待ちます。

オプション 3 — オプション 3 はオプション 2 と同じ機能に加え、[21.5.7.パケット間遅延](#) (271 ページ) が追加されています。

初期値 = オプション 1



オプション 1



オプション 2



オプション 3

21.5.7. パケット間遅延

この設定は、21.5.6.マルチパケットオプション (270 ページ) でオプション 3 が選択された場合に、パケット間の送信遅延を設定します。

初期値 = 最小 — 0 ミリ秒



最小 — 0 ミリ秒



小 — 25 ミリ秒



中 — 50 ミリ秒



大 — 75 ミリ秒



最大 — 99 ミリ秒

21.5.8. イベント通知

ホストは、スキャナの動作に関する特定のイベントを提供するように要求できます。

21.5.8.1. スキャナの動作に関する特定のイベント

イベントクラス	イベント	イベントコード
読取イベント	バーコード読取り (設定変更バーコード以外)	0x01
起動イベント	スキャナの電源投入	0x03
設定イベント	設定入力エラー	0x07
	設定が保存された	0x08
	設定が初期化された	0x0A
	続いて数値の入力が必要	0x0F

21.5.8.2. 読取イベント

この設定が**有効**の場合、スキャナはバーコードを正常に読み取ると、ホストへ読取りイベントを通知します。

初期値 = 無効



無効



有効

21.5.8.3. 起動イベント

この設定が**有効**の場合、スキャナの電源投入時にホストへ起動イベントを通知します。



無効



有効

21.5.8.4. 設定イベント

この設定が**有効**の場合、スキャナは設定変更関連の動作を行うと、ホストへ [21.5.8.1.スキャナの動作に関する特定のイベント](#) (271 ページ) で指定されているいずれかのイベントを通知します。

初期値 = 無効



無効



有効

22. よくある質問

- Q XX ミリ角の QR コードは読取れますか？
- Q XX 桁で幅が XX ミリのバーコードは読取れますか？
- Q 紙以外に印字されたバーコードは読取れますか？
- Q コンベアで流れてくる商品に貼付けられているバーコードは読み取れますか？
- Q 曲面に貼付けられたバーコードは読取れますか？
- Q バーコードからどのくらい離して読取れますか？
- Q XX という機器で使用できますか？
- Q XX というアプリ、ソフトウェアで使用できますか？

A ユニテックのスキャナは、ご購入前に事前のご評価を充分に行なっていただくための無償のお貸し出しを実施しております。バーコードは、データ量、印字サイズ、周辺環境、その他の外的要因によって読取りの精度が変化します。例えばオフィスでは読めたのに倉庫だと読めない（周囲が暗かった）といったこともございます。実際の環境での事前の十分な検証をユニテックは推奨しております。必要な方は以下の評価機貸出フォームをご利用ください。

<http://unitech-japan.co.jp/loanform.html>

- Q 設定バーコードが読取れません。
- Q 設定バーコードを読取るとエラー音が鳴ります。
- A 本マニュアルの 1 ページ目を参照し、本マニュアルの対象機器かどうかを確認してください。次にターゲットの設定バーコードが掲載されたページを A4 等倍にて印刷して読取れるか確認してみてください。

- Q バーコード（QR コード）を読取ったり読取らなかったり不安定です。
- Q バーコード（QR コード）の読み取り速度を上げたい。
- A スキャナの適切に読取れる仕様でバーコード（QR コード）が生成されていない可能性があります。ターゲットの大きさ、幅、文字数などを変更したり、上位の機種に変更したりすることを検討してください。

- Q RS232 モデルは用意されていますか？
- A いいえ、MS852LR には RS232 モデルは用意されていません。

- Q USB モデルに付属している USB ケーブルの長さを教えてくださいませんか？
- A 2.0 メートル（USB コネクタ含む）です。

よくある質問（続き）

Q USB ケーブルの USB コネクタの形状を教えてくださいませんか？

A タイプ A オスです。また、オプション品として、マイクロ USB ケーブル（製品番号：1550-90008 4G）もサポートしています。マイクロ USB コネクタの形状は「タイプ B オス」です。詳細は [2.9.インターフェースケーブル](#)（18 ページ）をご覧ください。

Q バーコードデータ後の自動改行/自動実行が行われず、または行われなくなった。（Windows）

A IME が半角直接入力（IME オフ）になっているか確認してください。「ローマ字入力」や「かな入力」などの文字変換を伴う入力方法では正しく操作が行われません。

Q 液晶画面に表示されたバーコードが読取れますか？

A はい、読取れます。バーコードがくっきり表示されており、画面輝度（明るさ）が最大になっている必要があります。読み取りにくい場合は、[13.15.携帯電話/ディスプレイモード](#)（87 ページ）を「有効」に設定してください。 ※すべての環境での読取りを保証しているわけではありません。

Q バーコード読取後の改行を無効化できますか？

A [11.4.送信データフォーマット](#)（72 ページ）を「データのみ」に設定してください。

Q バーコード読取後の改行を無効化できますか？

Q バーコード読取後の改行を Tab に変更できますか？

A [11.3.プリフィックスとサフィックス](#)（69 ページ）および [11.4.送信データフォーマット](#)（72 ページ）を使用して設定してください。

Q バーコードの誤読対策を行えますか？

A 各バーコードのセキュリティレベル設定をご確認ください。

Q 特定のバーコードを読取ることができません

A ターゲットのバーコードの種類・規格を確認し、[18.標準設定値一覧](#)（209 ページ）の該当するバーコードの設定項目の標準値を確認してください。標準では読取りが無効になっていたり、読取り桁数が制限されていたりする場合がありますので、適切な設定に変更してください。バーコードの規格が分からない場合は、バーコードの制作元へ確認してください。

よくある質問（続き）

Q 照準パターンの重なったバーコードだけ読み取らせることができますか？

A [13.4.ピックリストモード](#)（80 ページ）をご利用ください。

Q JAN-13 コードを読むと先頭の「0」が消えてしまいます

A [14.2.15.UPC-A プリアンブル](#)（96 ページ）を「カントリーコード+システムキャラクタ」に設定してください。

Q 書籍用二段バーコードを 1 回のスキャンで読み取りできますか？

A [19.5.2.1.MDF 例 1：書籍用二段 JAN コードを 1 回のスキャンで読み取る](#)（233 ページ）を参考に設定してください。

Q JAN コードの右の 3 桁または 5 桁のコードも一回のスキャンで読み取りできますか？

A [14.2.7.UPC/JAN アドオンコードの読取り](#)（91 ページ）を適切に設定してください。

Q データの開始と終了に A~D のアルファベットが送信されてしまいます

A [14.9.5.NW-7 スタート・ストップキャラクタの送信](#)（126 ページ）を「送信しない」に設定してください。ターゲットのバーコードが NW-7 (codabar) 以外の場合は、データ編集の [19.5.1.ADF - Advanced Data Format](#)（228 ページ）を使用して設定してください。

Q GS1 系のバーコードを括弧付きで送信できますか？

A スキャナは AI の編集に対応していないためできません。

Q Excel に送信したら文字化けしてしまいます（E+が表示される）

A セルの書式設定を適切なもの（数値や文字列など）へ変更してください。

Q 特定の記号が異なる記号で表示されてしまいます

A [9.1.キーボードレイアウト](#)（45 ページ）を「日本語 (ASCII)」に設定してください。

Q 日本語を含んだ QR コード内のデータを文字化けせずに送信できますか？

A [17.CJK コントロール](#)（206 ページ）または [20.USB 仮想 COM エミュレーション](#)（244 ページ）をご利用ください。

よくある質問（続き）

Q CJK コントロールを使用した日本語出力とデータ編集を同時に使用できますか？

A いいえ、同時に使用できません。日本語出力とデータ編集を同時に使用したい場合は、[20.USB 仮想 COM エミュレーション](#)（244 ページ）のご利用をご検討ください。

Q キーボードの入力状態に左右されずに常に正しくデータを送信できますか？

A [8.6.キーパッドエミュレート](#)（36 ページ）を「有効」に設定してください。この機能は OS や使用するソフトウェアによっては正しく動作しない場合があります。ご注意ください。

Q 音量最大でもビープ音が聞こえない環境で、視覚で読取確認する方法はありますか？

A [12.6.ダイレクトデコードインジケータ](#)（76 ページ）をご利用ください。

Q バーコードの自動読取りを行えますか？（ハンドフリー動作）

A [13.1.スキャンモード](#)（78 ページ）の「プレゼンテーション」をご利用ください。スキャナは、ハンドフリースタンド（製造番号：5200-900010G）と組み合わせて、ハンドフリーで使用することができます。
※ハンドフリースタンドと組み合わせた場合でも設定は必要です。

Q データの XX 文字目から XX 文字目だけ送信できますか？

A [19.5.1.2.ADF 例 2：NW-7 \(codabar\) の 3 桁目から 5 文字のデータを送信する](#)（229 ページ）を参考に 123Scan で設定を作成してください。

Q ホストからスキャナをコントロールできますか？

A SNAPI と SDK を使用したコントロール、または SSI を使ったコントロールが可能です。SDK は各種ドライバ、ソフトウェアの SDK for Windows および SDK 開発者ガイド（英語）をご確認ください。SSI については、[21.SSI によるスキャナの制御について](#)（250 ページ）をご参照下さい。

Q MS852 のメーカー標準保証期間を教えてください。

A 3 年間です。

Q 修理を依頼したい

A インターネットブラウザで以下の場所へアクセスし、同ページにリンクされている「修理依頼書」をダウンロードしてください。2 ページ目に修理の依頼方法が掲載されています。

<http://www.unitech-japan.co.jp/service/>

23. 各種ドライバ、ソフトウェア

www.zebra.com/support] > [バーコードスキャナ] >

SNAPI用ドライバ

[Scanner SDK For Windows] > [CoreScanner Driver for Windows]

USB CDCドライバ

[USB CDC Driver] > [CDC Driver for Windows 7 and 8.1]

123Scan

[Download 123Scan Utility] > [123Scan for Windows]

ADFガイド (英語)

[Download 123Scan Utility] > [Advanced Data Formatting Programmer Guide]

MDFガイド (英語)

[Download 123Scan Utility] > [Multicode Data Formatting and Preferred Symbol User Guide]

SDK for Windows

[Scanner SDK For Windows] > [Scanner SDK for Windows]

OPOS/JPOSドライバ

[Scanner SDK For Windows] > [Scanner SDK for Windows]

SDK 開発者ガイド (英語)

[Scanner SDK For Windows] > [Zebra Scanner SDK for Windows Developer's Guide]

OPOS 開発者ガイド (英語)

[Scanner SDK For Windows] > [Zebra Scanner OPOS Driver Developer's Guide]

JPOS 開発者ガイド (英語)

[Scanner SDK For Windows] > [Scanner JPOS Driver Developer's Guide]

24. ASCII 文字セット

設定を行う場合には「Prefix/Suffix 値」の4桁の数字を 25.数字バーコード (288 ページ) を使用して指定してください。設定された「キーストローク」が送信されます。

キーストローク欄の**太字**は 8.8.ファンクションキーマッピング設定 (37 ページ) が**有効**の場合に送信されます。例として、Prefix/Suffix 値「1009」の場合では、**無効**の場合は **CTRL+I**が、**有効**の場合は **TAB**が送信されます。

24.1. ASCII テーブル

Prefix/Suffix 値	フル ASCII Code 39 エンコード文字	キーストローク	ASCII コード
1000	%U	CTRL + 2	NUL
1001	\$A	CTRL + A	SOH
1002	\$B	CTRL + B	STX
1003	\$C	CTRL + C	ETX
1004	\$D	CTRL + D	EOT
1005	\$E	CTRL + E	ENQ
1006	\$F	CTRL + F	ACK
1007	\$G	CTRL + G	BEL
1008	\$H	CTRL + H / BACKSPACE	BS
1009	\$I	CTRL + I / TAB	HT
1010	\$J	CTRL + J	LF
1011	\$K	CTRL + K	VT
1012	\$L	CTRL + L	FF
1013	\$M	CTRL + M / ENTER	CR
1014	\$N	CTRL + N	SO
1015	\$O	CTRL + O	SI
1016	\$P	CTRL + P	DLE
1017	\$Q	CTRL + Q	DC1
1018	\$R	CTRL + R	DC2
1019	\$S	CTRL + S	DC3
1020	\$T	CTRL + T	DC4
1021	\$U	CTRL + U	NAK
1022	\$V	CTRL + V	SYN
1023	\$W	CTRL + W	ETB

ASCII テーブル (続き)

Prefix/Suffix 値	フル ASCII Code 39 エンコード文字	キーストローク	ASCII コード
1024	\$X	CTRL + X	CAN
1025	\$Y	CTRL + Y	EM
1026	\$Z	CTRL + Z	SUB
1027	%A	CTRL + [/ ESC	ESC
1028	%B	CTRL + \	FS
1029	%C	CTRL +]	GS
1030	%D	CTRL + 6	RS
1031	%E	CTRL + -	US
1032	Space	Space	Space
1033	/A	!	!
1034	/B	"	"
1035	/C	#	#
1036	/D	\$	\$
1037	/E	%	%
1038	/F	&	&
1039	/G	'	'
1040	/H	((
1041	/I))
1042	/J	*	*
1043	/K	+	+
1044	/L	,	,
1045	-	-	-
1046	.	.	.
1047	/O	/	/
1048	0	0	0
1049	1	1	1
1050	2	2	2
1051	3	3	3
1052	4	4	4
1053	5	5	5
1054	6	6	6
1055	7	7	7
1056	8	8	8
1057	9	9	9
1058	/Z	:	:

ASCII テーブル (続き)

Prefix/Suffix 値	フル ASCII Code 39 エンコード文字	キーストローク	ASCII コード
1059	%F	;	;
1060	%G	<	<
1061	%H	=	=
1062	%I	>	>
1063	%J	?	?
1064	%V	@	@
1065	A	A	A
1066	B	B	B
1067	C	C	C
1068	D	D	D
1069	E	E	E
1070	F	F	F
1071	G	G	G
1072	H	H	H
1073	I	I	I
1074	J	J	J
1075	K	K	K
1076	L	L	L
1077	M	M	M
1078	N	N	N
1079	O	O	O
1080	P	P	P
1081	Q	Q	Q
1082	R	R	R
1083	S	S	S
1084	T	T	T
1085	U	U	U
1086	V	V	V
1087	W	W	W
1088	X	X	X
1089	Y	Y	Y
1090	Z	Z	Z
1091	%K	[[
1092	%L	\	\
1093	%M]]

ASCII テーブル (続き)

Prefix/Suffix 値	フル ASCII Code 39 エンコード文字	キーストローク	ASCII コード
1094	%N	^	^
1095	%O	_	_
1096	%W	`	`
1097	+A	a	a
1098	+B	b	b
1099	+C	c	c
1100	+D	d	d
1101	+E	e	e
1102	+F	f	f
1103	+G	g	g
1104	+H	h	h
1105	+I	i	i
1106	+J	j	j
1107	+K	k	k
1108	+L	l	l
1109	+M	m	m
1110	+N	n	n
1111	+O	o	o
1112	+P	p	p
1113	+Q	q	q
1114	+R	r	r
1115	+S	s	s
1116	+T	t	t
1117	+U	u	u
1118	+V	v	v
1119	+W	w	w
1120	+X	x	x
1121	+Y	y	y
1122	+Z	z	z
1123	%P	{	{
1124	%Q		
1125	%R	}	}
1126	%S	~	~

24.2. ALT キー文字セット

Prefix/Suffix 値	キーストローク
2064	ALT + 2
2065	ALT + A
2066	ALT + B
2067	ALT + C
2068	ALT + D
2069	ALT + E
2070	ALT + F
2071	ALT + G
2072	ALT + H
2073	ALT + I
2074	ALT + J
2075	ALT + K
2076	ALT + L
2077	ALT + M
2078	ALT + N
2079	ALT + O
2080	ALT + P
2081	ALT + Q
2082	ALT + R
2083	ALT + S
2084	ALT + T
2085	ALT + U
2086	ALT + V
2087	ALT + W
2088	ALT + X
2089	ALT + Y
2090	ALT + Z

24.3. USB GUI 文字セット

GUI キーとは、Windows の「Windows キー」、Mac の「Apple キー」です。Mac OS X での動作は確認できておりません。

Prefix/Suffix 値	キーストローク
3000	右 Ctrl キー
3048	GUI + 0
3049	GUI + 1
3050	GUI + 2
3051	GUI + 3
3052	GUI + 4
3053	GUI + 5
3054	GUI + 6
3055	GUI + 7
3056	GUI + 8
3057	GUI + 9
3065	GUI + A
3066	GUI + B
3067	GUI + C
3068	GUI + D
3069	GUI + E
3070	GUI + F
3071	GUI + G
3072	GUI + H
3073	GUI + I
3074	GUI + J
3075	GUI + K
3076	GUI + L
3077	GUI + M
3078	GUI + N
3079	GUI + O
3080	GUI + P
3081	GUI + Q
3082	GUI + R
3083	GUI + S
3084	GUI + T
3085	GUI + U
3086	GUI + V
3087	GUI + W
3088	GUI + X
3089	GUI + Y
3090	GUI + Z

24.4. PF キー文字セット

Prefix/Suffix 値	キーストローク
4001	PF 1
4002	PF 2
4003	PF 3
4004	PF 4
4005	PF 5
4006	PF 6
4007	PF 7
4008	PF 8
4009	PF 9
4010	PF 10
4011	PF 11
4012	PF 12
4013	PF 13
4014	PF 14
4015	PF 15
4016	PF 16

24.5. ファンクションキー文字セット

Prefix/Suffix 値	キーストローク
5001	F1
5002	F2
5003	F3
5004	F4
5005	F5
5006	F6
5007	F7
5008	F8
5009	F9
5010	F10
5011	F11
5012	F12
5013	F13
5014	F14
5015	F15
5016	F16
5017	F17
5018	F18
5019	F19
5020	F20
5021	F21
5022	F22
5023	F23
5024	F24

24.6. 数字キーパッド文字セット

Prefix/Suffix 値	キーストローク
6042	*
6043	+
6044	(未定義)
6045	-
6046	.
6047	/
6048	0
6049	1
6050	2
6051	3
6052	4
6053	5
6054	6
6055	7
6056	8
6057	9
6058	Enter
6059	Num Lock

24.7. 拡張キーボード文字セット

Prefix/Suffix 値	キーストローク
3000	右 Ctrl
7001	Break
7002	Delete
7003	Page Up
7004	End
7005	Page Down
7006	Pause
7007	Scroll Lock
7008	Backspace
7009	Tab
7010	Print Screen
7011	Insert
7012	Home
7013	Enter
7014	Escape
7015	↑
7016	↓
7017	←
7018	→

25. 数字バーコード



0



1



2



3



4



5

数字バーコード (続き)



6



7



8



9



キャンセル

26. 英数記号バーコード

注 本項目内の数値バーコードは、パラメータ設定用の [25.数字バーコード](#) (288 ページ) とは異なります。



キャンセル



メッセージの終了



Null



スペース



#



\$

英数記号バーコード (続き)



%



* (アスタリスク)



+



- (ダッシュ)



. (ドット)



, (カンマ)



/

英数記号バーコード (続き)



!



“ (ダブルクォーテーション)



&



‘ (シングルクォーテーション)



(



)



: (コロソ)

英数記号バーコード (続き)



; (セミコロン)



<



=



>



?



@



[

英数記号バーコード (続き)



\



]



^



_ (アンダースコア)



` (バッククォーテーション)

英数記号バーコード (続き)

注 [25.数字バーコード](#) (288 ページ) と混同しないようにしてください。



0



1



2



3



4



5

英数記号バーコード（続き）

注 [25.数字バーコード](#)（288 ページ）と混同しないようにしてください。



6



7



8



9

英数記号バーコード (続き)



A



B



C



D



E



F



G

英数記号バーコード (続き)



H



I



J



K



L



M



N

英数記号バーコード (続き)



O



P



Q



R



S



T



U

英数記号バーコード (続き)



V



W



X



Y



Z

英数記号バーコード (続き)



a



b



c



d



e



f



g

英数記号バーコード (続き)



h



i



j



k



l



m



n

英数記号バーコード (続き)



o



p



q



r



s



t



u

英数記号バーコード (続き)



v



w



x



y



z

英数記号バーコード (続き)



{



|



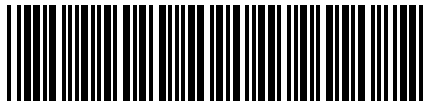
}



~

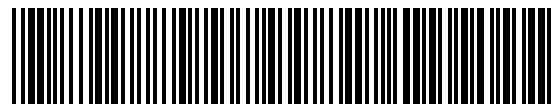
27. テストバーコード

Code 39 (チェックデジット付き)



UNITECHE

Code 39 (フル ASCII)



フル ASCII 有効 : _abc012

フル ASCII 無効 : %O+A+B+C012

Code 128



Unitech128

GS1-128



(01)1234567890128(30)12(17)191231

UPC-A



012345678905

UPC-E0

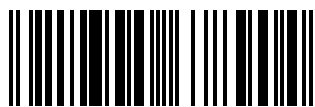


01234565

注 GS1 系バーコードの括弧の出力には対応しておりません。

テストバーコード (続き)

JAN-13



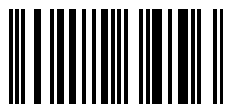
4912345678904

JAN-13 (先頭0)



0123456789012

JAN-8



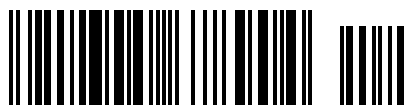
49123456

JAN-13 (5桁アドオン)



4912345678904 12345

JAN-13 (2桁アドオン)



4912345678904 12

Codabar (チェックデジット付き)



A22357000599877A

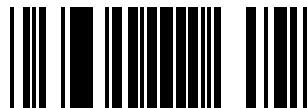
テストバーコード (続き)

Interleaved 2 of 5 (チェックデジット付き)



12345678901231

GS1 Databar Omnidirectional



(01)45512345678903

GS1 Databar 多層型



(01)45598706543219

GS1 Databar Limited




(01)04512345678906

GS1 Databar Limited (台紙が黒)



(01)04512345678906

 このバーコードはバーが白でスペースが黒の反転バーコードではありません。これは、バーは黒でスペースは白の標準バーコードの左右に空白（クワイエットゾーン）を加えたバーコードです。GS1 Databar の反転は規格外です。

GS1 Databar Expanded

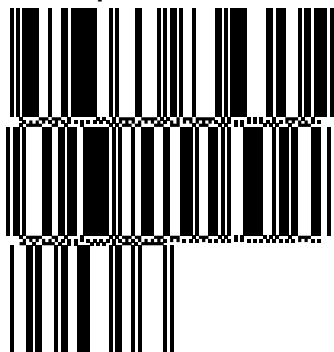


(01)95012345678903(3103)000123

注 GS1 系バーコードの括弧の出力には対応しておりません。

テストバーコード（続き）

GS1 Databar Expanded 多層型



(01)95012345678903(17)191231

日本郵便カスタマバーコード



10400331-5-19-8

合成シンボル CC-A

with GS1 Databar Limited



(01)04512345678906

(10)123ABC(17)191231


合成シンボル CC-A（台紙が黒）

with GS1 Databar Limited



(01)04512345678906

(10)123ABC(17)191231

 このバーコードはバーが白でスペースが黒の反転バーコードではありません。これは、バーは黒でスペースは白の標準バーコードの左右に空白（クワイエットゾーン）を加えたバーコードです。GS1 Databar の反転は規格外です。

注 GS1 系バーコードの括弧の出力には対応しておりません。

テストバーコード（続き）

PDF417



PDF417 SAMPL CODE 123

Micro PDF417



MicroPDF417 SAMPLE CODE ABC123

Data Matrix



Data Matrix Sample Code Regular

Data Matrix（反転）



Data Matrix Sample Code Reverse

QR コード



QR Code Sample Normal <http://jp.ute.com>

✎ 文字列が正しく表示されない場合は [9.1.キーボードレイアウト](#)（45 ページ）を見直してください。

テストバーコード（続き）

QR コード（反転）



QR Code Sample Reverse <http://jp.ute.com>

- ✎ 文字列が正しく表示されない場合は [9.1.キーボードレイアウト](#)（45 ページ）を見直してください。

マイクロ QR コード



Micro QR Code

Aztec コード



Aztec Code Sample Code